

Windows 98SE/Me/2000/XP 対応 株価分析ソフト

TELECHART

W
Ver. **4**

テレチャート・W

操作編

ユーザーズマニュアル

SYSTEC

ご注意

- 本ソフトウェアの著作権は、株式会社システックにあります。
 - 本ソフトウェアは日本国外では使用できません。
This TELECHART-W Ver.4 is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
 - 本ソフトウェアの複製はユーザー様が製品を使用するためにハードディスクへインストールする場合と保存(バックアップ)を行う場合に限りです。
 - 本ソフトウェア、マニュアルの仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。
 - 本ソフトウェアをご利用された結果から引き起こされる事態につきましては一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
 - 製品につきましては万全を期しておりますが、ご不審な点、お気づきの点、誤り等ございましたら、弊社ユーザーサポート係までご連絡いただきますようお願いいたします。
- 製品の取り扱いにつきましては、本マニュアルの内容を厳守していただきますようお願いいたします。

Windowsは米国マイクロソフトの商標商標です。

記載の会社名、商品名等は各社の商標または登録商標です。



テレチャート・W Ver. 4
ユーザーズマニュアル
【操作編】

操作編の読み方

ユーザーズマニュアル【操作編】では、テレチャート・Wを利用するための基本的な操作については解説されていません。各機能ごとのより応用的な操作だけを抽出して解説しています。各機能の概要および基本的な操作についてはユーザーズマニュアル【入門編】を参照してください。

このマニュアルに進む前にテレチャート・W Ver. 4のインストール（「テレチャート・W Ver. 4 ユーザーズマニュアル【インストール編】」参照）が正常に完了しているかどうかご確認ください。

もくじ

1. 株価ボード

1-1	値上がり順に並べる	8
1-2	値動きをアラームで知らせる	10
1-3	株価ボードのカスタマイズ	13

2. 株価チャート

2-1	株価チャートの画面構成	15
2-2	銘柄や足を切り換える	17
2-3	指標の種類や色を変更する	19
2-4	計算条件を変更する	21
2-5	チャートを詳しく見る	23
2-6	データリストを見る	28
2-7	トレンドラインを引く	31
2-8	株価チャートを印刷する	36

3. ザラバチャート

3-1	ザラバチャートの操作	40
-----	------------	----

4. 総合市況

4-1	総合市況を使ってみよう	43
4-2	総合市況のカスタマイズ	45

5. 分析

5-1	分析クエリーを使う	48
5-2	CSVファイルに変換する	52
5-3	ペイントビューとは?	54
5-4	分析データの印刷	55

6. 株式資産管理

6-1	株式資産管理を使う	57
6-2	銘柄ごとの売買履歴を見る	61
6-3	リスト内容の絞り込み	63
6-4	合算して決済する	65
6-5	分割して決済する	67

6-6	信用取引の決済	69
6-7	レコードを削除する	73
6-8	リストの並びを整理する	74
6-9	パスワードを設定する	75
6-10	画面のカスタマイズ	77
6-11	売買データの印刷	79
6-12	売買データのCSV変換	81
6-13	最新の株価で計算されない	83

7. データ取込

7-1	データ取込の流れ	86
7-2	自動でデータ取込を行うには	89
7-3	データ取込のカスタマイズ	92

8. 銘柄メンテナンス

8-1	エラー銘柄をメンテナンスしよう	95
8-2	独自銘柄を管理しよう	97
8-3	新規上場銘柄について	100

9. 銘柄グループ

9-1	銘柄をグループで管理しよう	102
9-2	メイン画面で作成・編集	107
9-3	銘柄グループの編集	110

10. 銘柄情報

10-1	銘柄の情報を確認しよう	116
------	-------------	-----

11. ホームページ

11-1	銘柄のホームページを表示しよう	119
11-2	アドレスの登録	120

12. ホームトレードボタン

- 12-1 ホームトレードボタンの有効活用 122
- 12-2 ホームトレードボタンの設定 123

13. データ管理

- 13-1 日々データを管理しよう 127
- 13-2 銘柄別データを管理しよう 136
- 13-3 週残データを管理しよう 151
- 13-4 信用残データを管理しよう 155

14. システム環境の変更

- 14-1 データフォルダを変更する 166
- 14-2 管理市場を変更する 169
- 14-3 印刷時の設定を変更する 171

15. データフォルダ

- 15-1 データフォルダ構成 173
- 15-2 日々データファイル 176
- 15-3 銘柄別データファイル 177
- 15-4 週残データファイル 180
- 15-5 信用残データファイル 181
- 15-6 銘柄辞書ファイル 183
- 15-7 データ変換ユーザー定義形式 185

16. 困ったときには

- 16-1 困ったときには 191



1. 株価ボード

1 手動ソートと自動ソート

株価ボードには、表示されている最新のデータを元に値上がり率の多い順に銘柄を並べ替える機能があります。手動で行う並べ替えを「手動ソート」、決まった時間間隔で自動的に行うのを「自動ソート」と言います。

2 並べ替えの条件

株価ボードでの並べ替え条件は、以下の項目のいずれかを昇順、降順のどれかで設定します。設定は「システム環境設定」ダイアログの「株価監視」で設定してください。

前日比・・・前日の終値と当日の現在値（終値）の差額
 当日比・・・当日の始値と当日の現在値（終値）の差額
 前日比率・・・前日の終値と当日の現在値（終値）の比率
 当日比率・・・当日の始値と当日の現在値（終値）の比率
 株価・・・当日の現在値（終値）
 出来高・・・当日の出来高

3 手動ソートの操作

前日比率で降順（大きい方から小さい方）に並べ替える操作の例を説明します。

1. 「システム環境設定」ダイアログの「株価監視」で「前日比率」と「降順」をチェックし、[OK] ボタンでダイアログを終了します。

※「システム環境設定」ダイアログは、「設定」メニューの「システム環境」で表示します。



2. ツールバーの[手動ソート] ボタンをクリックします。
 ※株価ボードの先頭（左上）の銘柄が一番値上がり率の大きい銘柄です。



3. 並びを元の市場・コード順に戻すには[元に戻す] ボタンをクリックします。
 ※任意に銘柄を並べ替えた銘柄グループが選択されていた場合は、銘柄グループの並びに戻ります。

4 自動ソートの操作

前日比率で昇順(小さい方から大きい方)に60秒間隔で自動的に並び替える操作の例を説明します。

1. 「システム環境設定」ダイアログの「株価監視」で[自動ソート]と[前日比率]、[昇順]をチェックして、[時間間隔]を“60”に設定します。
※「システム環境設定」ダイアログは、「設定」メニューの「システム設定」で開いてください。



2. [OK] ボタンでダイアログを閉じて、そのままお待ちください。60秒経過すると自動的に銘柄が並び変わります。
※株価ボードの先頭(左上)の銘柄が一番値下がり率の小さい銘柄です。
3. 自動ソートの解除は、もう一度「システム環境設定」ダイアログを表示して、[自動ソート]のチェックを外します。
※自動ソートの解除は、「設定」メニューの「株価ボード」→「自動ソート」クリックでも可能。



参考

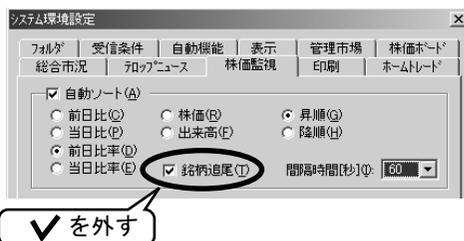
今は、自動ソート実行中？

現在、自動ソートが設定されているかどうかを確認するには、メイン画面下部の設定表示ランプの“ソート”を確認してください。青く表示されている場合は、自動ソート実行中です。



5 「銘柄追尾」とは？

手動ソート、自動ソートで銘柄の並び替えが発生した場合に、株価ボードは現在選択されている銘柄(銘柄名の背景が緑色)を画面の中央付近に表示させます。しかし、この機能が邪魔をして値上がり上位銘柄などの監視がしづらくなります。このような場合に[銘柄追尾]のチェックを外してください。以降は、選択されている銘柄を追いかけてなくなり、上位や下位の位置で静止させることができます。



1 監視アラームとは？

「注目している銘柄がいくらになったら買おう（売ろう）」と考えていても株価を絶えず監視するのは大変です。

このような場合は、監視アラームをご利用ください。監視アラームは、銘柄毎に株価の上値・下値を設定しおき、株価が設定した株価を超えた場合にアラーム音で知らせてくれます。

アラーム音は上昇・下降のそれぞれの音を設定できますので、音を聞き分ければ株価が上がったのか下がったのかがわかります。アラーム音はウェーブファイル(.wav)を採用していますので、お気に入りの音を設定することもできます。

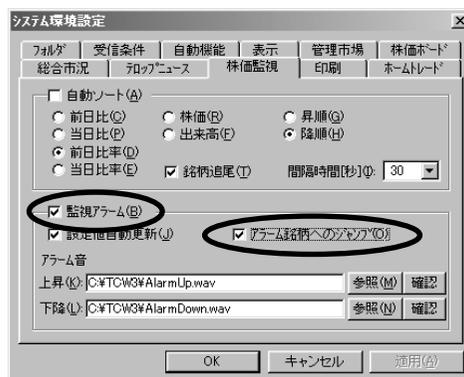
また、パソコンの前から少しの間離れるような場合でも、アラームの鳴った履歴を残しますので、後で確認することができます。

2 監視アラームの設定操作

操作例として平均株価が14700円より上げたら上昇アラームを、14600円より下げたら下降アラームが鳴るように設定してみましょう。

1. 「システム環境設定」ダイアログの「株価監視」で「監視アラーム」と「アラーム銘柄へのジャンプ」をチェックして、[OK] ボタンでダイアログを終了します。

※「システム環境設定」ダイアログは、「設定」メニューの「システム環境」で開いてください。



2. 株価ボードで「平均株価」をクリックして選択します。

※銘柄名の背景が緑色のとき、選択された状態です。

3. ツールバーの[銘柄情報] ボタンをクリックして、「銘柄情報」ダイアログを表示します。



4. [アラーム] をチェックしてから、[上昇アラーム] に“14700”、[下降アラーム] に“14600”とそれぞれ入力します。

※数字は必ず半角の数字を入力してください。



5. [OK] ボタンで「銘柄情報」ダイアログを閉じて、株価が変動するのを待ちください。

※監視アラームの設定された銘柄は、[監視アラームランプ] (紫色) が点灯します。



参考

アラーム音はするけど、どの銘柄かがわからない！

[アラーム銘柄へのジャンプ]にチェックするのを忘れてはいませんか？
この設定をしておくと、アラーム音の鳴った銘柄の画面へジャンプします。

注意!

同時に設定できる銘柄数は？

同時にアラーム設定する銘柄数の制限はありません。しかし、あまりにたくさんの銘柄を設定すると、どの銘柄のアラーム音なのかかわからなかったり、同時に条件を満たしてしまいアラーム音が鳴らないなどのトラブルの元ですので、10～20銘柄程度の登録数にとどめてご利用ください。

3 設定値自動更新とは？

設定値自動更新とは、簡単に言えば高値（安値）更新のみアラームが鳴るようにする設定です。仕組みは、株価が「銘柄情報」で設定したアラーム値を超えた場合に、その株価を新しいアラーム値として設定します。この設定によって、最初に設定したアラーム値を2回目に越えても現在のアラーム値を越えなければ、アラーム音は鳴りません。

例えば、最初の上昇アラーム値を500円に設定して、510円になったら1回目のアラームが鳴ります。このときに上昇アラーム値は510円に更新され、たとえ株価が一旦500円に戻し再び510円になってもアラームは鳴りません。次にアラームが鳴るのは、510円を越えたときです。

4 監視アラームの履歴を見る

監視アラームのもう一つの機能として、アラーム音の鳴った銘柄は「監視アラームログ」に銘柄名、時間、株価などが記録されます。

「監視アラームログ」を見るためには、アイコンバーの[監視アラームログ表示]ボタンをクリックして、「監視アラームログ」ダイアログを表示してください。



監視アラームログ表示

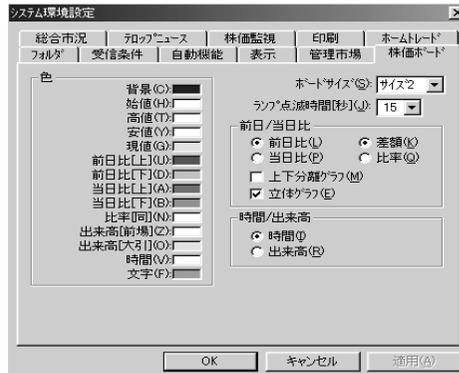
市場	銘柄名	時刻	設定値	更新値	上下	データ数
東1	1332, 日水	, 確定	, 170,	176,	上昇	5
東1	1601, 帝石	, 確定	, 600,	589,	下降	上昇データ数
東1	1810, 松井建	, 確定	, 300,	284,	下降	3
東1	1813, 不動建	, 確定	, 110,	112,	上昇	下降データ数
東1	1820, 西松建	, 確定	, 350,	354,	上昇	2

履歴削除(D)

終了

1 システム環境設定

株価ボードの表示色や表示内容の変更は、「システム環境設定」ダイアログの[株価ボード]で行ってください。「システム環境設定」ダイアログは、「設定」メニューの「システム設定」で開いてください。



背景・・・株価ボードの背景色
 始値・・・始値の文字色
 高値・・・高値の文字色
 安値・・・安値の文字色
 現値・・・現在値の文字色
 前日比[上]・・・前日比上昇時の文字色
 前日比[下]・・・前日比下降時の文字色
 当日比[上]・・・当日比上昇時の文字色
 当日比[下]・・・当日比下降時の文字色
 比率[同]・・・比の変化無しの文字色
 出来高[前場]・・・前場の出来高(確定前)
 出来高[大引]・・・大引けの出来高(確定後)
 時間・・・時間の文字色
 文字・・・文字情報の文字色

ボードサイズ・・・株価ボードのサイズの大・中・小の切換
 ランプ点灯時間[秒]・・・株価変更時のランプ点滅時間を1～60秒で設定する
 前日比/当日比・・・比表示の前日比・当日比の切換
 差額/比率・・・比表示の差額(円)・比率(%)の切換
 上下分離フラグ・・・比率棒グラフを上下部に分け上を上昇、下を下降に表示する
 立体グラフ・・・比率棒グラフを3D風に表示する
 時間/出来高・・・時間・出来高の切換



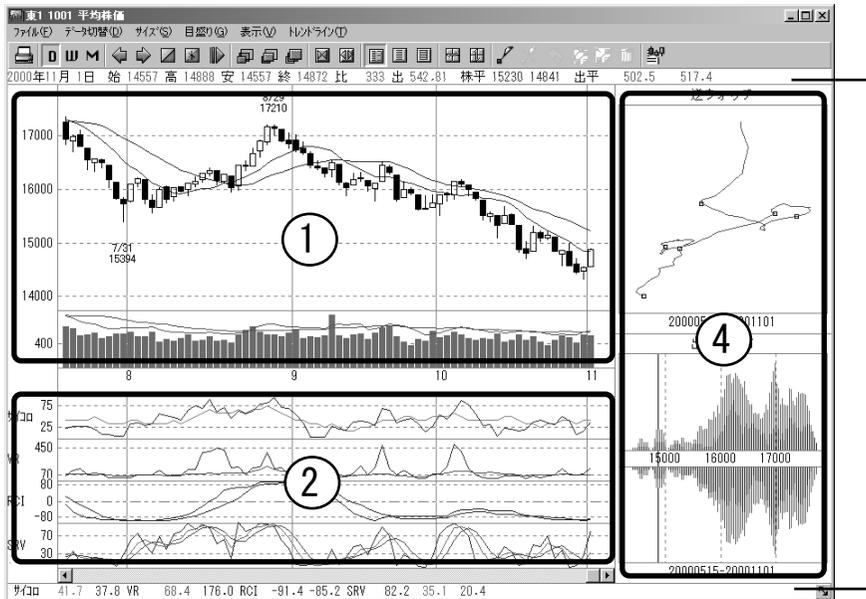
2. 株価チャート

1 4つのビュー領域

株価チャート画面には、大きく分けて4つの表示領域があります。

- 株価と出来高の目盛りによって表示する「プライスビュー」
- 各種指標を表示する「オシレータビュー」
- 数値データを表示する「データビュー」
- 株価と出来高の関係を表す「ウォッチビュー」

これらの表示領域は、画面サイズや表示する指標の種類、フレキシブルビューやシングルビュー機能によって、サイズが変わります。



3

3

● 各ビュー領域に表示される項目

- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ プライスビュー ローソク足 株価変化マーク 止め足 株価移動平均 新値足 カギ足 一目均衡表 出来高グラフ 出来高変化マーク 出来高移動平均 トレンドライン | <ul style="list-style-type: none"> ・ オシレータビュー サイコロジカルライン 株価カイリ率 ボリュームレシオ RSI RCI ストキャスティクス 出来高カイリ率 信用残 | <ul style="list-style-type: none"> ・ データビュー 日付、4本値、前日比、出来高、株価移動平均、出来高移動平均、オシレータビューに表示される指標のデータ ・ ウォッチビュー 逆ウォッチ曲線 出来高分布グラフ |
|---|---|--|

2 フレキシブルビュー機能

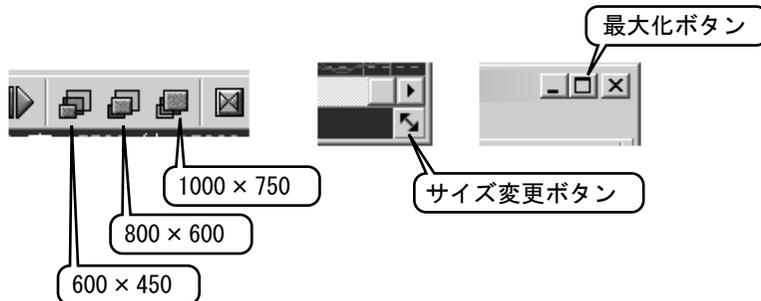
フレキシブルビュー機能とは、プライスビューとオシレータビューの境界にある日付の領域を上下に移動することによってそれぞれのビュー領域のサイズを変更するものです。操作は、マウскарソルを日付の領域に移動し上下にドラッグします。
※操作方法については、『入門編 株価チャートを表示しよう』を参照してください。

3 シングルビュー機能

シングルビュー機能とは、オシレータビュー領域に表示された指標のどれか1つをオシレータビュー領域全体に表示させる拡大機能です。拡大したい指標のグラフ上にマウскарソルを移動させ、ダブルクリックしてください。元に戻すときは、もう一度グラフ上でダブルクリックしてください。
※操作方法については、『入門編 株価チャートを表示しよう』を参照してください。

4 画面サイズの変更

画面サイズ(ウィンドウサイズ)は、画面右下のサイズ変更ボタンをドラッグすることで任意の大きさに変更することができます。(最大化されているときは、ボタンが表示されません)また、ツールボタンに用意されているボタンをクリックすることで、あらかじめ決められたサイズに変更することができます。(画面の解像度および、デスクトップ領域が規定値に満たないサイズへは変更できません)



5 チャート画面とリスト画面

株価チャートには、グラフを表示するチャート画面とデータのみを表示するリスト画面の2枚の構成になっています。画面の切替は、ツールバーの[チャート・リスト切り替え]ボタンをクリックしてください。

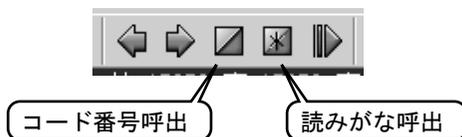


1 コードや読みがなで呼び出す

テレチャート・Wの共有の機能である「コード番号呼出」や「読みがな呼出」機能を株価チャート画面でも利用できます。株価チャート画面で実行した場合は、株価ボード画面に表示されている銘柄のみです。(銘柄グループが選択されているときは、銘柄グループに登録されている銘柄のみです)

ツールバーの[コード呼出]・[読みがな呼出]ボタンをクリックするとそれぞれの「呼出」ダイアログが表示されますので、4桁のコード番号や読みがなを入力して目的の銘柄を呼びだしてください。(半角英数入力の状態です。キーボードの[/]キーで「コード番号呼出」、[*]キーで「読みがな呼出」を表示することもできます)

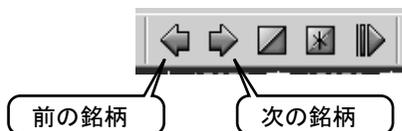
呼び出しの機能については『入門編 目的の銘柄を呼び出そう』を参照してください。



2 前・次の銘柄に切換える

ツールバーの[前の銘柄]・[次の銘柄]ボタンをクリックすることで、株価ボードに表示されている並び順で、前の銘柄や次の銘柄に切り替えることもできます。

(キーボードの[Page Up]キーで[前の銘柄]、[Page Down]キーで[次の銘柄]へ切り替えることもできます)



3 自動で次の銘柄に切換える

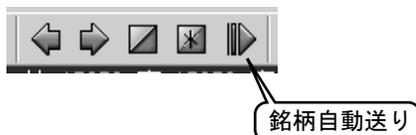
自動銘柄送り機能を有効にしておけば、[次の銘柄]の操作をしなくても自動的に次の銘柄に切り替えてくれます。次々と切り替わる銘柄を眺めながら、投資する銘柄を探すときに便利です。

この機能を有効にするには、ツールバーの[銘柄自動送り]ボタンをクリックしてください。

(キーボードの[+]キーでも操作可能です)

この機能を無効にするときは、画面上をマウスでクリックしたり、キーボードのスペースキーを押して停止させてください。

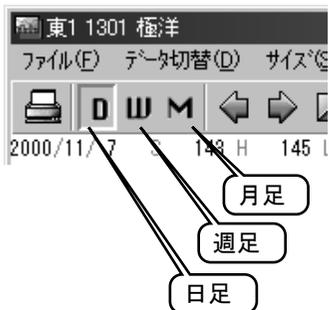
銘柄を送る間隔は、秒単位で設定することができます。設定は、「株価チャート表示設定」ダイアログの[その他]の[自動銘柄送り時間]で設定してください。



4 「足」を切替える

株価チャートには、日足・週足・月足のそれぞれのチャートがあり、ボタン操作によって切り換えます。

※操作方法については、『入門編 株価チャートを表示しよう』を参照してください。



1 株価チャート画面での変更

株価チャート画面に表示させる指標の追加や色の変更は、基本的に「株価チャート表示設定」ダイアログで行ってください。

「株価チャート表示設定」ダイアログの他に、種類の変更だけならメニューからの方法やショートカットキーでの素早く変更できる方法も利用できます。

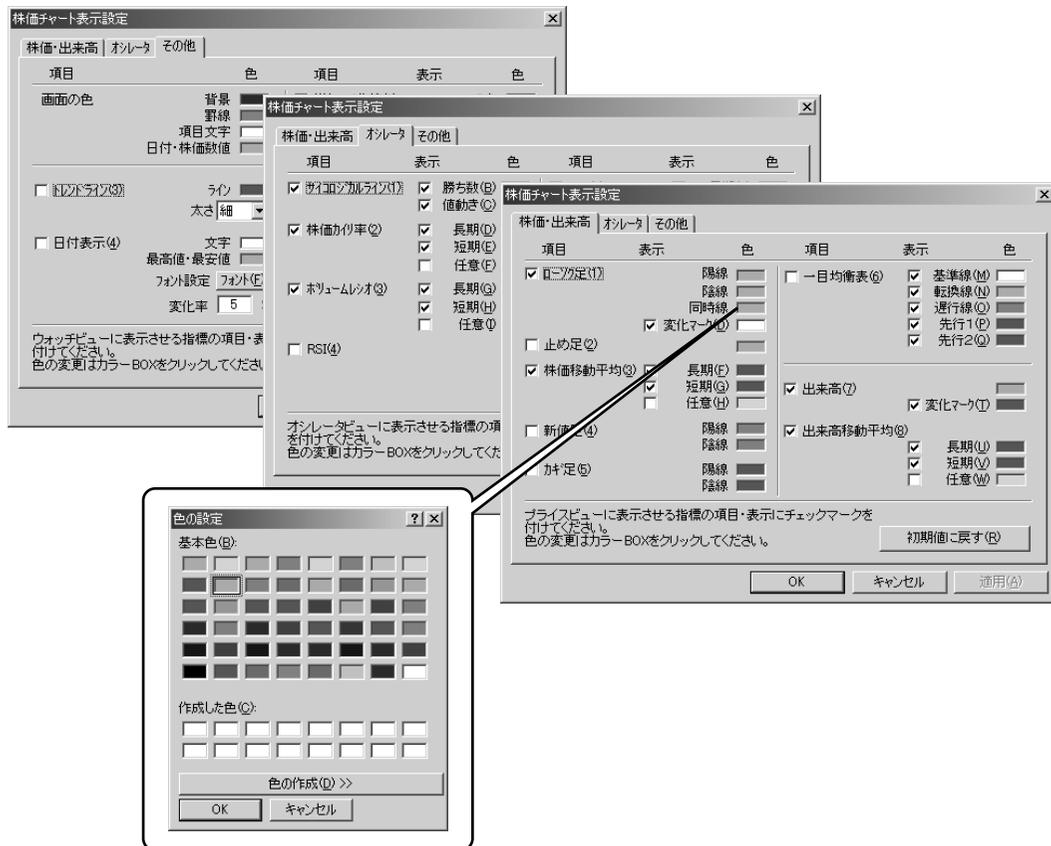
ただし、株価チャート画面で変更した内容は、その画面だけの設定となり、画面を閉じれば最初の設定に戻ります。表示する指標の種類を固定させるには、メイン画面での変更を行ってください。

● 「株価チャート表示設定」での変更

「株価チャート表示設定」ダイアログの表示は、「表示」メニューの「表示設定」をクリックしてください。

「株価チャート表示設定」ダイアログは、[株価・出来高]、[オシレータ]、[その他]の3つの画面に分かれています。表示させる指標には、それぞれの[項目]と[表示]にチェックを入れる必要があります。

各指標の右側にあるカラーボックスをクリックすることで、任意の色に変更することができます。



●メニューでの変更

「表示」メニューの「株価」、「出来高」、「オシレータ」、「その他」メニューで、この指標を追加したり消したりすることができます。メニューの前にチェックの付いているものが現在表示されている指標です。



●ショートカットキーでの変更

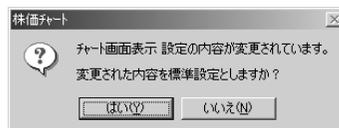
各指標は、キーボードのショートカットキーに割り当てられています。キー操作で素早く指標を表示させることができます。

ローソク足・・・F1	サイコロジカルライン・・・1	逆ウオッチ曲線・・・Q
止め足・・・F2	株価カイリ率・・・2	出来高分布・・・W
株価移動平均・・・F3	ボリュームレシオ・・・3	
新値足・・・F4	RSI・・・4	
カギ足・・・F5	RCI・・・5	
一目均衡表・・・F6	ストキャスティクス・・・6	
出来高グラフ・・・F7	出来高カイリ率・・・7	
出来高移動平均・・・F8	信用残・・・8	

参考

株価チャート画面で設定した内容を標準設定に反映させるには？

「株価チャート表示設定」ダイアログで設定を変更した場合は、株価チャート画面を閉じる際に「変更された内容を標準設定としますか？」のメッセージが表示されますので、[はい] ボタンをクリックしてください。

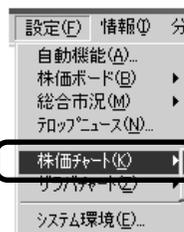


2 メイン画面での変更

株価チャートの表示する指標の種類や色をあらかじめメイン画面で設定しておくことができます。メイン画面で設定した内容は、標準設定として保存されますので、株価チャート画面を表示する際の最初の表示状態となります。したがって、次回テレチャート・W起動時でも同様の設定でチャート画面を見ることができます。

操作は、メイン画面の「設定」メニューの「株価チャート」→「チャート表示設定」の順にクリックして、「株価チャート表示設定」ダイアログで設定してください。

設定後の内容は、新しく表示された株価チャート画面から反映されます。



1 株価チャート画面での変更

1. 「表示」メニュー>「計算条件設定」の順にクリックします。
2. 「計算条件設定」ダイアログが表示されますので、変更する指標の枠に数字を入力します。
※株価チャートに日足が表示されているときは日足の「計算条件設定」ダイアログが表示されます。(足に応じて変わります)

	長期	短期	任意		任意
株価移動平均(E)	20	10	15	株価変化率(L)	3
出来高移動平均(Q)	20	5	10	出来高変化率(L)	3
ボリュームレシオ(D)	20	5	10	新値足(M)	3
RC(E)	21	17	15	加足 [変化率](N)	10
サイコジカルライン(E)			12	一目均衡表	
値動きサイコジカルライン(Q)			6	[基準日数](Q)	26
RSI(H)			10	[換日(日数)](Q)	9
スタキステウス				[履行日数](Q)	26
[Kライン](Q)			5	[先行日数](Q)	26
[Dライン](Q)			3	逆ウォッチ曲線(I)	120
				出来高分布(Q)	120

日足の計算期間(日数)を設定します。
この設定は、株価チャート表示や検索・並べ替えの計算期間として
利用されます。

初期値に戻す(R)

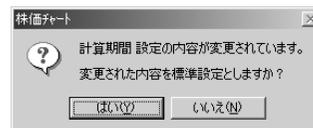
OK キャンセル 適用(A)

3. [OK] ボタンをクリックして、「計算条件設定」ダイアログを終了します。
※「計算条件設定」ダイアログが閉じると全ての指標が再計算され、計算結果のグラフを表示します。



株価チャート画面で設定した内容を分析クエリーに反映させるには？

株価チャート画面で計算条件設定を変更した場合は、株価チャート画面を閉じる際に「変更された内容を標準設定としますか？」のメッセージが表示されますので、[はい] ボタンをクリックしてください。しかし、計算条件は分析を行うための基本的な条件ですので、変更する際は十分注意してください。



2 分析クエリーでの変更

計算条件は、分析クエリーの中で定義されている内容です。現在選択されている分析クエリーの計算条件を変更することで、株価チャート上の計算条件も変更されます。

操作は、メイン画面の「分析」メニューの「計算条件」をクリックして「計算条件設定」ダイアログで任意の足の条件を設定してください。

計算条件設定についての詳細は、『分析編』マニュアルや分析に関するページを参照してください。



注意! チャートでの分析値と分析データの数値が合わない!?

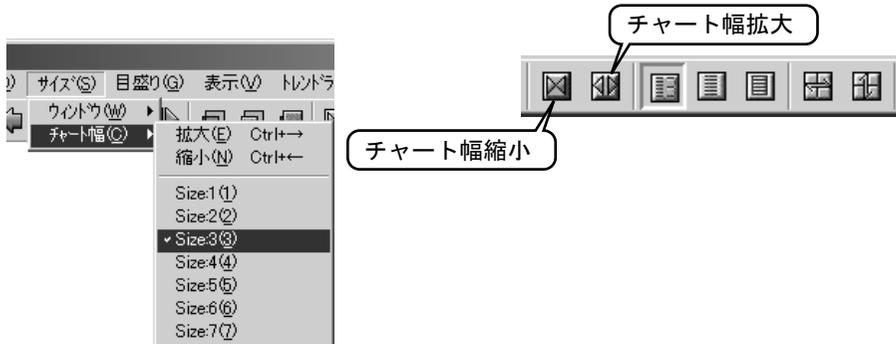
株価チャート画面で計算条件を変更すると、メイン画面の「分析データ」で表示される数値が合わなくなります。これは、株価チャートでは、計算条件の変更に伴い即再計算が実行されますが、「分析データ」は銘柄数が多いため「分析クエリー実行」や「計算」によってのみ再計算されます。計算条件を分析データに反映させるためには場合は、分析データを再計算させる必要があります。

1 チャート幅を変更する

株価チャートのチャート幅(日足の時の一日分の幅)は7段階で変更することができます。幅を大きくする場合は[チャート幅拡大]ボタン、幅を小さくする場合は[チャート幅縮小]ボタンをそれぞれクリックしてください。

その他、「サイズ」メニューの「チャート幅」から直接サイズを指定する方法やキーボードの[Ctrl]+[→]キーで拡大、[Ctrl]+[←]で縮小させることもできます。

尚、このチャート幅は、印刷時にも影響しますので、印刷したときに小さくて見づらい時は幅を広げてください。



2 株価の目盛りを固定する

通常、ローソク足など上下の変動が大きいものは、画面に表示できる期間を画面の領域いっぱいに表示できるように、表示する期間によって株価目盛りを自動的に変動させます。(「変動モード」) この方法は、ローソク足を詳しく見るためには有効な表示方法ですが、株価レベルの相対的な比較をするのには向いていません。

このような場合は、画面を横にスクロールさせても株価目盛りを固定させる「全体固定モード」をご利用ください。

また、「変動モード」で現在表示されている目盛りに固定する「固定モード」も利用できます。

● 変動モード

株価チャートを開いたときには、常にこのモードです。このモードは、表示可能な期間の株価データから目盛りを自動的に割り出します。したがって、常に表示エリア全体を使って表示されます。反面、スクロールや画面サイズの変更によって目盛りが変更されますので、全体を見通す場合や相対的に比較する場合には適していません。

出来高も同じように表示可能期間で目盛りを割り出します。

変動モードに設定するには、ツールバーの[目盛り変動]ボタンをクリックしてください。



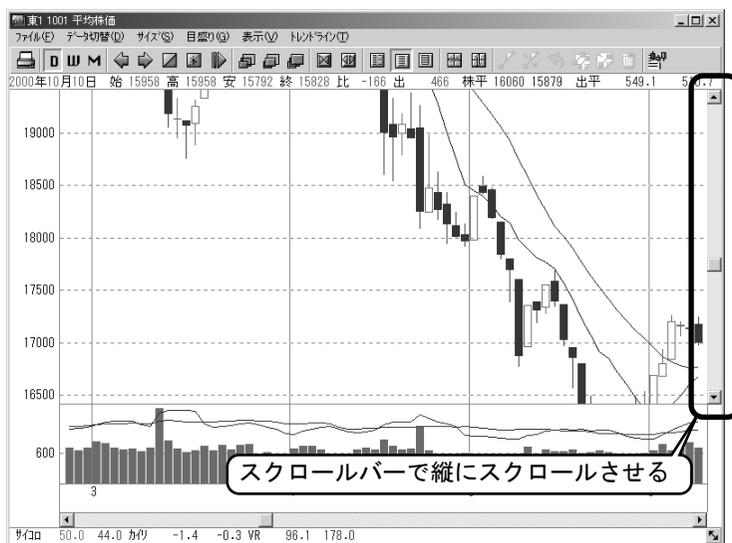
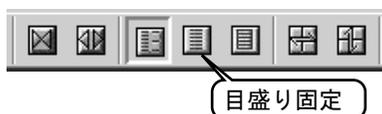
●固定モード

変動モードで表示されている目盛りで固定し、スクロールしても目盛りは変更しません。横スクロールによって見えなくなってしまう領域は、縦スクロールで表示領域を上下にスクロールさせることで表示できます。

目盛りが固定されますので、過去のデータとの株価水準を比較することや、変動の少ない期間で目盛りを固定し、変動の多いところへスクロールすればチャート拡大の効果もあります。

このモードは株価表示エリアのみに有効ですので、出来高については変動モードと同様に表示されます。

固定モードに設定するには、ツールバーの[目盛り固定]ボタンをクリックしてください。

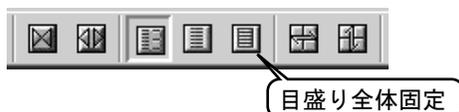


●全体固定モード

記録されている全期間のデータから目盛りを割り出します。したがって、スクロールして表示期間を変更しても固定された目盛りで表示されますので、長期間の株価動向を確認するために有効です。

出来高も同じように全期間のデータから目盛りを割り出します。

全体固定モードに設定するには、ツールバーの[目盛り全体固定]ボタンをクリックしてください。





株価の変動が大きすぎてローソク足が見にくい銘柄は

変動モードを設定して、値動きの大きな銘柄を表示すると、ローソク足がとても細かく表示され、見にくくなってしまいます。

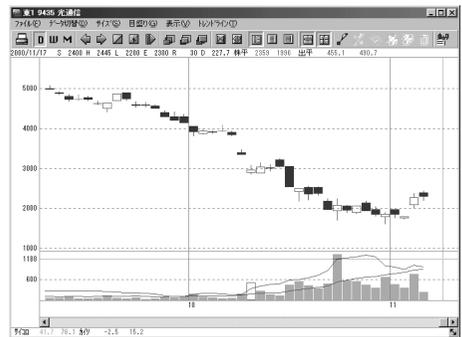
このような場合は、以下のようにしてローソク足を表示することができます。

ただし、データの期間が短い場合は正常に表示できないことがあります。



1. ウィンドウ幅を小さくしたり、チャート幅を拡大します。この作業を行うことによって、表示領域内の日数を減らします(表示期間を短くします)。

右図は表示幅を拡大したところです。



2. 表示される日数が少なくなると、変動率が小さくなり、ローソク足が見やすくなります。この状態で、[目盛り固定] ボタンをクリックし、固定モードに設定します。

3. ウィンドウの幅を広げたり、チャート幅を縮小し、データの表示期間を多くします。

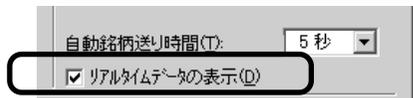
右図は、表示幅を縮小し、1. と同じ状態に設定しています。



4. 縦スクロールが必要になりますが、ローソク足は正常に表示されます。

3 立ち会い中のデータを表示させない

株価ボードに当日の株価が表示されている時は、チャートの右端は受信された最新のデータが表示されますが、立ち会い中のデータは変動するため場合によっては見づらくなることもあります。このような場合は、「株価チャート表示設定」ダイアログの「リアルタイムデータの表示」のチェックを外してください。



4 高値・安値を表示する

株価の変換点の日付と株価が一目でわかるようにする機能です。

日付が表示される条件は以下のようになります。

まず、各日付の始値と終値の平均値を求めます。そして、チャートの最初の日付を最初の基準点とし、最初の日付の平均値から設定された変化率（変化率は任意に変更可能）以上に株価が上下した日付を次の基準点とします。この間（基準点と基準点の間）にある最高値または最安値を日付とともに表示します。以降、同様に次の基準点を探し、最高値または最安値表示を行います。

また、チャート期間内の最高値と最安値は、青色の文字（文字色は任意に変更可能）で表示されます。値動きやチャート幅が小さいときには、日付表示が重なり見にくくなることがあります。このような場合には、変化率を大きくしたり、チャート幅を大きくしてください。

● 設定変更の操作

変化率の変更、日付機能の表示・非表示を切り替え、文字色・フォントの変更を行います。

1. 「表示」メニュー→「表示設定」の順にクリックして、「株価チャート表示設定」ダイアログを表示します。
2. 「その他」タブをクリックして、「文字」の色や、「変化率」など任意に設定します。
※変化率の欄には「半角」で1から99までの数値を入力してください。それ以外の場合に変更が無効になります。



3. [OK] ボタンをクリックして、「株価チャート表示設定」を終了します。

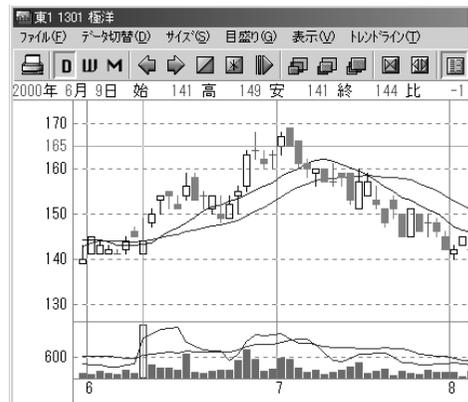


5 カーソルを表示する

株価チャートには水平と垂直の2種類のカーソルを表示できます。

水平カーソルは、水平方向に移動する縦の線で、キーボードの[←]・[→]キーやマウスクリックで移動します。データビューの日付や各指標の数値データは水平カーソル位置の情報になります。また、ウォッチビューの指標も水平カーソル位置を基準に表示されます。

垂直カーソルは、垂直方向に移動する横の線で、キーボードの[↑]・[↓]キーやマウスクリックで移動します。垂直カーソルはプライスビューとオシレータビューの中を移動し、カーソル位置のデータを目盛り領域に表示します。



注意! 垂直カーソルの数値と目盛りが違う!?

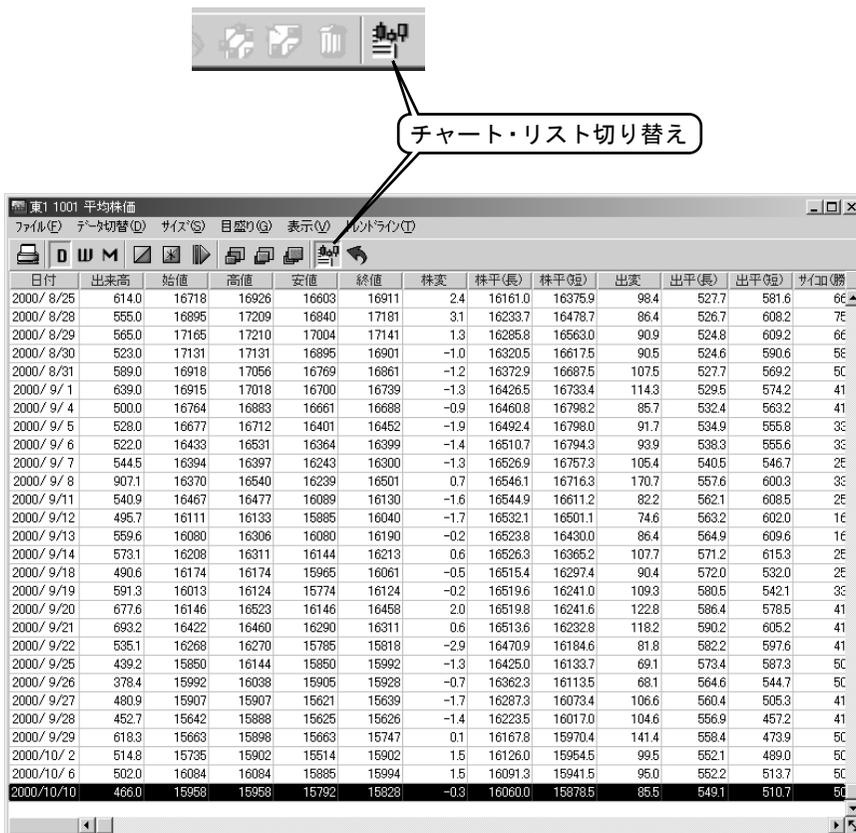
垂直カーソル位置の数値と目盛り上の数値が、計算上の誤差によって食い違うことがありますので、垂直カーソル位置の数値は参考としてご利用ください。

1 データリストに切替える

株価チャートは、チャート画面とリスト画面の2枚で構成されます。

リスト画面には選択されている銘柄の日付ごとの株価、出来高、指標の計算結果などをリスト形式で表示します。表示されるリスト項目は、チャート画面に表示されている指標になります。(データビューに表示されている内容のリスト表示です)

チャート画面からリスト画面へ切り替えるのは、[チャート・リスト切り替え] ボタンをクリックしてください。元に戻す場合も、同じボタンをクリックしてください。



The image shows a software interface for viewing stock data. At the top, a toolbar contains several icons, including a button labeled 'チャート・リスト切り替え' (Chart/List Toggle). Below the toolbar is a data table with the following columns: 日付 (Date), 出来高 (Volume), 始値 (Open), 高値 (High), 安値 (Low), 終値 (Close), 株変 (Change), 株平(長) (Avg Price), 株平(短) (Avg Price), 出実 (Volume), 出平(長) (Avg Price), 出平(短) (Avg Price), and サイロ(勝) (Win/Loss Ratio). The table displays data for various dates from 2000/8/25 to 2000/10/10.

日付	出来高	始値	高値	安値	終値	株変	株平(長)	株平(短)	出実	出平(長)	出平(短)	サイロ(勝)
2000/8/25	6140	16718	16926	16603	16911	2.4	16161.0	16375.9	98.4	527.7	581.6	66▲
2000/8/28	555.0	16895	17209	16840	17181	3.1	16233.7	16478.7	86.4	526.7	608.2	75▲
2000/8/29	565.0	17165	17210	17004	17141	1.3	16285.8	16563.0	90.9	524.8	609.2	66▲
2000/8/30	523.0	17131	17131	16895	16901	-1.0	16320.5	16617.5	90.5	524.6	590.6	58▲
2000/8/31	589.0	16918	17056	16769	16861	-1.2	16372.9	16687.5	107.5	527.7	569.2	50▲
2000/9/1	639.0	16915	17018	16700	16739	-1.3	16426.5	16733.4	114.3	529.5	574.2	41▲
2000/9/4	500.0	16764	16883	16661	16688	-0.9	16460.8	16798.2	85.7	532.4	563.2	41▲
2000/9/5	528.0	16677	16712	16401	16452	-1.9	16492.4	16798.0	91.7	534.9	555.8	30▲
2000/9/6	522.0	16433	16531	16364	16399	-1.4	16510.7	16794.3	93.9	538.3	555.6	30▲
2000/9/7	544.5	16394	16397	16243	16300	-1.3	16526.9	16757.3	105.4	540.5	546.7	25▲
2000/9/8	907.1	16370	16540	16239	16501	0.7	16546.1	16716.3	170.7	557.6	600.3	30▲
2000/9/11	540.9	16467	16477	16089	16130	-1.6	16544.9	16611.2	82.2	562.1	608.5	25▲
2000/9/12	495.7	16111	16133	15885	16040	-1.7	16532.1	16501.1	74.6	563.2	602.0	16▲
2000/9/13	559.6	16080	16306	16080	16190	-0.2	16523.8	16430.0	86.4	564.9	609.6	16▲
2000/9/14	573.1	16208	16311	16144	16213	0.6	16526.3	16365.2	107.7	571.2	615.3	25▲
2000/9/18	490.6	16174	16174	15965	16061	-0.5	16515.4	16297.4	90.4	572.0	532.0	25▲
2000/9/19	591.3	16013	16124	15774	16124	-0.2	16519.6	16241.0	109.3	580.5	542.1	30▲
2000/9/20	677.6	16146	16523	16146	16458	2.0	16519.8	16241.6	122.8	586.4	578.5	41▲
2000/9/21	693.2	16422	16460	16290	16311	0.6	16513.6	16232.8	118.2	590.2	605.2	41▲
2000/9/22	535.1	16268	16270	15785	15818	-2.9	16470.9	16184.6	81.8	582.2	597.6	41▲
2000/9/25	439.2	15850	16144	15850	15992	-1.3	16426.0	16133.7	69.1	573.4	587.3	50▲
2000/9/26	378.4	15992	16038	15905	15928	-0.7	16362.3	16113.5	68.1	564.6	544.7	50▲
2000/9/27	480.9	15907	15907	15621	15639	-1.7	16287.3	16073.4	106.6	560.4	505.3	41▲
2000/9/28	452.7	15642	15888	15625	15626	-1.4	16223.5	16017.0	104.6	556.9	457.2	41▲
2000/9/29	618.3	15663	15898	15663	15747	0.1	16167.8	15970.4	141.4	558.4	473.9	50▲
2000/10/2	514.8	15735	15902	15514	15902	1.5	16126.0	15964.5	99.5	552.1	489.0	50▲
2000/10/6	502.0	16084	16084	15885	15994	1.5	16091.3	15941.5	96.0	552.2	513.7	50▲
2000/10/10	466.0	15958	15958	15792	15828	-0.3	16060.0	15878.5	86.6	549.1	510.7	50▲

2 ハイ & ローで色分けする

「分析クエリ」で定義されているハイ&ローの設定によってデータリスト上に色付けすることができます。

データリストにハイポイントやローポイントの色付けによって、過去のどの時期に条件を越えたかが一目でわかるようになります。

1. 「表示」メニュー→「表示設定」の順にクリックしてください。
2. 「株価リスト表示設定」ダイアログが表示されますので、[ハイ & ローカラー] をチェックします。



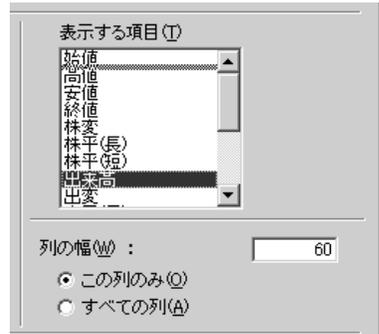
3. [OK] ボタンをクリックして、「株価リスト表示設定」ダイアログを終了します。

日付	株平(長)	株平(短)	出売	出平(長)	出平(短)	サイロ(勝)	サイロ(値)	株加付(長)	株加付(短)	VR(長)	VR(短)
2000/6/7	143.8	143.1	159.0	225.1	156.4	33.3	57.1	0.2	0.6	55.0	74.2
2000/6/8	143.8	143.0	87.7	221.9	165.8	41.7	69.2	0.9	1.4	64.5	84.6
2000/6/9	143.9	143.2	921.7	252.1	431.6	41.7	44.4	0.1	0.6	52.7	21.4
2000/6/12	144.1	143.6	60.6	263.1	482.8	41.7	76.9	4.1	4.5	59.4	46.5
2000/6/13	144.6	144.8	45.2	273.0	521.2	50.0	87.5	6.5	6.4	71.2	70.3
2000/6/14	145.3	146.2	39.5	282.1	532.2	41.7	93.8	6.0	5.3	75.0	58.7
2000/6/15	145.4	146.8	73.4	275.8	552.2	41.7	73.3	3.8	2.9	59.1	43.9
2000/6/16	146.1	148.1	251.0	293.0	387.6	50.0	78.9	6.7	5.3	88.7	398.8
2000/6/19	146.4	149.2	39.9	286.6	343.4	41.7	71.4	4.5	2.5	75.3	210.2
2000/6/20	146.8	150.5	40.7	286.6	311.6	50.0	62.5	4.9	2.3	79.4	181.5
2000/6/21	147.9	151.5	61.9	296.9	294.8	50.0	50.0	4.6	1.7	85.7	188.9

3 リスト項目の並べ替え

リスト画面に表示する項目の並びを変更することができます。例えば、株価よりも出来高を最初の列に表示させるなどの変更です。

1. 「表示」メニュー→「表示設定」の順にクリックし、「株価リスト表示設定」ダイアログを表示させます。
2. 「表示する項目」で項目を上下の任意の位置にドラッグします。
3. [OK] ボタンをクリックして、「株価リスト表示設定」ダイアログを終了します。



4 数値の大小でソートする

データリストは、リスト項目をクリックすることで、その項目の数値の順にリストを並べ替えます。例えば、[株価カイリ率長期] で数値が一番大きかった日を確認したいときなどは、リスト項目の [株価カイリ率長期] をクリックしてください。リストが昇順 (小→大) 並び変わります。もう一度クリックすることで、降順 (大→小) へ並び変わります。元の日付順の並びへ戻すときは、ツールバーの [並べ替えを戻す] ボタンをクリックしてください。



1トレンドラインの概要

トレンドラインは、チャート画面のプライスビュー上に表示します。ラインは各チャートにつき10本まで作成することができます。チャートの期間より古い日付を含んだラインは表示できません。すでに存在するトレンドラインの日付が、チャートの期間よりも古くなってしまった場合、そのトレンドラインは削除されます。

2新しいトレンドラインの描画

トレンドラインを新規に描画します。トレンドラインは、各チャートに10本まで作成することができます。

1. ツールバーの[作成]ボタンをクリックします。
※マウスカーソルが鉛筆の形に変わります。



2. 始点から終点までをドラッグします。
※始点でマウスの左ボタンをクリックし、そのまま終点までマウスをドラッグします。終点が決まりましたら、左ボタンを離します。



3 トレンドラインの移動

すでに存在するトレンドラインを平行移動させます。

1. ツールバーの[選択]ボタンをクリックします。



2. 移動させるトレンドラインをドラッグしてください。
※移動させるトレンドラインの上にマウスカーソルを合わせると、マウスカーソルの形が変わりますので、そこでマウスの左ボタンをクリックしたまま移動させてください。



4 始点と終点の位置を変える

すでに存在するトレンドラインの始終点を変更します。

1. ツールバーの[選択]ボタンをクリックします。



2. トレンドラインの端をドラッグしてください。
※トレンドライン両端の上にマウスカーソルを合わせると、マウスカーソルの形が変わりますので、そこでマウスの左ボタンをクリックしたまま移動させてください。



5 元に戻す

トレンドラインの操作を誤った場合、最後の動作をキャンセルすることができます。

1. ツールバーの[元に戻す]ボタンをクリックします。
※元に戻せるのは最後の操作のみです。



6 コピーとペースト

すでに存在するトレンドラインと同じものをもう一つ作成します。

1. ツールバーの[選択]ボタンをクリックします。



2. コピーするトレンドラインを選択します。
※トレンドラインの上にマウスカーソルを合わせると、マウスカーソルの形が変わりますので、そこでマウスの左ボタンをクリックしてください。線の両端に四角が付けばその線が選択されたことになります。

3. ツールバーの[コピー]ボタンをクリックします。



4. ツールバーの[ペースト]ボタンをクリックします。
※この操作でトレンドラインは、2本になります。



5. ペーストされたトレンドラインは任意の位置へ移動させてください。

7トレンドラインを消す

必要の無くなったトレンドラインを削除します。

1. ツールバーの[選択]ボタンをクリックします。



2. 削除するトレンドラインを選択します。
※トレンドラインの上にマウスカーソルを合わせると、マウスカーソルの形が変わりますので、そこでマウスの左ボタンをクリックしてください。線の両端に四角が付けばその線が選択されたことになります。

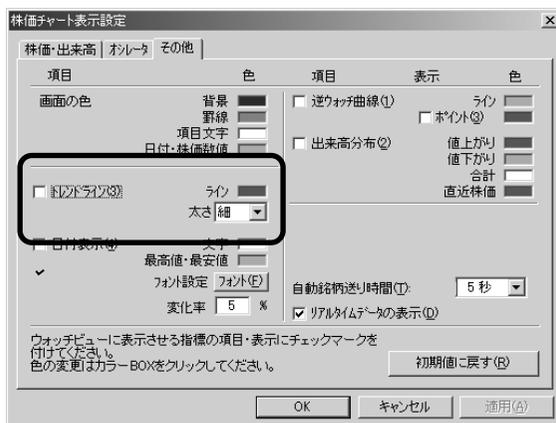
3. ツールバーの[削除]ボタンをクリックします。



8 線の太さや色を変更する

トレンドラインの線の太さ、および色を変更することができます。

1. 「表示」メニュー→「表示設定」の順にクリックし、「株価チャート表示設定」ダイアログを表示します。
2. 「その他」タブをクリックして、「ライン」の色や、「太さ」を任意に設定してください。

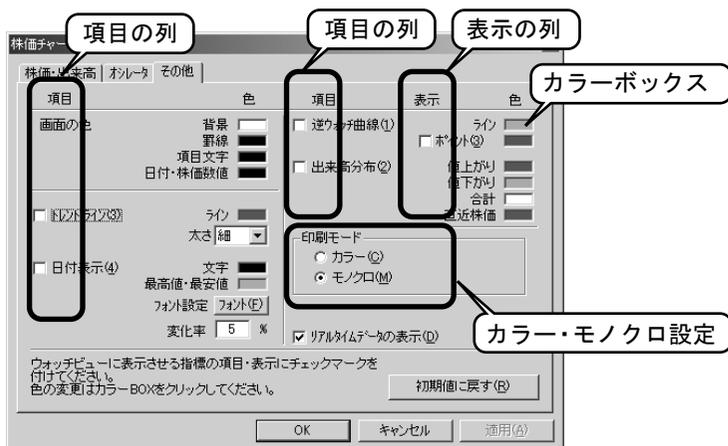


3. [OK] ボタンをクリックして、「株価チャート表示設定」を閉じてください。

1 印刷色を設定する

株価チャートを印刷する場合は、カラーやモノクロなど印刷色の設定や連続印刷時の印刷する指標の種類などを設定する必要があります。

1. 「ファイル」メニュー→「印刷色設定」の順にクリックしてください。
2. 「株価チャート印刷設定」ダイアログが表示されますので、印刷する指標の「項目」と「表示」にチェックして、カラーボックスで色を設定します。
 ※印刷の場合は、背景は必ず白になりますので、印刷したときに見やすい色に設定してください。
 ※カラーの場合は「カラー」を選択して、各カラーボックスの色を設定してください。白黒の場合は、「モノクロ」の選択だけで結構です。



2 見ているチャートを印刷する

「個別印刷」は、株価チャート画面から印刷操作を行ったときに処理される印刷方法で、印刷される内容は、画面に表示されている指標が印刷されます。ただし、カラーモードの印刷は、「株価チャート印刷設定」ダイアログで設定された色で印刷されます。株価チャートを見ながら、現在のチャートを印刷したいときにご利用ください。

1. ツールバーの [印刷] ボタンをクリックします。



2. 「印刷」ダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

3 複数の銘柄を連続で印刷する

複数の銘柄を連続で印刷したい場合に「連続印刷」をご利用ください。
「連続印刷」は、メイン画面の銘柄リストや株価ボードで印刷する銘柄を選択して実行させます。
印刷する指標の種類や色は、「株価チャート印刷設定」ダイアログで設定された内容になります。

1. メイン画面を「銘柄リスト」に切り換えます。

2. 印刷する銘柄を選択します。

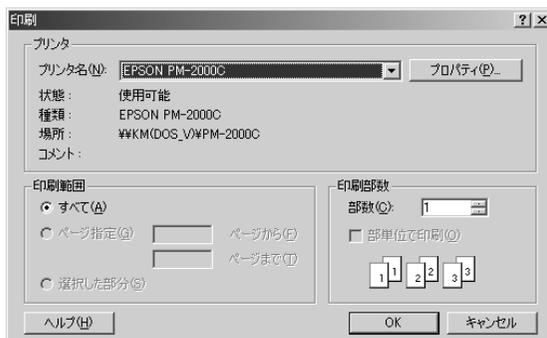
※銘柄の選択は、キーボードの [Ctrl] キーを押しながら、マウスで目的の銘柄をクリックしてください。銘柄名の背景色がピンクや黄色に変わったら選択されたことになります。
※一度に印刷できるのは20銘柄までです。選択は20銘柄までに止めてください。



3. メイン画面で「グループ」メニュー→「株価チャート連続印刷」の順にクリックします。



4. 「印刷」ダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



注意! 印刷結果が画面の色と違う!?

お使いになるプリンタの種類や機種によって、色の出方が少しずつ違います。赤が黄色で出力されるなど、大きく違わなければそのプリンタの特性と考えられます。また、紙面の色と画面の色は必ずしも同じではありません。



参考

用紙方向を横で印刷するには？

印刷方法などの設定は、お使いのプリンタに付属のデバイスドライバのプロパティで設定します。プロパティの表示は、「印刷」ダイアログの[プロパティ]ボタンをクリックすることで呼び出されます。プロパティ内の設定はお使いのプリンタに付属の説明書を参照してください。



3. ザラバチャート

1 ザラバチャートの基本操作

ザラバチャートの目的は、刻々と変化する立ち会い中の株価をグラフ化して、一日の値動きを確認することです。

ザラバチャートのデータは、平日の午前9時～午後3時の立ち会い中にテレチャート・Wを起動していれば、新しいデータが受信される度に追加されていきます。(受信を停止させたり、ザラバデータを記録しないように設定した場合は記録されません。) データは、現在値とその値を付けた時間が記録されます。チャートとして表示されるのは、直近の3日間です。

ザラバチャートの基本操作については、『入門編 ザラバチャートを表示しよう』を参照してください。

・表示方法

『入門編 ザラバチャートを表示しよう「1. ザラバチャートの見かた」』

・チャートサイズの変更

『入門編 ザラバチャートを表示しよう「2. ザラバチャートのサイズ変更」』

・目盛りの変更

『入門編 ザラバチャートを表示しよう「3. 目盛り比率の変更」』

・チャート幅の変更

『入門編 ザラバチャートを表示しよう「4. チャート幅の変更」』

・終了方法

『入門編 ザラバチャートを表示しよう「5. ザラバチャートを閉じる」』

2 リスト表示と印刷

● リスト表示

ツールバーの[リスト表示]ボタンをクリックしてください。「ザラバデータ表示」ダイアログが表示されます。記録されたザラバデータを数値で確認することができます。



ザラバデータ表示

年/月/日	時分	株価
2000/11/17	15:00	14544
2000/11/17	14:55	14550
2000/11/17	14:47	14543
2000/11/17	14:39	14557
2000/11/17	14:31	14487
2000/11/17	14:22	14497
2000/11/17	14:14	14462
2000/11/17	14:06	14467
2000/11/17	13:58	14448
2000/11/17	13:50	14451
2000/11/17	13:41	14474
2000/11/17	13:33	14490
2000/11/17	13:25	14490

閉じる 印刷(P)

リスト印刷

● リストの印刷

ツールバーの [リスト表示] ボタンをクリックしてください。「ザラバデータ表示」ダイアログが表示されます。[印刷] ボタンをクリックしてください。「印刷」ダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックすると記録されているザラバデータがリスト形式で印刷されます。

● チャートの印刷

ツールバーの [チャート印刷] ボタンをクリックしてください。「印刷」ダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックすると表示されているザラバチャートが印刷されます。



3 表示設定の変更

ザラバチャートの表示設定の変更は、「ザラバチャート設定」ダイアログで行います。

1. メイン画面で「設定」メニュー→「ザラバチャート」→「チャート環境設定」の順にクリックします。
2. 「ザラバチャート設定」ダイアログが表示されます。



3. 各項目の設定後に [OK] ボタンをクリックして、「ザラバチャート設定」ダイアログを終了します。

※設定した内容は、新しく開くザラバチャートから有効になります。

[ザラバデータの記録]・・・ザラバチャートの記録・未記録を設定します。記録しない場合は、チェックを外します。

[ウィンドウサイズ]・・・ウィンドウのサイズを設定します。

[株価目盛り比率]・・・目盛り比率を AUTO、10%、5%、2.5%、1%のいずれかに設定します。

[チャート色]・・・チャート表示色モードを設定します。

[グラフの種類]・・・グラフの種類をカギ線、折れ線のどちらかに設定します。

[チャートの圧縮表示]・・・チャートの広さを1日幅、2日幅のどちらかに設定します。

[グラフポイントを付ける]・・・グラフ上にデータポイントを付けます。



4. 総合市況

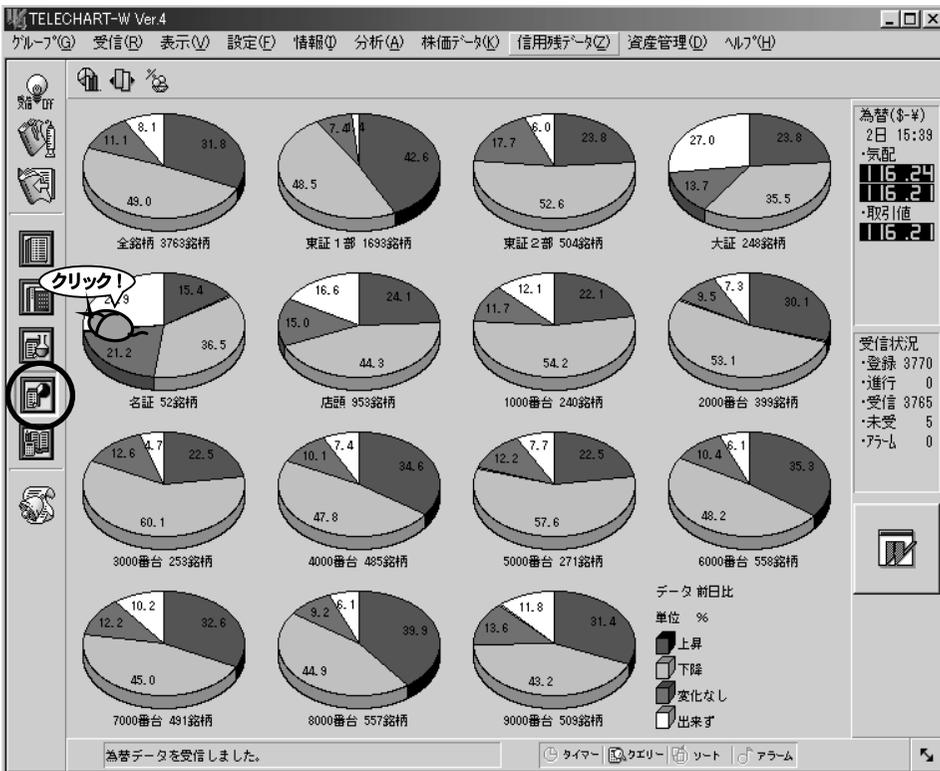
1 総合市況とは

総合市況は円グラフまたは棒グラフによって、現在の市場の動向を判断できるようにします。市場毎のグラフと、非常に大まかですが業種毎の動向が判断できるように1000番区切りのグラフを表示します。1つのグラフには値上がり銘柄、値下がり銘柄、変化なし銘柄、出来ず銘柄の4種類に分類しています。

2 総合市況を表示する

1 [総合市況] ボタンをクリックします。

※「表示」メニュー>「総合市況」の順にクリックしてもOK。



参考

ショートカットキーでも

キーボードの「F4」キーを押しても表示されます。

3 グラフを拡大しよう

特定のグラフを拡大し、前日比率、当日比率の2つのグラフを表示します。

1. 拡大表示するグラフをダブルクリックします。

※ダブルクリックするたびに切り替わります。

参考

元の画面に戻すには
画面上をもう一度ダブルクリックします。

4 グラフを印刷しよう

1. 印刷する画面を表示します。

※一覧表示画面を表示中に印刷を実行すると全てのグラフを、拡大表示画面を表示して印刷を実行すると選択されたグラフのみを印刷します。

2. 画面上でマウスを右クリックし、ポップアップメニューを表示します。

3. 「印刷」をクリックします。

拡大表示(L)	一覧表示(L)
前日比グラフ(G)	円グラフ(C)
円グラフ(C)	銘柄数表示(P)
銘柄数表示(P)	印刷(P)
印刷(P)	

1 更新頻度、表示色を変更しよう

総合市況ではグラフの更新頻度、グラフの表示色を変更することが出来ます。

1. 「設定」メニュー「システム環境」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」が表示されます。
3. 「総合市況」タブをクリックします。

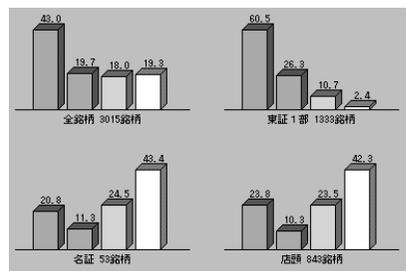
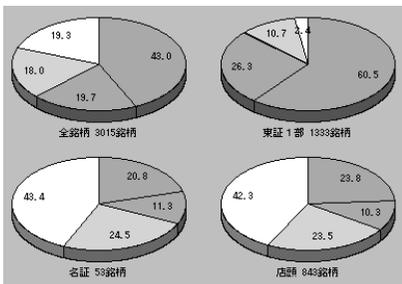
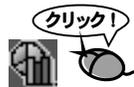


4. 更新頻度を変更するには、「グラフ更新間隔」を変更します。
5. 表示色を変更するには、「色」項目内の各表示色を変更します。
6. [OK] ボタンをクリックして終了します。

2 グラフを切り替えよう

円グラフと棒グラフを切り替えます。

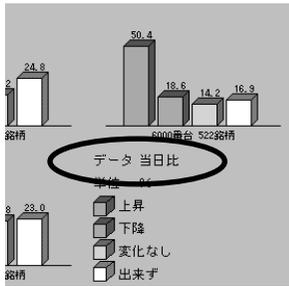
1. [円／棒グラフ] ボタンをクリックします。
※クリックするたびに切り替わります。



3 表示データを切り替えよう

前日比率または当日比率でグラフを書き換えます。

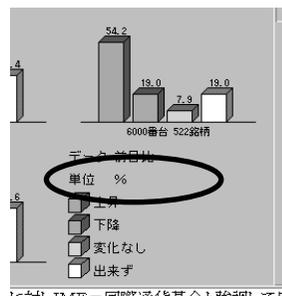
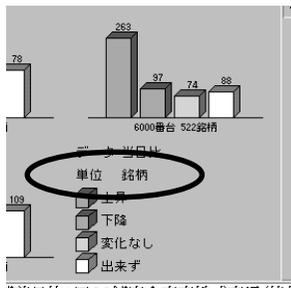
1. [前／当日比] ボタンをクリックします。
※クリックするたびに切り替わります。



4 表示単位を切り替えよう

グラフの単位を「銘柄数」と「パーセント」に切り替えます。

1. [パーセント／銘柄数] ボタンをクリックします。
※クリックするたびに切り替わります。





5. 分析

1 分析クエリーの概要

分析クエリーとは、指標の計算、検索、ランキングなど、銘柄を絞り込むための全ての条件を一つにまとめた分析条件ファイルです。

分析クエリーは、ファイルとして名前を付けて保存が可能です。したがって、計算条件や検索条件の違う複数の条件ファイルを作成することができ、それを読み込むことによって分析条件を置き換えることが可能です。また、分析クエリーに含まれる計算条件は、株価チャートの計算条件としても利用されます。

分析クエリーに含まれる条件項目

- ・計算条件（日足、週足、月足）
- ・検索条件（日足、週足、月足）
- ・ハイ＆ロー（日足、週足、月足）
- ・ランキング（全足共通）
- ・リスト項目（全足共通）

条件の設定された分析クエリーは、任意の名前を付けて保存できます。分析を実行するときは、目的の分析クエリーを読み込み、「分析クエリー実行」によって“計算”、“検索”、“ハイ＆ロー”、“ランキング”の一連の作業を実行させることができます。実行結果は、「分析データ」画面にリストアップされます。

● 計算条件

各指標ごとの計算条件（日数や比率など）を設定する。この計算条件を元に指標ごとの計算結果を求め分析データとしてリスト表示したり、株価チャートのグラフを表示する際の計算条件となります。

● 検索条件

計算条件を元に計算された結果から、指標ごとに銘柄を絞り込むための条件を設定します。検索条件は、指標単独でも複数でも構いません。

例えば、「株価カイリ率の計算値が大きい銘柄だけを検索する」など、特定の条件で銘柄を絞り込むときに設定します。

● ハイ＆ロー

検索条件は銘柄を絞り込むために利用しますが、ハイ＆ローは指標ごとのハイポイント、ローポイントを設定します。ハイポイントよりも数値が大きかったり、ローポイントよりも数値が小さかったときに設定した色で表示して、分析データリストを見やすくするための機能です。

● ランキング

計算結果の数値を元に銘柄を昇順・降順のいずれかで並べ替える機能です。設定する指標は、リスト項目の中のいずれか1つです。

● リスト項目

分析データリストに表示させる指標の種類を設定します。検索条件やハイ＆ローの対象指標もリスト項目で選択された指標に限られます。

2 分析クエリーの操作

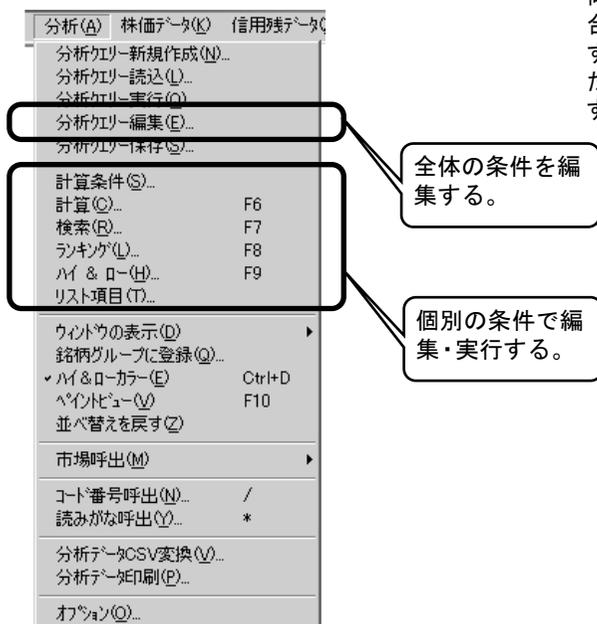
分析クエリーの基本的な操作方法については、『入門編 投資銘柄を絞り込もう』に操作手順がありますので、そちらを参照してください。

- ・読み込み
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「2. 分析クエリーを読み込む」』
- ・実行
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「3. 分析クエリーを実行しよう」』
- ・新規作成
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「4. 分析クエリーを作ってみよう」』
- ・保存
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「5. 分析クエリーを保存する」』
- ・設定条件の編集
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「6. 分析クエリーの設定を変更しよう」』
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「7. 計算条件の変更」』
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「8. 検索条件の変更」』
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「9. ハイ＆ローの設定変更」』
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「10. ランキング条件の変更」』
『入門編 投資銘柄を絞り込もう「11. リストに表示する指標を選択・並び替える」』

3 分析クエリーの編集

分析クエリーの条件変更など内容の編集は、「分析クエリー編集」ダイアログで全体を編集する方法と、メニューから個別の条件を編集する方法のどちらからでも実施することが可能です。

尚、メニューから各条件設定を個別に実施した場合は、同時にその条件で実行させることができます。例えば、「検索」メニューで検索条件を変更した場合、ダイアログの[OK]ボタンをクリックすることで、検索作業を実行することができます。



4 分析クエリー実行時の注意

● 検索対象銘柄は？

分析クエリーの検索を実行する際の対象銘柄は、分析データ画面にリストアップされている銘柄が対象となります。例えば、銘柄グループで東証1部を選択していた場合は、東証1部の銘柄のみから銘柄を抽出します。また、違う検索条件で2回続けて検索を実行する場合、2回目の検索対象銘柄は、1回目に抽出された銘柄です。

● 計算対象銘柄は？

計算対象銘柄は、常に登録されている全銘柄です。

● 検索の優先順位は？

検索はアンド検索ですので、優先順位はありません。複数の指標を検索条件にした場合、全ての条件を満たす銘柄のみが抽出されます。たくさんの指標を検索条件に登録したり、数値の条件が厳しくすれば、それだけ抽出される銘柄数は少なくなります。

● ランキングの優先順位は？

ランキングは単独の指標で数値を比較し、同じ数値の場合は、市場→コード番号の順になります。(市場は、東証1部→東証2部→大証→名証→店頭の順です)

● 分析クエリーと計算結果ファイル

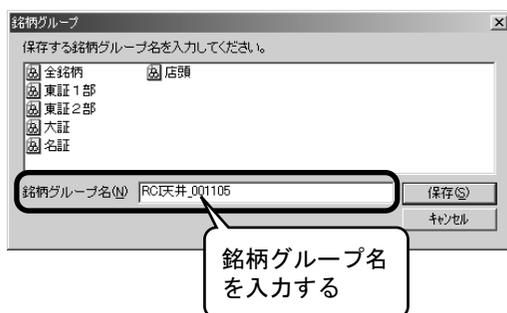
分析クエリーは分析のための各種条件を記録するだけのファイルです。計算結果ファイルは各足ごとに1つずつ作成されます。分析クエリーの中に計算結果を記録するわけではありません。したがって、別の分析クエリーを読み込んで計算を実行したときに、前の計算結果は上書きされ消えます。

● 株価チャートの数値と分析データの数値が合わない？

計算条件を変更したときは、計算を実行するようにしてください。計算を実行しない場合は、正確な計算結果を把握できなくなる恐れがあります。また、株価チャートは常に最新の計算条件でグラフを作成しますので、分析データの数値との食い違いが発生します。

5 検索した銘柄で銘柄グループを作る

1. 検索を実行します。
2. 「分析」メニュー→「銘柄グループに登録」の順にクリックします。
3. 「銘柄グループ」ダイアログが表示されるので、「銘柄グループ名」に名前を入力します。
※グループ名には判りやすい名前を設定してください。例えば、検索条件と日付を合わせて、“RC I天井_001105”のように、後で識別できるような名前にしてください。



4. [保存] ボタンをクリックして、「銘柄グループ」ダイアログを終了します。銘柄グループリストに作成したグループ名が追加されます。



1 CSVファイルとは？

CSVファイルは、Microsoft社のエクセルなど、表計算ソフトで読み込み可能なテキストファイルです。(別に、“カンマ区切りテキスト”とも呼ばれています。)このファイルを表計算ソフトに読み込むと、データ1つ1つをセルに挿入します。

分析クエリーで作成した計算結果のデータをCSVファイルに変換することで、表計算ソフトで利用することができます。

尚、テレチャート・Wの機能は、CSVファイルへ変換するところまでです。表計算ソフトへの読み込み方法は、お使いのソフトのマニュアルを参照してください。また、データの使用方法については、利用される方ご自身でご確認ください。

2 CSVファイルに変換する

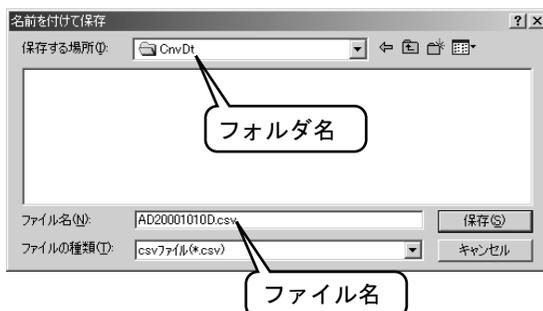
1. 分析データ画面に計算結果の数値が表示されていることを確認してください。

※計算結果がない場合は、変換できません。

2. 「分析」メニュー>「分析データCSV変換」の順にクリックします。

3. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、ファイル名を入力します。

※予め規定されたファイル名が表示されます、このファイル名ままで良ければファイル名の入力はありません。「保存する場所」は記録先のフォルダ名です。必要に応じて設定してください。尚、ファイル名と「保存する場所」は、忘れないようにメモなどを残しておいてください。



4. [保存する場所]とファイル名の設定が終わったら、[保存]ボタンをクリックします。

5. エクセルには図のように読み込まれます。
 ※読み込み方法は、エクセルのマニュアルを参照してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
1	TELECHART-W分析データ20001010日足											
2	市場	コード	銘柄名	株価	出来高	株価のり長	株価のり短	サイコロシカ	ラ	値動きサイコ	ホリ	ムレシホリ
3	東1	1001	平均株価	15828	466	-2.1	-0.7	50	44	96.1	17	
4	東1	1002	TOPIX	1483	466	-0.2	0.1	50	54.2	105.6	17	
5	東1	1301	極洋	135	156	-4.5	-3.6	41.7	18.2	48.9	4	
6	東1	1331	ニチロ	162	167	-1.8	-1.6	41.7	36.4	57.4	64.	
7	東1	1332	日水	177	189	-4.1	-2.7	41.7	33.3	110.4	109.	
8	東1	1333	マルハ	122	601	-5	-4.1	33.3	21.4	65.1	40.	
9	東1	1351	宝華水	65	43	-6.8	-4.4	41.7	30	76.9	48.	
10	東1	1352	ハウスイ	90	4	0.9	0.3	41.7	45	129.9	126.	
11	東1	1377	サカタのタネ	2075	28	-0.5	-0.6	41.7	52.6	130.7	53.	
12	東1	1379	ホクト産	3620	25.1	11.5	7.2	58.3	62.3	130.1	217.	
13	東1	1501	三井山	94	179	-0.4	-1.4	25	50	77.4	172.	
14	東1	1503	住友炭	76	27	-2.7	-4	25	28.6	123.3	55.	
15	東1	1515	日鉄鉱	212	64	-1.0	-8.6	25	23.5	65.7	37.	
16	東1	1518	三松島	156	51	-4.1	-3.4	33.3	36	70.4	138.	
17	東1	1601	帝石	473	590	5.4	2.5	33.3	60.3	166.2	89.	
18	東1	1603	アラ石	345	81.5	-5.4	-2.3	33.3	32.1	53.7	80.	
19	東1	1661	ガス開	505	26	-0.3	-1.9	41.7	38.5	202.8	7	
20	東1	1780	ヤマウラ	371	3.5	2.3	-0.4	41.7	50	194	19	
21	東1	1786	オリエン建	389	48.4	0.6	0.6	50	60	138.7	19	

1 ペイントビューとは？

ペイントビューとは、ハイ&ローで色付けされた分析データリストを見やすくするための機能です。分析データリストを横方向に縮小して色の分布を判りやすく表示します。

2 ペイントビューの実行と解除

1. ハイ&ローを実行して、リスト上に色付けします。

※ハイ&ローの実行は、「分析」メニューの「ハイ&ロー」をクリックして、ダイアログの[OK]ボタンをクリックします。

2. 「分析」メニュー→「ペイントビュー」の順にクリックすると、ペイントビューが実行されます。

2000年10月10日 日足	株価	出来高	株価加	株価減	株価加長期	株価加短期	サイジ加	サイジ減	サイジ加長期	サイジ加短期	サイジ減長期	サイジ減短期				
計算期間(日数)					24	12	12	6	20	5	10	21	17	5	3	3
検索条件				上昇												
ハイ&ロー条件					↑200	↓200	↑75	↓45	↑45	↑80	↑80	↑70	↑10	↑50		
ラネの条件																
1 6349 小倉コボ	1509	4300	..	103	122	583	95	902	510	794	-141	-16	100	92	1252	..
1 6351 鶴見製	509	000	..	-14	-24	417	467	1517	706	432	332	1.8	321	-26	00	下降
1 6354 ひたきでん	365	900	..	-55	-44	417	349	1075	1409	345	-675	-75.8	00	-30	771	..
1 6355 住友糖	371	3800	..	1.4	08	750	462	1494	9750	486	285	396	625	04	1562	..
1 6358 清井重	218	2800	..	-50	-53	333	217	934	1090	289	56	-206	00	-42	494	上昇
1 6361 荏原製	1599	4300	..	02	-11	417	497	1511	1414	440	523	189	320	-08	899	..
1 6362 石井鉄	196	300	..	-17	-44	417	333	811	889	426	559	313	250	-26	450	..
1 6363 西島	492	1200	..	-42	-47	333	388	1000	917	370	100	236	00	-55	1385	..
1 6366 千代化	84	9400	上昇	-23	-26	417	273	491	331	467	-105	500	00	-23	1194	..
1 6367 ダイキン工	2290	6300	..	92	101	667	831	1315	1326	648	-127	89	529	42	1161	..
1 6368 オルガ	471	2200	上昇	06	01	583	500	959	939	554	226	730	559	-10	629	下降
1 6369 トーヨーカ	104	2800	..	-68	-50	417	308	1006	752	250	838	-744	00	-34	1333	..
1 6370 栗田工	2000	5100	..	-47	-25	500	398	839	931	252	-795	-78.9	333	24	758	上昇
1 6371 糖本手	365	9200	..	-68	-54	417	366	717	856	319	-361	-33.6	00	-50	3154	..
1 6373 大同工	257	1000	..	-09	-21	500	512	1695	957	433	274	-12	368	-15	536	..
1 6374 TCM	320	7400	..	07	-12	500	344	1010	575	500	677	602	308	-17	1531	..
1 6375 日コンベヤ	87	5200	..	-85	-51	333	278	417	488	292	-91.8	-86.6	400	-15	912	上昇
1 6376 日糖	566	7200	..	-43	-40	417	217	867	621	346	-46.9	-33.7	00	-27	1220	..

3. もう一度「分析」メニュー→「ペイントビュー」の順にクリックすると、ペイントビューが解除されます。

2000年10月10日 日足	株価	出来高	株価加	株価減	株価加長期	株価加短期	サイジ加	サイジ減	サイジ加長期	サイジ加短期	サイジ減長期	サイジ減短期
計算期間(日数)					24	12	12	6	20			
検索条件				上昇								
ハイ&ロー条件					↑200	↓200	↑200	↓200	↑750	↓250	↑750	↓250
ラネの条件									↑4500	↓7		
1 6349 小倉コボ	1509	34300	..	103	122	583						
1 6351 鶴見製	509	000	..	-14	-24	417						
1 6354 ひたきでん	365	900	..	-55	-44	417						
1 6355 住友糖	371	3800	..	1.4	08	750						
1 6358 清井重	218	2800	..	-50	-53	333						
1 6361 荏原製	1599	54300	..	02	-11	417						
1 6362 石井鉄	196	300	..	-17	-44	417						
1 6363 西島	492	1200	..	-42	-47	333						
1 6366 千代化	84	29400	上昇	-23	-26	417						
1 6367 ダイキン工	2290	46300	..	92	101	667						
1 6368 オルガ	471	2200	上昇	06	01	583						
1 6369 トーヨーカ	104	12800	..	-68	-50	417						
1 6370 栗田工	2000	15100	..	-47	-25	500						
1 6371 糖本手	365	49200	..	-68	-54	417						
1 6373 大同工	257	1000	..	-09	-21	500						
1 6374 TCM	320	7400	..	07	-12	500						
1 6375 日コンベヤ	87	15200	..	-85	-51	333						

1 印刷の実行

1. 分析データ画面に計算結果の数値が表示されていることを確認してください。
2. 「分析」メニュー→「分析データ印刷」の順にクリックします。
3. 「印刷」ダイアログが表示されるので、[OK]をクリックします。
※プリンタの設定や用紙の方向を設定する場合は、このダイアログで実施してください。



2. 「印刷ページ確認」ダイアログが表示されるので、印刷するページ数を確認して、[OK] ボタンをクリックします。印刷が開始されます。





6. 株式資産管理

1 株式資産管理の基本操作

株式資産管理の目的は、持ち株を売却した場合にどのくらいの損益があるかを知ることです。損益は、テレチャート・Wで管理されている常に最新の情報によって算出されます。損益算出に必要な、仕込の情報(どの銘柄?、何株?、単価は?、いつ?などの情報)や最新の税率、証券会社に支払う手数料率などは、利用者自身で管理されなければなりません。

操作の手順をよくマスターして、日頃の投資にお役立てください。

尚、基本的な操作に関する説明は、『入門編 持ち株を管理しよう』で説明されていますので、そちらを参照してください。操作編では、入門編に書かれていない操作方法を中心に解説します。

- ・税率の設定
『入門編 持ち株を管理しよう』2. 税率を設定しよう』
- ・手数料の設定
『入門編 持ち株を管理しよう』3. 新しい手数料フォームを作成しよう』
- ・売買データの新規作成
『入門編 持ち株を管理しよう』4. 売買データを作成しよう』
- ・仕込の入力
『入門編 持ち株を管理しよう』5. 現物買いを記帳しよう』
- ・決済の入力
『入門編 持ち株を管理しよう』6. 現物株を決済しよう』
- ・売買データの保存
『入門編 持ち株を管理しよう』7. 売買データを保存しよう』

2 総合リストと合計リスト

株式資産管理には取引ごとの売買記録を表示する総合リスト(個別リスト)と集計結果を表示する合計リストがあります。

合計リストには、総合リストに表示されている決済、保有レコードのそれぞれの合計と決済、保有レコードを合わせた合計の3種類のリストを表示します。個別リストにした場合や絞り込み条件でレコード数が絞り込まれているときは、その中での集計結果を表示します。“履歴”レコードは集計結果に含まれません。

申告分離課税を選択したレコードの損益額は、総合リストの場合はその取り引きのみでの概算値を表示させますが、合計リストでは対象レコードの中で申告分離課税が選択されているレコードのみを集計して申告税額と損益額を算出します。

No.	銘柄	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	東1 1983 日揮	決済	1,000	1999/10/24	現物買い	270	1999/07/20	現物売り	480	源泉	272,409	470,876	198,267
2	東1 1941 中電工	決済	1,000	2000/02/23	現物買い	1,300	2000/03/22	現物売り	1,590	源泉	1,310,710	1,580,616	249,906
8	東1 2579 コカウエスト	決済	500	2000/01/21	現物買い	3,896	2000/05/16	現物売り	3,626	申告	1,963,132	1,798,790	-164,342
4	東1 2281 プリマ	決済	2,000	2000/01/14	現物買い	173	2000/05/19	現物売り	155	申告	343,088	307,234	-41,854
5	東1 2288 林業産	決済	3,000	2000/05/16	現物買い	143	2000/06/15	現物売り	152	源泉	432,828	447,143	14,315
6	東1 2811 カブマ	決済	1,000	2000/03/10	現物買い	907	2000/07/04	現物売り	1,026	申告	914,881	1,017,161	75,780

3 「記帳」ダイアログ

売買データへ買いの情報を入力したり、決済の情報を入力するのは、全て「記帳」ダイアログから操作します。「記帳」ダイアログの操作と内容を理解しておきましょう。

支払金額:	受取金額:	申告課税:	住民税:	損益額:	損益率(%):
136,134	198,320	12,400	3,700	46,086	33.85%

・注文

仕込注文を選択します。注文の種類は現物、信用買い、信用売りの3種類です。新しい取り引きを記帳するときのみ選択が可能で、保有状態のレコードを表示した場合や決済レコードを表示した場合は、選択することはできません。

・銘柄・株数

仕込む銘柄と株数を設定します。銘柄は、銘柄辞書（テレチャート・Wで管理する銘柄を登録している基本情報）の中からのみ選択することができます。銘柄の選択は、コード番号や読みがなで呼び出すことができます。[コード] ボタンをクリックするとコード番号で、[読み] ボタンをクリックすると銘柄名や読みがなで目的の銘柄を設定できます。株数は、仕込株数です。単位株数ではなく1株単位で入力してください。（単位株数が千株単位でも1株単位で入力してください）

・仕込

仕込情報を入力します。（現物の場合の買い、信用売りの場合の売りです）日付は現在の日付が表示されますが、実際に注文した日付を入力してください。（例：2000年5月8日→“20000508”）単価は約定した株価です。表示された株価を消して正しい単価を入力してください。株数と仕込単価が決まれば、その他の項目は自動計算されますが、間違っていれば、仕込時に修正してください。

・決済

決済情報を入力します。（現物の場合の売りです）内容は仕込時と同じですが、税種を選択することができます。源泉分離の場合は、[源泉課税]に税額が表示されます。決済時に内容を確認して、間違っていればそれぞれの項目を修正してください。自動計算処理が働いていますので、修正の順番は単価→約定金額→手数料→消費税→取引税→経費→源泉課税で行ってください。

・損益

損益を算出します。申告課税が選択されている場合は、この欄の[申告課税]と[住民税]に表示されます。

・記帳操作ボタン

合算、分割、決済などの処理をさせるための操作ボタンです。

4 リスト項目の詳細

株式資産管理のリストは、大きく分けて総合リスト、個別リスト、合計リストの3種類です。それぞれのリストにはリスト項目があり個々に内容が異なります。リスト項目の意味をよく理解してください。(総合リストと個別リストの項目は同じ内容になります)

●総合リスト(個別リスト)

リスト項目	リスト内容
No.	リスト番号
銘柄	市場、コード、銘柄名
株数	株数
状態	レコードの状態(決済、保有、履歴)*
仕込注文	仕込注文の種類(現物買い、信用買い、信用売り)
仕込日付	仕込注文の約定日付
仕込単価	仕込注文の約定株価
仕込約定	約定代金(仕込単価×株数)
仕込手数料	証券会社へ支払った手数料
仕込消費税	手数料に対する消費税
決済注文	決済注文の種類(現物売り、反対売買、現引き(引)、現渡し(渡)、合=合算、分=分割)
決済日付	決済注文の約定日付(保有の場合は最新の日付、銘柄辞書に登録されていない銘柄の場合は”未登録”)
決済単価	決済注文の約定株価(保有の場合は最新の株価)
決済約定	約定代金(決済単価×株数)
決済手数料	証券会社へ支払った手数料
決済消費税	手数料に対する消費税
取引税	有価証券取引税
税種	税種(源泉、申告)
源泉税	源泉課税
申告税	申告課税(取引毎の算出)
住民税	住民税(取引毎の算出)
所得税	所得税(源泉税+申告税+住民税)
経費	経費(日歩、逆日歩など取引にかかった経費)*
支払金額	支払総額(仕込約定+仕込手数料+仕込消費税)
受取金額	受取総額(決済約定-(決済手数料+決済消費税+取引税+源泉税+経費)) * (申告税、住民税は差し引かない)
損益額	損益金額(申告課税の場合も取引毎の税額が差し引かれる)
損益率	損益率(損益額÷支払金額)

● 合計リスト

リスト項目	リスト内容
決済合計	決済レコードのみの集計情報
保有合計	保有レコードのみの集計情報
合計	決済、保有両レコードの集計情報
支払額	支払金額の合計
受取額	受取金額の合計
損益額	損益額の合計（申告分を考慮した全体の損益額）
損益率	損益率（損益額÷支払金額）
申告税対象額	申告分離税対象額（税種が“申告”のレコードのみ集計）
申告税額	申告課税額（申告対象額から算出する）

注意!

総合リストの損益額合計が合計リストと合わない!?

集計対象レコードに申告分離課税のレコードが含まれていませんか？

申告分離課税を選択した場合は、総合リストでの損益額がその取り引き（レコード）単独で算出されます。したがって、税額の目安にしかなりません。合計リストでは、申告分離課税を選択しているレコードのみで課税額と損益額を算出しますので違いが発生します。

申告分離課税は本来、年度内で決済した取り引きの総利益から課税額を算出します。合計リストはその方法にしたがって、算出されます。（年度は絞り込んだときのみ考慮されます）

1 総合リストと個別リスト

株式資産管理は、全ての銘柄を混在して表示させる「総合リスト」と銘柄個々の売買履歴を表示する「個別リスト」に分かれます。
 「総合リスト」が決済レコードと保有レコードの2種類のみを表示するのに対して、「個別リスト」では、決済・保有レコードに加え、合算や分割によって「総合リスト」では表示されなくなった履歴レコードも表示されます。
 「個別リスト」では、単独銘柄の履歴ですので、ナンピン買いなどの単独銘柄での売買がよくわかります。また、「個別リスト」に切り換えたときの「合計リスト」は、単独銘柄での合計損益額を算出しますので、利益率の良い銘柄を確認することができます。

2 個別リストへの切り替え

1. 総合リスト上で個別履歴の見たい銘柄を選択します。
 ※選択はレコードカーソルの移動です。必ず記帳済みレコードを選択してください。

13	東1	8088	岩谷産	保有	5,000	2000/07/18	信用売り	2
14	東1	8277	ホソミクロン	保有	1,000	2000/07/26	現物買い	7
15	東2	5641	TDF	保有	3,000	2000/08/04	現物買い	2

2. ツールバーの[個別リスト]ボタンをクリックします。リストが個別リストに切り替わります。



個別リスト	支払額	受取額	損益額	損益率	申告税対象額	申告税額
決済合計	3,311,523	3,591,451	279,928	8.45%	0	0
保有合計	2,217,850	2,149,958	-67,892	-3.06%	-67,892	0
合計	5,529,373	5,741,409	212,036	3.83%	-67,892	0

No.	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	履歴	1,000	2000/08/16	現物買い	1,000	2000/10/10	合	--	--	1,008,400	--	--
2	履歴	1,000	2000/10/05	現物買い	1,200	2000/10/10	合	--	--	1,209,450	--	--
3	決済	1,000	2000/02/07	現物買い	1,030	2000/04/06	現物売り	1,125	源泉	1,038,289	1,104,251	65,962
4	決済	2,000	2000/05/18	信用売り	1,280	2000/07/13	反対売買	1,128	源泉	2,279,234	2,487,200	213,966
5	保有	2,000	2000/10/05	現物買い	1,100	2000/10/10	現物売り	1,083	申告	2,217,850	2,149,958	-67,892

3. ツールバーの[総合リスト]ボタンをクリックすると総合リストに戻ります。



総合リスト	支払額	受取額	損益額	損益率	申告税対象額	申告税額
決済合計	11,400,648	12,686,310	1,165,361	10.22%	463,706	120,300
保有合計	6,026,045	6,452,647	426,602	7.08%	-56,845	0
合計	17,426,694	19,138,957	1,606,763	9.22%	406,861	105,500

No.	銘柄	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	東 1 1963 日揮	決済	1,000	1999/10/24	現物買い	270	1999/07/20	現物売り	480	源泉	272,409	470,676	198,267
2	東 1 1941 中電工	決済	1,000	2000/02/23	現物買い	1,300	2000/03/22	現物売り	1,590	源泉	1,310,710	1,560,616	249,906
3	東 1 2502 アサヒ	決済	1,000	2000/02/07	現物買い	1,030	2000/04/06	現物売り	1,125	源泉	1,038,289	1,104,251	65,962
4	東 1 2579 コカウエスト	決済	500	2000/01/21	現物買い	3,898	2000/05/16	現物売り	3,626	申告	1,963,132	1,798,790	-164,342
5	東 1 2281 プリマ	決済	2,000	2000/01/14	現物買い	178	2000/05/19	現物売り	155	申告	349,088	307,234	-41,854
6	東 1 2286 林業産	決済	3,000	2000/05/16	現物買い	143	2000/06/15	現物売り	152	源泉	432,828	447,143	14,315
7	東 1 2811 カゴメ	決済	1,000	2000/03/10	現物買い	907	2000/07/04	現物売り	1,026	申告	914,881	1,017,161	75,780
8	東 1 8206 豊田工	決済	1,000	2000/05/18	現物買い	952	2000/07/11	現物売り	1,060	源泉	960,259	1,039,798	79,539
9	東 1 2502 アサヒ	決済	2,000	2000/05/16	信用売り	1,280	2000/07/13	反対売買	1,128	源泉	2,278,234	2,487,200	218,966
10	東 1 2874 ヨコレイ	決済	2,000	2000/05/18	現物買い	631	2000/07/17	現物売り	724	申告	1,272,450	1,436,280	121,530
11	東 1 6104 東芝機	決済	2,000	2000/06/20	現物買い	304	2000/08/30	現物売り	513	申告	613,368	1,017,161	293,092
12	東 1 8050 セイコー	保有	3,000	2000/07/11	信用売り	626	2000/10/10	反対売買	491	源泉	1,473,000	1,257,003	-215,997
13	東 1 8088 岩谷産	保有	5,000	2000/07/18	信用売り	246	2000/10/10	反対売買	210	源泉	1,050,000	1,050,003	3
14	東 2 5641 T D F	保有	3,000	2000/08/04	現物買い	277	2000/10/10	現物売り	518	源泉	838,242	1,537,693	699,441
15	東 1 6367 ダイキン工	保有	200	2000/09/20	現物買い	2,215	2000/10/10	現物売り	2,290	申告	446,353	458,000	8,247
16	東 1 2502 アサヒ	保有	2,000	2000/10/05	現物買い	1,100	2000/10/10	現物売り	1,083	申告	2,217,850	2,149,958	-67,892

1 リスト絞り込みの使い方

売買データには、保有や決済、現物や信用取引、課税方法などさまざまな取引の履歴が表示されます。例えば、「今年決済した現物取引で申告分離課税分はどれだけあったか？」などのように絞り込んで確認したいときにリストから1つ1つを拾い出して確認するのは面倒です。そのような場合に、絞り込み機能をご利用ください。

絞り込みの項目と要素は以下のようになります。複数の項目を複合することで上記のような絞り込みが可能になります。

項目	要素
仕込年度	本年を含め過去10年のいずれか
決済年度	本年を含め過去10年のいずれか
注文	現物、信用買い、信用売り
状態	決済、保有
課税	源泉分離、申告分離

“全て”は、絞り込み対象外になります。

2 絞り込みを実施する

絞り込み操作の例として、

「2000年決済した現物取引で申告分離課税分はどれだけあったか？」
の場合を実施してみましょう。



- 既に記帳済みの売買データを開いてください。
※「資産管理」メニューの「売買データ選択」で売買データを選択して、開いてください。
- 絞り込み条件の[決済年度]をクリックして、2000年度を選択します。



3. 絞り込み条件の[注文]をクリックして、「現物」を選択します。



4. 絞り込み条件の[状態]をクリックして、「決済」を選択します。



5. 絞り込み条件の[課税]をクリックして、「申告」を選択します。



6. 以上で操作は終わりです。リスト上には、2000年、決済、現物、申告分離の当てはまるレコードのみが残りしました。

※合計リストには、絞り込まれたレコードのみを合計した損益額や申告課税額が表示されます。

銘柄名	名和証券取引 分.ddt	仕込年度	全て	決済年度	2000年	注文	現物	状態	決済	課税	申告		
総合リスト	支払額	受取額	損益額	損益率	申告税対象額	申告税額							
決済合計	5,112,920	5,576,626	349,406	6.72%	469,706	120,300							
保有合計	0	0	0	0.00%	0	0							
合計	5,112,920	5,576,626	349,406	6.72%	469,706	120,300							
No.	銘柄	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	東 1 2579 コカウエスト	決済	500	2000/01/21	現物買い	3,896	2000/05/16	現物売り	3,626	申告	1,963,132	1,798,730	-164,342
2	東 1 2281 プリマ	決済	2,000	2000/01/14	現物買い	173	2000/05/19	現物売り	155	申告	349,098	307,234	-41,854
3	東 1 2811 カゴメ	決済	1,000	2000/03/10	現物買い	907	2000/07/04	現物売り	1,026	申告	914,881	1,017,161	75,780
4	東 1 2874 ヨコレイ	決済	2,000	2000/05/18	現物買い	631	2000/07/17	現物売り	724	申告	1,272,450	1,436,280	121,530
5	東 1 6104 東芝機	決済	2,000	2000/06/20	現物買い	304	2000/08/30	現物売り	513	申告	613,369	1,017,161	298,092

絞り込まれたリスト

注意!

申告課税額はそのまま確定申告に利用できるか!?

確定申告には費用経費など控除対象となるものもあります。また、証券会社が発行する伝票との相違がある場合がありますので、このソフトで算出される課税額は、目安としてご利用ください。

1 合算して決済する

ナンピン買いなど複数回に渡って買い増した株を一度に売却することがあります。このような場合には、複数のレコードを合算して決済してください。

1. 合算して決済する保有レコードのどれか1つを選択して、ツールバーの「記帳」ボタンをクリックします。

※選択はレコードカーソルの移動で行います。必ず記帳済みの保有レコードを選択してください。



2. 「記帳」ダイアログが表示されるので、「合算」ボタンをクリックします。



3. 「仕込リスト」ダイアログが表示されるので、合算するレコードをクリックして選択します。

※仕込リストには、保有の同じ注文の同じ銘柄のみがリストアップされます。既に選択されているレコードも選択済みとしてリストアップされます。



4. 選択が終了したら [OK] ボタンをクリックして、「仕込リスト」ダイアログ閉じてください。「記帳」ダイアログに戻ります。

5. 「記帳」ダイアログの内容を確認してそのまま決済する場合は、[決済] → [登録] ボタンの順にクリックします。
 合算のみの場合は、[登録] ボタンのみをクリックします。
 ※以上で合算は終了です。合算前のレコードは“履歴”として残りますので、確認する場合は、個別リストに切り替えてください。

ファミ名 名和証券取引分_02.ddt 仕込年度 全て 決済年度 全て 注文 全て 状態 全て 課税 全て												
銘柄名 東 1 7203 トヨタ												
個別リスト	支払額	受取額	損益額	損益率	申告税対象額	申告税額						
決済合計	0	0	0	0.00%	0	0						
保有合計	13,368,179	13,039,176	-329,003	-2.46%	-329,003	0						
合計	13,368,179	13,039,176	-329,003	-2.46%	-329,003	0						
No.	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	履歴	1,000	2000/09/01	現物買い	4,880	2000/10/10	合	--	--	4,712,201	--	--
2	履歴	2,000	2000/10/02	現物買い	4,300	2000/10/10	合	--	--	8,654,978	--	--
3	保有	3,000	2000/10/02	現物買い	4,426	2000/10/10	現物売り	4,370	申告	13,368,179	13,039,176	-329,003

履歴情報

2 合算処理の内容

株数	単純合計
仕込日付	合算するレコードの内一番新しい日付を採用します。
単価	合計した約定金額と合計した株数から平均単価を算出します。
約定金額	単純合計
手数料	単純合計
消費税	単純合計

3 無償配当された株の合算

株式分割などによって無償配当された株を合算する場合は、配当分の新しいレコードをまず記帳してください。その際に株数は配当された株数を入力し、単価は必ず“0”で入力してください。これで、株数のみで仕込約定金額が0円の配当レコードが出来上がります。次は、同じ銘柄で保有しているレコードを選択して、株数だけのレコードと合算させてください。

処理の例：150円で1000株仕込んだ銘柄があり、500株の配当があったとします。

保有レコード	150円 × 1000株 = 150000円
配当レコード	0円 × 500株 = 0円
合算レコード	100円 × 1500株 = 150000円

注意!

合算後のレコードが見つからない!?

合算後のレコードは、リストの最下行に追加されます。総合リストでは合算前のレコードは表示されなくなりますので、リストの配置が変わり見失う事があります。そのような場合は、リストを最下行までスクロールしたり、個別リストに切り替えて確認してください。

1 分割して決済する

保有している株の一部を売却する場合に分割して決済する必要があります。
分割決済方法は、以下の手順で行ってください。

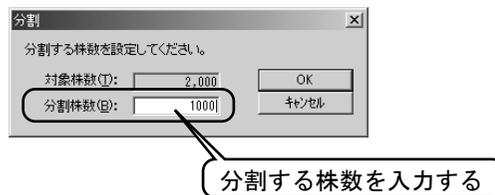
1. 分割して決済する保有レコードを選択して、ツールバーの「[記帳]」ボタンをクリックします。
※選択はレコードカーソルの移動で行います。必ず記帳済みの保有レコードを選択してください。



2. 「記帳」ダイアログが表示されるので、「分割」ボタンをクリックします。



3. 「分割」ダイアログが表示されるので、「分割株数」の欄に分割する株数を入力して、「OK」ボタンをクリックします。「記帳」ダイアログに戻ります。



4. 「記帳」ダイアログの内容を確認してそのまま決済する場合は、[決済] → [登録] ボタンの順にクリックします。
 分割のみの場合は、[登録] ボタンのみをクリックします。
 ※以上で分割は終了です。分割前のレコードは“履歴”として残りますので、確認する場合は、個別リストに切り替えてください。

個別リスト		支払額	受取額	損益額	損益率	申告税対象額	申告税額
決済合計		0	0	0	0.00%	0	0
保有合計		13,368,179	13,016,745	-351,434	-2.63%	-351,434	0
合計		13,368,179	13,016,745	-351,434	-2.63%	-351,434	0

No.	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	保有	1,000	2000/09/01	現物買い	4,680	2000/10/10	現物売り	4,370	申告	4,718,200	4,338,915	-374,286
2	履歴	2,000	2000/10/02	現物買い	4,300	2000/10/10	分	--	--	8,654,480	--	--
3	保有	1,000	2000/10/02	現物買い	4,300	2000/10/10	現物売り	4,370	申告	4,327,489	4,338,915	8,626
4	保有	1,000	2000/10/02	現物買い	4,300	2000/10/10	現物売り	4,370	申告	4,327,489	4,338,915	8,626

履歴情報

2 分割処理の内容

株数	入力した株数と残りの株数
仕込日付	分割前の日付と同じ
単価	分割前の単価と同じ
約定金額	分割した株数比率で算出
手数料	分割した株数比率で算出
消費税	分割した株数比率で算出

注意!

分割後のレコードが見つからない!?

分割されたレコードは、リストの最下行に追加されます。総合リストでは分割前のレコードは表示されなくなりますので、リストの配置が換わり見失う事があります。そのような場合は、リストを最下行までスクロールしたり、個別リストに切り替えて確認してください。

1 信用取引の決済方法

信用取引には、信用買いと信用売りがあり、決済方法も一般的な“反対売買”の他に“現引き”、“現渡し”などがあります。

反対売買とは、信用取引で仕込んだ分を反対に売買して決済する方法で、最も一般的な方法です。

現引きとは、信用買いで仕込んだ金額を証券会社へ返金して、株式を引き取る決済方法です。

現渡しとは、手持ちの現物株がある場合に信用売りで仕込んだ株数分を証券会社へ返す決済方法です。

2 反対売買の決済操作

1. 決済させる“信用買い”か“信用売り”レコードを選択して、ツールバーの[記帳]ボタンをクリックします。

※選択はレコードカーソルの移動で行います。必ず記帳済みの保有レコードを選択してください



記帳

2. 「記帳」ダイアログが表示されるので、現物決済と同じように[決済]→[登録]ボタンの順にクリックします。

日付	単価	約定金額	手数料	消費税
2000/09/12	2,350	7,050,000	44,455	2,222

反対売買での決済

3 現引きの決済操作

1. 決済させる“信用買い”レコードを選択して、ツールバーの[記帳] ボタンをクリックします。

※選択はレコードカーソルの移動で行います。必ず記帳済みの保有レコードを選択してください

No.	銘柄	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	東 1 9501 東電	保有	3,000	2000/09/12	信用買い	2,350	2000/10/10	反対売買	2,595	申告	7,096,677	7,784,387	472,110
2	東 1 9502 中部電	保有	5,000	2000/08/25	信用売り	1,390	2000/10/10	反対売買	1,771	申告	8,911,943	9,390,471	354,628

信用買い



記帳

2. 「記帳」ダイアログが表示されるので、[現引き] ボタンをクリックします。

現引きでの決済

3. 現引きが選択された旨のメッセージが表示されますので、現物として決済する場合は[はい]を、現物として保有する場合は[いいえ]をクリックします。「記帳」ダイアログに戻ります。

※現引きの決済は、現物として扱われます。

4. 「記帳」ダイアログの[注文]が“現物”に変わります。内容を確認して[登録] ボタンをクリックします。

※現引き結果、“信用買い”が“現物”に変更されます。従って、損益額なども現物として算出されます。

No.	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	履歴	3,000	2000/09/12	信用買い	2,350	2000/10/10	引	--	--	7,096,677	--	--
2	決済	3,000	2000/09/12	現物買い	2,350	2000/10/10	現物売り	2,595	申告	7,096,677	7,784,387	472,110

4 現渡しの決済操作

1. 決済させる“信用売り”レコードを選択して、ツールバーの[記帳] ボタンをクリックします。

※選択はレコードカーソルの移動で行います。必ず記帳済みの保有レコードを選択してください。

No.	銘柄	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	東 1 9501 東電	決済	3,000	2000/09/12	現物買入	2,350	2000/10/10	現物売り	2,595	申告	7,096,677	7,734,387	472,110
2	東 1 9502 中部電	保有	2,000	2000/01/04	現物買入	1,750	2000/10/10	現物売り	1,771	申告	3,525,147	3,516,566	-8,581
3	東 1 9502 中部電	保有	3,000	2000/02/01	現物買入	1,700	2000/10/10	現物売り	1,771	申告	5,136,235	5,275,625	103,290
4	東 1 9502 中部電	保有	5,000	2000/08/25	信用売り	1,890	2000/10/10	反対売買	1,771	申告	8,911,343	8,390,471	354,628

信用売り



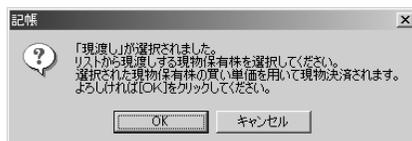
記帳

2. 「記帳」ダイアログが表示されるので、[現渡し] ボタンをクリックします。

現渡しでの決済

3. 現渡しが選択された事と決済される旨のメッセージが表示されますので、続行する場合は[OK] ボタンをクリックします。

※現渡しは保有している現物株を返す決済方法ですので、保有状態にすることはできません。



4. 「仕込リスト」ダイアログが表示されるので、リストから現渡しする現物保有レコードをクリックし、選択します。

※仕込リストには、現物保有の同じ銘柄のみがリストアップされますので、現渡し対象株数分のレコードを選択してください。[必要株数]には現渡しに必要な株数が、[決済対象株数]には選択したレコードの合計株数が表示されます。



5. 選択が終了したら [OK] ボタンをクリックして、「仕込リスト」ダイアログを終了します。「記帳」ダイアログに戻ります。

6. 「記帳」ダイアログの「注文」が“現物”に変わります。内容を確認して [登録] ボタンをクリックします。

※現引き結果、“信用売り”レコードは“履歴”となり、現渡し対象レコードは決済されます。現渡し対象レコードが複数だった場合は、自動的に合算されます。また、[決済対象株数]が[必要株数]より多かった場合は、自動的に分割され、残り分は現物保有として残ります。

No.	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	履歴	2,000	2000/01/04	現物買い	1,750	2000/02/01	合、渡	--	--	3,525,147	--	--
2	履歴	3,000	2000/02/01	現物買い	1,700	2000/02/01	合、渡	--	--	5,136,235	--	--
3	履歴	5,000	2000/08/25	信用売り	1,890	2000/10/10	渡	--	--	--	9,390,471	--
4	決済	5,000	2000/02/01	現物買い	1,720	2000/10/10	現物売り	1,890	申告	8,661,382	9,390,471	539,589

1 レコード削除はどんな時？

レコードは、売買データの1行分です。新しく仕込の記帳を実施すると1行が追加されます。レコードの削除は、記帳に失敗したときや、古くなって必要のないレコード、または「個別リスト」で表示される“履歴”レコードを消したいときにご利用ください。（大損をして目障りな取り引きのレコードを削除しても構いません。）

履歴レコード以外を削除した場合は、合計リストからも差し引かれますので、削除の際はご注意ください。

尚、売買データの保存を実行する前であれば、削除したレコードを復帰させることができます。

2 レコードを削除する

1. 総合リスト（個別リスト）上で削除したいレコードを選択します。
※選択はレコードカーソルの移動で行います。必ず記帳済みレコードを選択してください。
2. ツールバーの[レコード削除]ボタンをクリックします。
※選択したレコードがリストから消えます。



3 削除したレコードを復帰する

売買データの保存を実行する前であれば、削除したレコードを復活させることができます。

1. ツールバーの[削除レコードの復帰]ボタンをクリックします。
※削除したレコードが復帰されます。



1 目的と内容

実際の取引の中で先に仕込んだものを必ずしも先に決済するとは限りません。売り時を逃して塩漬けになってしまった株も中にはあると思います。売買データのリストは、記帳した順番にレコードが増えていきますが、過去に仕込んだレコードと最近仕込んだレコードが離れていては、リストをスクロールして見るのも面倒です。できれば、保有状態のレコードはいつも見える位置に配置しておきたいものです。

「売買データ整理」では、履歴レコード→決済レコード→保有レコードをの順に並べて保有レコードがリストの最後尾になるように配置します。また、その中で決済レコードは決済日付の古い順に、保有レコードは仕込日付の古い順に並べ替えます。この処理によって、リストを大きくスクロールする手間が省けます。

2 売買データの整理を実施する

1. 既に記帳済みの売買データを開いてください。

※「資産管理」メニューの「売買データ選択」で売買データを選択して、開いてください。

No.	銘柄	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	東 1 1301 極洋	保有	1,000	2000/10/12	現物買い	135	2000/10/10	現物売り	135	申告	136,134	133,868	-2,268
2	東 1 1331 ニチ口	決済	1,000	2000/05/21	現物買い	162	2000/07/03	現物売り	180	申告	163,360	178,488	11,228
3	東 1 1332 日水	決済	1,000	2000/04/30	現物買い	150	2000/06/25	現物売り	177	申告	151,260	175,514	18,054
4	東 1 1333 マルノ	保有	1,000	2000/09/05	現物買い	110	2000/10/10	現物売り	122	申告	110,324	120,976	7,452
5	東 1 1351 宝華水	決済	1,000	2000/10/10	現物買い	65	2000/11/02	現物売り	70	申告	65,546	69,412	3,166
6	東 1 1352 ホウスイ	保有	2,000	2000/11/03	現物買い	90	2000/10/10	現物売り	90	申告	181,512	178,488	-3,024

2. 「資産管理」メニューの「売買データ整理」をクリックします。

※図のように並び変わります。

No.	銘柄	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	東 1 1332 日水	決済	1,000	2000/04/30	現物買い	150	2000/06/25	現物売り	177	申告	151,260	175,514	18,054
2	東 1 1331 ニチ口	決済	1,000	2000/05/21	現物買い	162	2000/07/03	現物売り	180	申告	163,360	178,488	11,228
3	東 1 1351 宝華水	決済	1,000	2000/10/10	現物買い	65	2000/11/02	現物売り	70	申告	65,546	69,412	3,166
4	東 1 1333 マルノ	保有	1,000	2000/09/05	現物買い	110	2000/10/10	現物売り	122	申告	110,324	120,976	7,452
5	東 1 1301 極洋	保有	1,000	2000/10/12	現物買い	135	2000/10/10	現物売り	135	申告	136,134	133,868	-2,268
6	東 1 1352 ホウスイ	保有	2,000	2000/11/03	現物買い	90	2000/10/10	現物売り	90	申告	181,512	178,488	-3,024

1 パスワードとは？

売買データを他人に見られたくない場合などに、売買データに対してパスワードを設定します。パスワードの設定された売買データは、「売買データ選択」メニューで売買データを読み込む際にパスワードが確認され、登録されているパスワードを入力しないと開くことができません。

注意!

テレチャート・W起動時に売買データが開かない・・・

テレチャート・W起動時には、前回終了時に開いていた売買データが自動的に開かれますが、パスワードの設定されている売買データの場合は開かれませんので、改めて「売買データ選択」から開いてください。

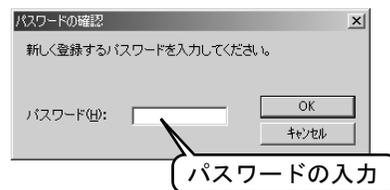
2 パスワードを設定する

1. パスワードを設定する売買データを開いてください。

※「資産管理」メニューの「売買データ選択」でパスワードを設定する売買データを選択して、開いてください。

2. 「資産管理」メニュー→「パスワードの設定」の順にクリックします。

3. [パスワードの確認] ダイアログが表示されるので、半角英数文字 (A～Z、0～9) 8文字以内でパスワードを入力してください。入力が終わったら [OK] ボタンをクリックします。



4. もう一度 [パスワードの確認] ダイアログが表示されるので、3. で入力したパスワードをもう一度入力します。

※同じパスワードを2回入力するのは、1回目を入力したパスワードの確認です。



5. 2回目のパスワード入力終了後、[OK] ボタンをクリックします。

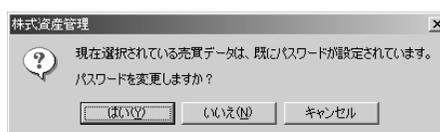
※2回の入力で同じパスワードだった場合に限りパスワードが登録されます。パスワードが一致しなかった場合は、失敗メッセージが表示されます。

6. 「資産管理」メニュー→「売買データの保存」の順にクリックして、売買データを保存してください。保存が終わればパスワードの設定は終了です。次回、現在の売買データを開くときには、パスワードが必要になります。

3 パスワードを変更する

1. パスワードを変更する売買データを開きます。
※「資産管理」メニューの「売買データ選択」でパスワードを設定する売買データを選択して、開いてください。

2. 「資産管理」メニュー→「パスワードの設定」の順にクリックします。



3. [パスワードの確認] ダイアログが表示されるので、既に登録されているパスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックします。

※既に登録されているパスワードを正確に入力しないと先へ進めません。



パスワードの入力

4. [パスワードの確認] ダイアログが2回表示されるので、両方に新しいパスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックします。
5. 「資産管理」メニュー→「売買データの保存」の順にクリックして、売買データを保存します。保存が終わればパスワードの変更は終了です。次回、現在の売買データを開くときには、新しいパスワードが必要になります。



参考

パスワードをやめるには！？

登録してあるパスワードを外したい場合は、新しいパスワードを入力するダイアログでキー入力をせずに[OK] ボタンで先へ進んでください。パスワードは空白になり、以降、その売買データを開く際にパスワードの問い合わせは無くなります。

注意！ パスワードを忘れてしまって、売買データを開けない・・・

パスワードを正しく入力しないとその売買データを開くことができません。パスワードは、忘れないようにしてください。忘れてしまった場合は、残念ですが開くことはできません。また、生年月日や電話番号など本人を特定しやすいパスワードはご使用を避けてください。

1 株式資産管理オプション

株式資産管理画面のカスタマイズ(変更)は、「資産管理オプション」ダイアログで行ってください。

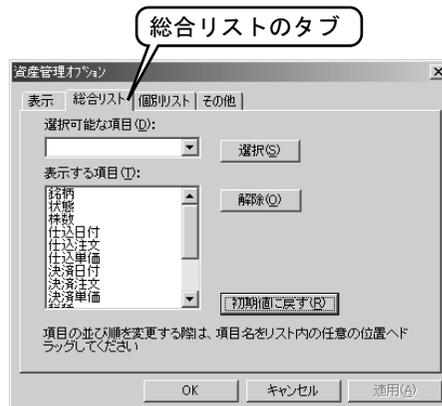
画面の色や文字の大きさ、リストに表示する項目や並び順などを変更できます。



2 リスト項目の変更

株式資産管理で表示される総合リスト、個別リストのリスト項目は入れ替えや並びを行うことができます。

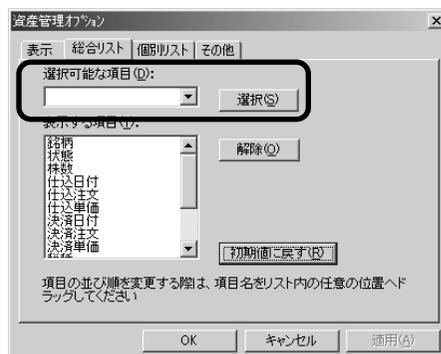
1. 「資産管理」メニュー→「オプション」の順にクリックして、「資産管理オプション」ダイアログを表示してください。
2. 「総合リスト」タブをクリックしてください。



●項目の追加

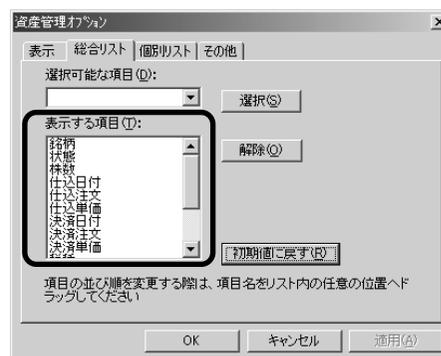
3. 「選択可能な項目」のリストから追加する項目を選択して、[選択] ボタンをクリックします。

※[表示する項目] リストの最下行に追加されます。(既に同じ項目が有る場合は追加されません)



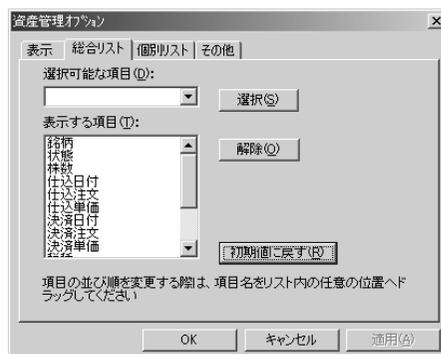
●並び順の変更

4. 「表示する項目」リストで項目を選択して、上下にドラッグします。



●項目の削除

5. 「表示する項目」リストで項目を選択して、[削除] ボタンをクリックします。



1 売買データの印刷

売買データの印刷は、現在表示されている内容を印刷します。例えば、個別リストが表示されていれば、個別リストを印刷します。また、絞り込みが実行されていれば、絞り込まれた状態を印刷します。

1. 印刷する売買データを開きます。

※ツールバーの[売買データの選択] ボタンをクリックして売買データを選択して、開いてください。

2. ツールバーの[売買データの印刷] ボタンをクリックし、「売買データ印刷」ダイアログを表示します。

※[印刷する項目]と[印刷する範囲]を設定してください。

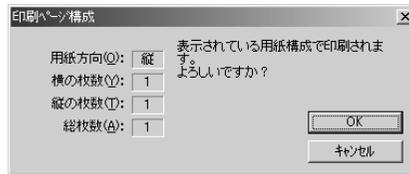


3. 印刷内容を設定して、[印刷] ボタンをクリックします。

4. 「印刷」ダイアログが表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。



5. 「印刷ページ構成」ダイアログが表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。



1 CSVファイルとは？

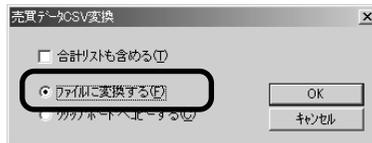
CSVファイルは、Microsoft社のエクセルなど、表計算ソフトで読み込み可能なテキストファイルです。(別に、“カンマ区切りテキスト”とも呼ばれています。)このファイルを表計算ソフトに読み込むと、データ1つ1つをセルに挿入します。

株式資産管理で記帳したデータをCSVファイルに変換することで、表計算ソフトで利用することができます。

尚、テレチャート・Wの機能は、CSVファイルへ変換するところまでです。表計算ソフトへの読み込み方法は、お使いのソフトのマニュアルを参照してください。また、データの使用方法については、利用される方ご自身でご確認ください。

2 ファイルに変換する

1. 「資産管理」メニュー→「売買データCSV変換」の順にクリックします。
2. 「売買データCSV変換」ダイアログが表示されるので、「ファイルに変換する」を選択して、[OK]ボタンをクリックします。
※合計リストも含める場合は、[合計リストも含める]にチェックしてください。



3. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、記録する場所とファイル名を設定して[保存]ボタンをクリックします。
※「保存する場所」は、必要に応じて変更してください。ファイル名は売買データ名に“.csv”が付けられた名前が表示されます。こちらも必要に応じて変更してください。

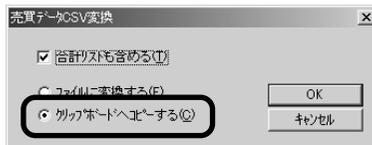


4. 売買データがCSVデータに変換され設定した場所に保存されます。
 ※エクセルなどご利用のソフトで読み込んでください。

3 クリップボードへコピーする

クリップボードとは、Windowsに用意されている一時的にデータを保存する場所です。
 ここにデータをコピーすると別のソフトで売買データを表示することができます。

1. 「資産管理」メニュー→「売買データCSV変換」の順にクリックします。



2. 「売買データCSV変換」ダイアログが表示されるので、「クリップボードへコピーする」を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
 ※合計リストも含める場合は、[合計リストも含める]にチェックしてください。

3. 以上でクリップボードへのコピーは終了です。後はご利用の表計算ソフトを起動して、「貼り付け」操作を実行してください。
 ※クリップボードへコピーされるデータは、カンマ区切りではなく、タブ区切りになります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	総合リスト	支払額	受取額	損益額	損益率	申告税対象額	申告税額					
2	決済合計	10,362,360	11,582,059	1,099,399	10.61%	463,706	120,300					
3	保有合計	6,833,142	7,021,658	188,516	2.76%	-331,452	0					
4	合計	17,195,502	18,603,717	1,373,915	7.99%	132,254	34,300					
5	No.	銘柄	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額
6	1	東1 1963 日揮	決済	1,000	1999/10/24	現物買い	270	1999/7/20	現物売り	480	源泉	272.4
7	2	東1 1941 中電工	決済	1,000	2000/2/23	現物買い	1,300	2000/3/22	現物売り	1,590	源泉	1,310.7
8	3	東1 2579 コカウエスト	決済	500	2000/1/21	現物買い	3,896	2000/5/16	現物売り	3,626	申告	1,963.1
9	4	東1 2281 プリマ	決済	2,000	2000/1/14	現物買い	173	2000/5/19	現物売り	155	申告	349.5
10	5	東1 2286 林業産	決済	3,000	2000/5/16	現物買い	143	2000/6/15	現物売り	152	源泉	432.8
11	6	東1 2811 カゴメ	決済	1,000	2000/3/10	現物買い	907	2000/7/4	現物売り	1,026	申告	914.8
12	7	東1 6206 豊田工	決済	1,000	2000/5/18	現物買い	952	2000/7/11	現物売り	1,060	源泉	960.2
13	8	東1 2502 アサヒ	決済	2,000	2000/5/16	信用売り	1,280	2000/7/13	反対売買	1,128	源泉	2,273.2
14	9	東1 2874 ヨコレイ	決済	2,000	2000/5/18	現物買い	631	2000/7/17	現物売り	724	申告	1,272.4
15	10	東1 6104 東芝機	決済	2,000	2000/6/20	現物買い	304	2000/8/30	現物売り	513	申告	613.3
16	11	東1 6277 ホニミックン	保有	1,000	2000/7/3	現物買い	777	2000/11/17	現物売り	630	申告	783.7
17	12	東1 8050 セイコー	保有	3,000	2000/7/11	信用売り	626	2000/11/17	反対売買	439	源泉	1,327.8
18	13	東1 8068 岩谷産	保有	5,000	2000/7/18	信用売り	246	2000/11/17	反対売買	231	源泉	1,164.7
19	14	東1 6277 ホニミックン	保有	1,000	2000/7/26	現物買い	723	2000/11/17	現物売り	630	申告	729.3
20	15	東2 5641 TDF	保有	3,000	2000/8/4	現物買い	277	2000/11/17	現物売り	500	源泉	838.2
21	16	東1 6361 群馬製	保有	1,000	2000/8/22	現物買い	1,530	2000/11/17	現物売り	1,498	申告	1,542.2
22	17	東1 6367 ダイキン工	保有	200	2000/9/20	現物買い	2,215	2000/11/17	現物売り	2,200	申告	446.5
23												

Microsoft エクセルへ
 貼り付けた場合の例

1 その銘柄は受信できていますか？

株式資産管理では、“保有”の損益を計算させるのに最新の株価を利用します。
最新株価の優先順位は、

- ・ 株価ボードへ表示される受信したデータ
- ・ 銘柄別データに記録されている一番新しいデータ
- ・ 売買データに記録されていたデータ

の順です。

更新される間隔は、約30秒間隔です。(パソコンの処理が遅い場合は、これよりも遅れます)

最新の株価(決済単価)が表示されない場合は、株価ボードでその銘柄が受信できているかを確認してください。受信できているようであれば、30秒お待ちください。

株価ボードにデータが受信されていて、更新されない場合は、その銘柄の市場が変更された可能性がありますので、売買データでの市場変更が必要です。

株価ボードにデータが受信されていなかったり、古いデータが表示されているようであれば、「銘柄メンテナンス」の必要があります。

上場廃止となってしまった銘柄は、残念ながら最新のデータを自動的に更新することはできなくなりますので、「記帳」ダイアログから手入力が必要です。

2 売買データの市場変更とは？

銘柄の上場市場が変更された場合(例えば、東証2部から1部へ昇格した場合など)は、「銘柄メンテナンス」で市場変更の処理をしなければ、データを受信できなくなります。株式資産管理では、「銘柄メンテナンス」を実行した後に、個々の売買データに対して市場変更の処理をしなければなりません。(市場変更した銘柄が売買データに含まれなければ必要ありません。)

売買データ読み込み時に売買データに記録されている銘柄と銘柄辞書(テレチャート・Wで銘柄を登録している基本情報)に登録されている銘柄を照合して、銘柄辞書に登録されていない銘柄は、売買データリストの「決済日付」の欄が、“未登録”と表示されます。銘柄辞書との照合は、市場とコード番号で行われますので、市場が変わった場合は、“未登録”と表示される訳です。

“未登録”と表示された銘柄は、上場廃止となってしまった可能性もありますが、市場変更だけであれば、市場を変更することで、また最新のデータで損益計算できるようになります。

●市場変更の操作

1. 売買データリストの「決済日付」が“未登録”と表示されているレコードを選択します。

※選択はレコードカーソルの移動で行います。必ず記帳済みレコードを選択してください。

選択するレコード

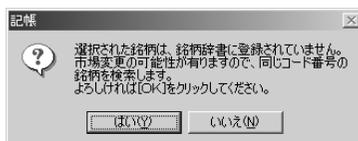
No.	銘柄	状態	株数	仕込日付	仕込注文	仕込単価	決済日付	決済注文	決済単価	税種	支払金額	受取金額	損益額
1	東1 6011 新潟鉄	保有	4,000	2000/07/19	現物買い	81	2000/10/10	現物売り	67	申告	326,721	285,749	-60,972
2	東2 7868 広済堂	保有	1,000	2000/08/11	現物買い	1,060	未登録	現物売り	1,151	申告	1,088,494	1,141,885	54,491
3	東1 7203 トヨタ	保有	1,000	2000/09/01	現物買い	4,680	2000/10/10	現物売り	4,370	申告	4,713,201	4,338,915	-374,286
4	東1 7203 トヨタ	保有	2,000	2000/10/02	現物買い	4,300	2000/10/10	現物売り	4,370	申告	8,654,978	8,684,278	21,795

2. ツールバーの「[記帳]」ボタンをクリックします。



3. 「選択された銘柄は・・・」と書かれたメッセージが表示されますので、「[はい]」をクリックします。コード番号検索が開始されます。

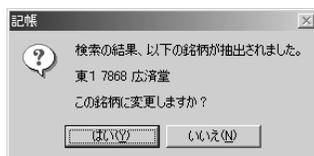
※ここで再度銘柄辞書との照合を行い、同じコード番号の銘柄を検索します。同じコード番号銘柄が見つかったら、その市場と銘柄名をメッセージで知らせます。



4. 検索結果のメッセージが表示されますので、該当する銘柄だった場合は、「[はい]」をクリックします。

該当する銘柄が見つからなかった場合は、その旨を伝えるメッセージが表示されるので、「[OK]」ボタンをクリックします。

※見つからなかった場合は、銘柄辞書に登録されていないか、コード番号が変わった可能性があります。データ配信がされなくなって、銘柄辞書に登録されていなかった場合は、そのままの状態でご利用ください。また、コード番号の違いによって検索されなかった場合は、一度そのレコードを削除して新たに記帳し直してください。



5. ここまでの処理が終了すると、「記帳」ダイアログが表示されますので、市場を変更する場合は、「[登録]」ボタンをクリックします。

※変更したときは、売買データの保存を忘れずに実施してください。





7. データ取込

1 データ取込とは

テレチャート・Wは、インターネットサイトから株価データを取り込みます。最新の株価データを蓄積するためには、商い日には毎日、取り込みを行う必要があります。もし、取り込みを忘れてしまった場合には、遡って、後日にデータを取得し蓄積することができます。

2 株価データの取り込み

株価データの取り込みは、その日の取り引きが終了し、出来高などの集計が終了した後に実行してください。出来高等の集計が終了する時間は、夕方の6時前後ですのでその時間を目安にして開始しても構いません。

終値のデータは、17時以降、翌朝9時まで取り込みを行うことができます。もし、この時間帯にデータ取込を行うことができなかった場合は【日々データメーカー】をご利用ください。

テレチャート・Wでは、受信が停止されていない限り常に最新の株価データがメモリ上に存在しますので、いつでもデータ取込を行うことができます。立会い中にデータの取り込みを行った場合には終値ではありませんのでご注意ください。

取り込み開始

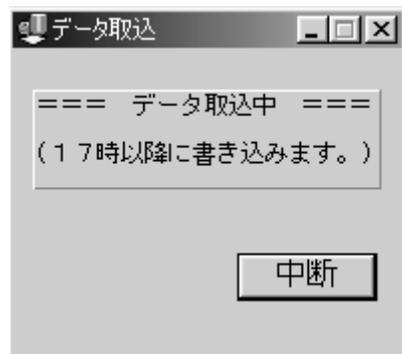
[データ取込] ボタンをクリックするか、自動機能(内部タイマー、取り込み自動スタート)により、データの取り込みを開始します。

「データ取込」ウィンドウが表示されます。



時間確認

17時の到来を待ちます。
(このとき「データ取込」ウィンドウには「データ取込中」と表示されます。)



全データ受信確認

銘柄辞書に登録されている全銘柄のデータを受信します。
「データ取込」ウィンドウが破棄されます。

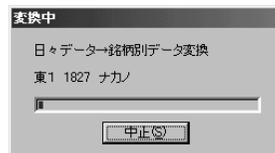
日々データ作成

日々データを作成します。



銘柄別データ作成

作成した日々データを銘柄別データに変換します。



日々データ変換

日々データを指定された形式に変換します。
※「データ変換」が設定されている場合のみ



週足・月足変換

必要に応じて週足・月足を作成します。
週足は、金曜日の取り込み時、金曜日に商いがなかった場合は、次の週の最初の取り込み時に作成します。
月足は、月が変わった最初の取り込み時に「前月」の月足を作成します。



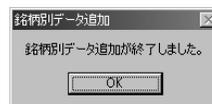
分析クエリー実行

分析クエリーを実行します。
※「分析クエリーの自動実行」が設定されている場合のみ



終了

終了します。

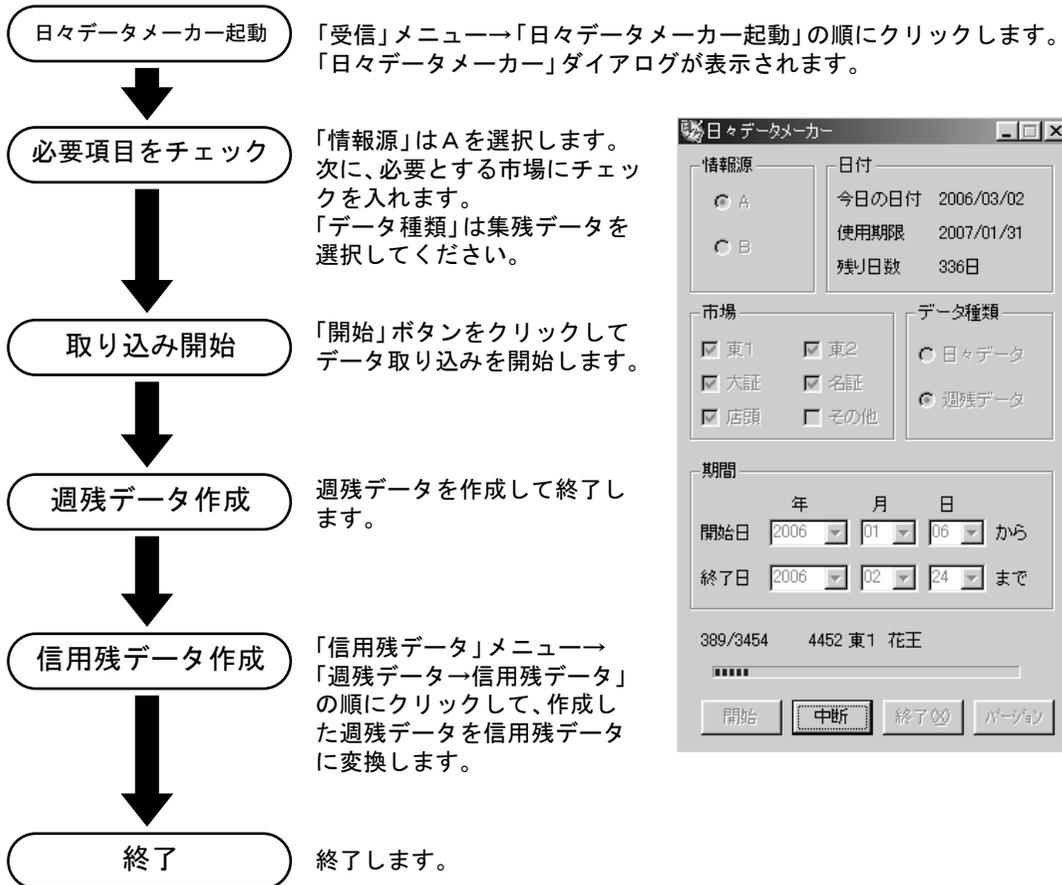


3 信用残データの取り込み

信用残データの取り込みは「日々データメーカー」を起動して行います。
信用残データは1週間毎に更新され、毎週金曜日に前週の信用残高のデータが取得可能となります。

注意! 信用残データの取得に関して

祝祭日があると週残データの更新が遅れることがあります。



注意! 信用残データを取り込んだのにその日のデータがつかられない?

信用残データの取り込みを行うと取り込みを実行した日付ではなく、前週の金曜日の日付のデータが作成されます。

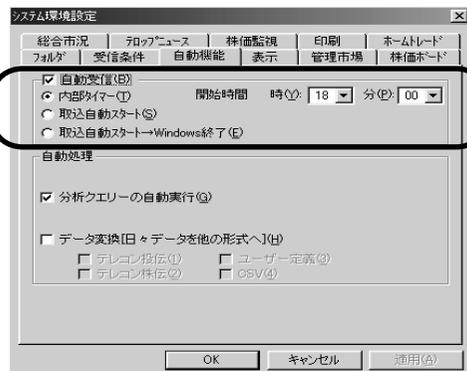
1 自動機能の種類

テレチャート・Wでは、データ取込に関する自動機能が用意されています。自動的にデータ取込を実行する方法には「内部タイマー」と「取込自動スタート」の2つのモードがあります。いずれのモードもデータ取込終了までは、自動的に処理されますので、エラー銘柄があった場合のメッセージや確認メッセージはいっさい表示されません。

2 内部タイマー

内部タイマーは、設定された時間になったら自動的にデータの取り込み処理が開始される機能です。タイマーは、テレチャート・Wが起動している状態でのみ有効ですので、テレチャート・Wを終了させたり、パソコンの電源がOFFの状態では働きません。開始時間は、データの集計が完了している18:00以降に設定されることをおすすめします。内部タイマーを有効にしておくと、無効にされるまで土日以外は毎日設定された時間に取り込みが開始されます。

1. 「設定」メニュー→「自動機能」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。



3. 「自動受信」をクリックし、チェックが表示された状態とします。
4. 「内部タイマー」をクリックし、チェックが表示された状態とします。
5. 「開始時刻」を設定します。
※設定する時間は18:00以降をおすすめします。

6. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

7. テレチャート・Wを終了させず、そのまま起動させておいてください。
※設定した時刻になると、自動的に取り込みが開始されます。

注意! 内部タイマーを正常に動作させるためには

内部タイマーを利用される場合は、パソコンの電源を常時ONの状態にしなければなりません。無人の状態での機能を利用する場合は、モニターの電源をOFFにしておくなどして、発熱による火災等には充分ご注意ください。

また、何日間もパソコンを連続動作させますと、パソコン自体が正常に動作しなくなってしまうことがあります。必ず定期的にパソコンをリセットするようにしてください。

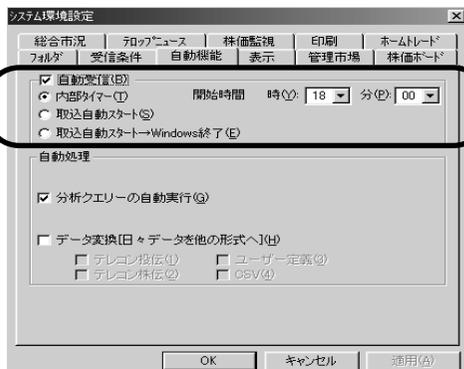
内部タイマーはパソコンに内蔵されている時計によって制御されますので、あらかじめ時間に合っているかを確認してください。

3 取込自動スタート

取込自動スタートは、Windows 起動直後にテレチャート・Wも起動させ、取り込みを自動的にスタートさせます。従って、パソコンの電源をONするだけで取り込みが開始されます。取り込みが正常に終了するとテレチャート・Wが自動的に終了されます。また、設定を「取込自動スタート→Windows終了(E)」にしておくでテレチャート・W終了と同時にWindowsを終了させることもできます。

1. 「設定」メニュー→「自動機能」の順にクリックします。

2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。



3. 「自動受信」をクリックし、チェックが表示された状態とします。
4. 「取込自動スタート」または「取込自動スタート→Windows終了」をクリックします。
5. [OK] ボタンをクリックし、終了します。
6. テレチャート・Wを終了させます。
7. Windowsを終了させ、パソコンの電源をOFFにしてください。
- 8 次回パソコン起動時は、Windows起動後にテレチャート・Wが自動的に起動し、取り込みを開始します。

注意! 朝9時前後の起動に注意!

朝9時前後に取込自動スタートを実行しますと、正常なデータが作成されません。この時間帯は、前日の確定値から、当日の立ち会い中のデータに順次移行していくため、データに一貫性がなくなります。

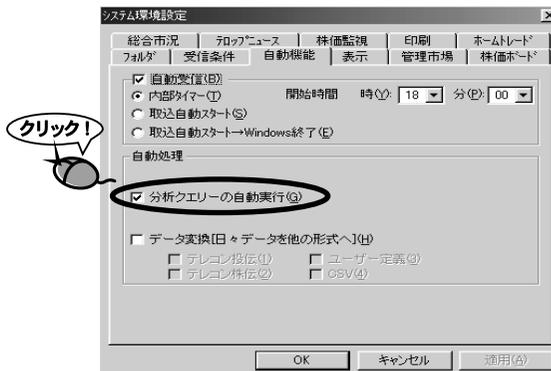
このような時や商いのない日など、取込自動スタートを実行する必要がない場合は、30秒間のカウントダウンの間に、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。



1 分析クエリーの自動実行

この機能は、取り込み実行時に選択されている分析クエリーを実行します。データ取込で週足や月足を作成した場合は、それらの分析データも作成します。この機能を有効にしておくことで、取り込みの一連の処理が終了した時点で、最新の分析データや検索結果を自動で表示することができます。分析クエリーについての詳細は『操作編 分析クエリーを使おう』を参照してください。

1. 「設定」メニュー→「自動機能」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
3. 「分析クエリーの自動実行」をクリックしてチェックをつけます。



4. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

2 データ変換

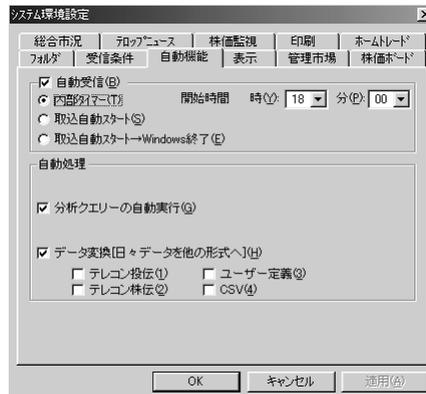
この機能は、他の分析ソフトをお使いの場合や、エクセル等を使用し独自の分析を行われている場合にのみ設定してください。

データ変換は、当日の日々データを他のデータ形式に変換します。変換できる形式は、「テレコン投伝」、「テレコン株伝」、「ユーザー定義」、「CSV」の4種類です。

データ変換についての詳細は『操作編 データ管理「6. 日々データを他の形式に変換しよう」』を参照してください。

1. 「設定」メニュー→「自動機能」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。

3. 「データ変換 [日々データを他の形式へ]」をクリックしてチェックをつけます。
4. 「テレコン投伝」「テレコン株伝」「ユーザー定義」「CSV」の中から変換する形式を選択します。
※複数選択可能です。



5. [OK] ボタンをクリックし、終了します。



8. 銘柄メンテナンス

1 銘柄メンテナンスとは

銘柄を特定するためには、コード番号を用いることが一般的です。テレチャート・Wではコード番号と銘柄名を関連付けるために「銘柄辞書」を用います。

受信された銘柄は、この「銘柄辞書」と照合され、登録されている銘柄のみがデータを蓄積することができます。

しかし、新しく上場した銘柄や銘柄名が変更された銘柄は、「銘柄辞書」と照合ができないため、データを受信、蓄積することができません。このような「銘柄辞書」に登録されていない銘柄を「エラー銘柄」と呼び、「エラー銘柄」と「コード番号」を関連付け、「銘柄辞書」に登録する作業を「銘柄メンテナンス」と呼びます。

「銘柄メンテナンス」を怠り、「銘柄辞書」が古いままデータを蓄積しますと、信頼性の高い「日々データ」を作成することができないばかりか、株価ボードやチャート、分析等にも影響します。

「銘柄辞書」を更新するためには、「銘柄メンテナンス」を新しく上場した銘柄や銘柄名が変更された銘柄が生じた際に随時行っていただくか、「銘柄辞書」ファイルをインターネットの弊社のホームページからダウンロードしていただく必要があります。なお、インターネット上の銘柄辞書は毎週水曜日に更新されます。

2 エラー銘柄のメンテナンス

エラー銘柄のメンテナンスについては、『入門編 エラー銘柄を修正しよう』を参照してください。

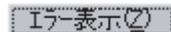
3 エラー銘柄を印刷しよう

1. 「銘柄メンテナンス」ボタンをクリックします。

※「受信」メニュー→「銘柄メンテナンス」の順にクリックしてもOK。

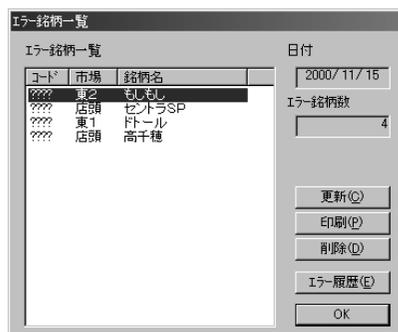


2. 「銘柄辞書一覧」ダイアログが表示されますので、つづいて「エラー表示」ボタンをクリックします。「エラー銘柄一覧」ダイアログが表示されます。



※エラーとなっている銘柄名が表示されない場合は、エラー銘柄が存在しないということになります。

3. [印刷] ボタンをクリックします。



4 エラー履歴を表示しよう

テレチャート・Wでは、データ取込時にエラー銘柄が検出されると、エラー履歴として記録します。このエラー履歴を一覧として表示します。

1. [銘柄メンテナンス] ボタンをクリックします。

※「受信」メニュー→「銘柄メンテナンス」の順にクリックしてもOK。

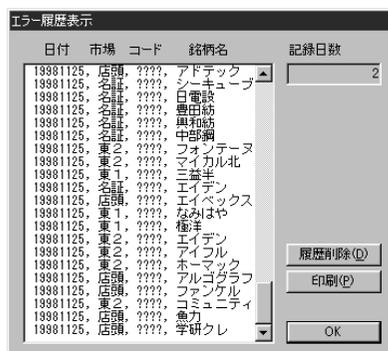


2. 「銘柄辞書一覧」ダイアログが表示されます。

※エラー銘柄が存在する場合は、「エラー銘柄一覧」ダイアログが表示されます。

3. [エラー履歴] ボタンをクリックします。

4. 「エラー履歴」ダイアログが表示されます。



エラー履歴ファイルを削除する場合は「履歴削除」ボタンをクリックしてください。削除するとエラー銘柄履歴はすべて削除され、次回日々データ作成時から新規に作成されます。表示されている履歴を印刷するには、[印刷] ボタンをクリックします。

1 銘柄を追加しよう

テレチャート・Wでは任意の銘柄を追加することができます。ただし、データを受信することができない場合がありますので、その場合は手入力を行う必要があります。

1. [銘柄メンテナンス] ボタンをクリックします。

※「受信」メニュー→「銘柄メンテナンス」の順にクリックしてもOK。



2. 「銘柄辞書一覧」ダイアログが表示されます。

※「エラー銘柄一覧」ダイアログが表示された場合は、[終了] ボタンをクリックし、「エラー銘柄一覧」ダイアログを終了します。

3. [追加] ボタンをクリックします。

4. 「銘柄修正」ダイアログが表示されます。

5. 各項目を入力します。

※市場に存在しないコード番号を入力した場合はデータ取込時にエラー銘柄として検出されますのでご注意ください。

コード(C)	<input type="text"/>	出来高単位(D)	1000
市場(M)	東1	株価単位(U)	1
銘柄名(N)	<input type="text"/>		
読みがな(R)	<input type="text"/>		
URL(U)	<input type="text"/>		
		OK	キャンセル

6. 入力が終了しましたら[OK] ボタンをクリックします。

2 銘柄の設定を変更しよう

すでに登録されている銘柄の各種単位・読みがなを変更したり、ホームページのアドレスを追加することができます。

1. [銘柄メンテナンス] ボタンをクリックします。

※「受信」メニュー→「銘柄メンテナンス」の順にクリックしてもOK。



2. 「銘柄辞書一覧」ダイアログが表示されます。

※「エラー銘柄一覧」ダイアログが表示された場合は、[終了] ボタンをクリックし、「エラー銘柄一覧」ダイアログを終了します。

3. 銘柄の一覧リストで、修正する銘柄をクリックし、選択します。

4. [修正] ボタンをクリックします。

5. 「銘柄修正」ダイアログが表示されます。

6. 該当する項目を変更します。

コード(C)	<input type="text"/>	出来高単位(U)	1000
市場(M)	東1	株価単位(U)	1
銘柄名(N)	<input type="text"/>		
読みがな(R)	<input type="text"/>		
URL(H)	<input type="text"/>		
		OK	キャンセル

7. 入力が終了しましたら [OK] ボタンをクリックします。

注意! 銘柄名は変更しないで!

コード番号、市場、銘柄名は特に必要がある場合を除いて変更しないでください。これらの設定を変更するとデータが正常に受信できなくなります。

また、すでに登録されている銘柄の「株価単位」「出来高単位」を変更すると、データの一貫性がなくなり、チャートや各種分析結果に影響を及ぼします。

3 作成した銘柄を削除する

「銘柄を追加しよう」で追加した銘柄を削除します。

1. [銘柄メンテナンス] ボタンをクリックします。
※「受信」メニュー→「銘柄メンテナンス」の順にクリックしてもOK。
2. 「銘柄辞書一覧」ダイアログが表示されます。
※「エラー銘柄一覧」ダイアログが表示された場合は、[終了] ボタンをクリックし、「エラー銘柄一覧」ダイアログを終了します。
3. 銘柄の一覧リストで、削除する銘柄をクリックし、選択します。
4. [削除] ボタンをクリックします。
5. 削除確認メッセージが表示されます。表示内容を確認し、データも同時に削除する場合は [はい] を、辞書の登録のみを削除する場合は [いいえ]、削除をやめる場合は [キャンセル] をクリックします。
※データを残しますと、後日この銘柄のデータが必要になった場合、再度チャート等に利用することができます。



1 新規上場銘柄のデータを追加しよう

新規に上場した銘柄が存在する場合は、いつでも追加登録ができます。銘柄辞書に登録を行うまでは株式市場に銘柄が存在してもデータが記録されません。この状態はメンテナンスを実行し、銘柄を登録するまで続きます。

日々データとは銘柄別データにデータを記録するために毎日のデータ取込時に作成されるデータファイルで、全銘柄の4本値、出来高が1日分記録されています。銘柄別データとは銘柄ごとに存在し、日足・週足・月足を記録したデータファイルです。チャートの表示や分析を実行するのに使用します。

銘柄メンテナンスを実行すると実行後からのデータ取込では銘柄別データにデータが記録され、チャートや分析にデータが使えるようになりますが、銘柄メンテナンス実行前のデータについては銘柄別データに記録されていないので使用することができません。このような場合には銘柄の登録を行ってから、日々データメーカーを起動してデータを取得してください。長期間に渡ってこのような状態が続いた場合には銘柄別データを起動し、個別の銘柄コードを指定してデータを取得したほうが手間がかかりません。詳しくはそれぞれの機能別マニュアルを参照してください。

1. [銘柄メンテナンス] ボタンをクリックします。

※「受信」メニュー→「銘柄メンテナンス」の順にクリックしてもOK。



2. 「銘柄辞書一覧」ダイアログが表示されます。

※エラー銘柄が存在する場合は、「エラー銘柄一覧」ダイアログが表示されます。

3. [追加] ボタンをクリックします。

4. 弊社ホームページ等で新規上場銘柄とコード番号を確認して必要項目に入力します。

5. [銘柄メンテナンス] を終了します。

6. 「日々データメーカー起動」を実行します。

※ここで、新規上場があった日付以降を指定し、データを取得して日々データファイルを作成してください。

7. 「日々データ→銘柄別データ」を実行します。

※「日々データ→銘柄別データ変換」を実行し、更新された銘柄のデータを銘柄別データに追加します。ここでも新規上場があった日付以降の日々データを全て選択し、変換を実行してください。

「日々データ→銘柄別データ」変換については『操作編 日々データを管理しよう「4. 日々データを銘柄別データに再変換しよう」』を参照してください。



9. 銘柄グループ

1 銘柄グループとは

テレチャート・Wでは、特定の銘柄のみを集めてメイン画面に表示することができます。この必要な銘柄を集めた銘柄の集合体を銘柄グループと呼びます。銘柄グループの機能を使うことにより、見る必要のない銘柄は画面に表示されないため銘柄が探しやすく、また株価ボードで頻繁にページを切り替えたりする手間が省けます。

銘柄グループはいくつでも作成ことができ、それぞれの銘柄グループには好きな名前をつけて保存しておくことができます。また、登録できる銘柄数には規定がありませんので、何銘柄でも登録することができます。

株価ボードで銘柄グループを選択しますと、登録されている銘柄のみが表示されデータが更新されていきますが、表示されていない銘柄も常に最新のデータを受信しています。他の銘柄グループに変更した場合にもその時点での最新のデータを表示できるようになっています。

2 銘柄グループを作ろう

『入門編 注目銘柄だけを表示しよう「1. 銘柄グループを作成しよう」』

3 銘柄グループを表示しよう

『入門編 注目銘柄だけを表示しよう「2. 銘柄グループを表示しよう」』

4 銘柄グループに登録されている銘柄を入れ替えよう

すでに作成済みの銘柄グループに登録されている銘柄を変更します。
ただし「東証1部」「東証2部」「大証」「名証」「他市場」「店頭」は、変更することができません。

参考

例えば

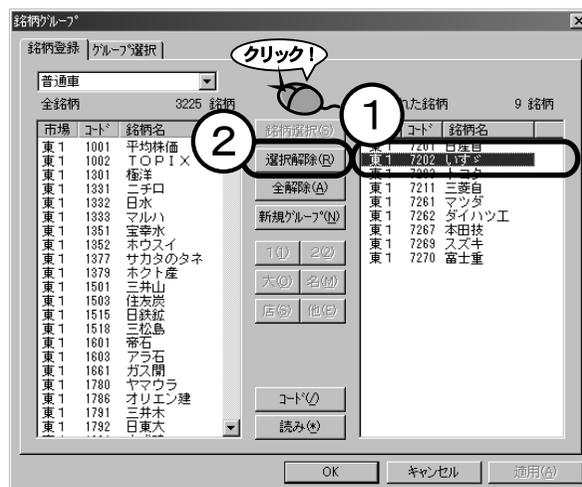
ここでは、例として「普通車」グループから「7202 東1 いすゞ」を削除し、新たに「7272 東1 ヤマハ発」を追加します。

1. 「グループ」メニュー→「グループ操作」を選択します。
2. 「銘柄グループ」ダイアログが表示されます。

3. 銘柄グループ名が表示されているコンボボックスから、目的のグループを選択します。



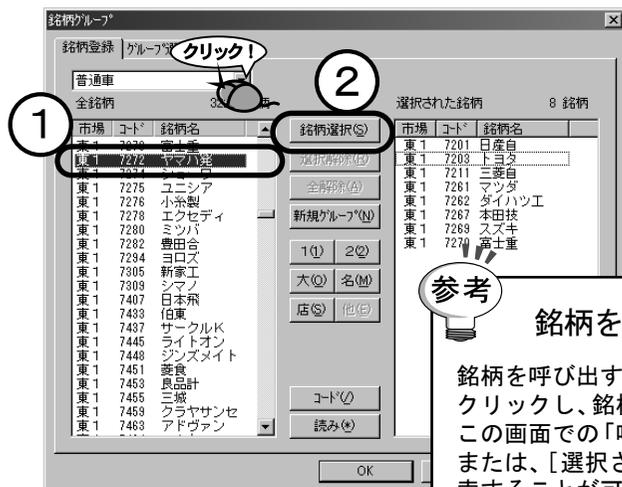
4. 銘柄の登録を削除します。
「選択された銘柄」リスト内で、銘柄グループから登録を削除する銘柄をクリックし、選択状態とします。
5. [選択解除] ボタンをクリックします。「選択された銘柄」リストから銘柄が削除されます。
※銘柄をダブルクリックでもOK。



6. 新しい銘柄を登録します。
「全銘柄」リストから追加登録する銘柄をクリックし、選択状態とします。

7. [銘柄選択] ボタンをクリックします。「選択された銘柄」リストに銘柄が追加されます。

※ダブルクリックやドラッグ&ドロップでもOK。



参考

銘柄を探すには

銘柄を呼び出すには、[コード]や[読み]ボタンをクリックし、銘柄呼び出しを行うと便利です。この画面での「呼び出し機能」は、[全銘柄]リストまたは、[選択された銘柄]リストのどちらでも検索することが可能です。呼び出し機能については、『入門編 目的の銘柄を探し出そう』を参照してください。

8. [OK] ボタンをクリックして終了します。



参考

銘柄の並び順

[選択された銘柄] リストでは、銘柄の順序をドラッグ&ドロップで入れ替えることができます。この並び順は、そのまま「株価ボード」や「分析リスト」などのメイン画面に反映されます。詳しくは、『操作編 銘柄をグループで管理しよう「4. 銘柄の並び順を変更しよう」』を参照してください。

5 銘柄の並び順を変更しよう

株価ボードなどに表示する銘柄の順番を変更します。
ただし「東証1部」「東証2部」「大証」「名証」「他市場」「店頭」は、変更することができません。

参考

例えば

ここでは、例として「自動車」の銘柄の並びを以下のように変更します。

ソート前			→	ソート後		
「7201	東1	日産自		「7203	東1	トヨタ
「7203	東1	トヨタ		「7267	東1	本田技
「7211	東1	三菱自		「7201	東1	日産自
「7267	東1	本田技		「7211	東1	三菱自

1. 「グループ」メニュー→「グループ操作」を選択します。
2. 「銘柄グループ」ダイアログが表示されます。
3. 銘柄グループ名が表示されているコンボボックスから、目的のグループを選択します。



4. 「選択された銘柄」リスト内で、銘柄の並び順を変更します。
並び順を変更するには、銘柄をドラッグし表示したい順番のところでドロップします。
※例では、「7203 東1 トヨタ」を一番上に持つてくるために、2番目に表示されている「7201 東1 日産自」をドラッグし、「7201 東1 日産自」の上でドロップします。

選択された銘柄 4 銘柄

市場	コード	銘柄名
東1	7201	日産自
東1	7203	トヨタ
東1	7211	三菱自
東1	7267	本田技

ドラッグ...

続いて、同様に「7211 東1 本田技」をドラッグし、「7201 東1 日産自」の上でドロップします。

選択された銘柄 4 銘柄

市場	コード	銘柄名
東1	7203	トヨタ
東1	7201	日産自
東1	7211	三菱自
東1	7267	本田技

ドラッグ...

5. 並び替えが終わったら [OK] ボタンをクリックし終了します。



1 メイン画面で作成・編集する際の基礎知識

株価ボード、銘柄リスト、分析データの画面上で銘柄グループの作成、編集を行うことができます。
メイン画面を使用して、銘柄グループの作成・編集を行うには、以下の基本知識が必要になります。

●銘柄の選択方法

銘柄を選択状態にするにはいくつかの方法があります。基本的には、下記の3種類になります。

- ・「C t r l」キーを押しながらクリック
- ・「スペース」キー
- ・「ポップアップメニュー（右クリック後に表示されるメニューから、グループ登録を選択）」

また設定によって、下記の方法で選択することができます。

- ・「E n t e r」キー
- ・ダブルクリック

設定方法は、「設定」メニュー→「システム環境」の順に選択します。

「システム環境設定」ダイアログが表示されましたら、「表示」タブをクリックし、「情報」項目内の「E n t e r」キーで表示される情報・機能、「ダブルクリックで表示される情報・機能」を設定します。

なお、連続した複数の銘柄を選択するには以下の方法を用います。

- ・「S h i f t」キーを押しながらクリック

この方法は、選択した銘柄よりも前に並んでいる銘柄の全て選択状態とします。前に並んでいる銘柄の中にすでに選択済みの銘柄がある場合は、その銘柄からクリックしたまでが選択されます。

まちがって選択した銘柄を選択解除するには、選択と同じ処理をもう一度その銘柄に対して行います。

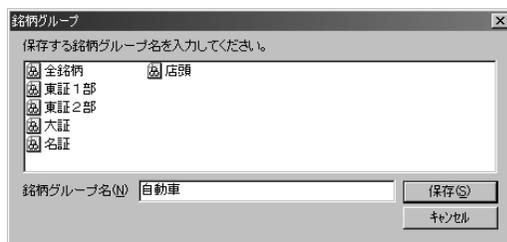
●銘柄の選択状態

銘柄の選択状態は、銘柄名が表示されている部分の色で判別します。ここでは、デフォルトの設定色で説明しますので、設定を変更された場合は、それぞれの色に読み替えてください。

- ・灰色 通常の銘柄
- ・緑色 カーソル位置の銘柄
- ・黄色 選択された（選択済みの）銘柄
- ・ピンク色 選択された（選択済みの）銘柄でカーソル位置の銘柄（黄色＋緑色）

2 銘柄グループの作成しよう

1. 株価ボード、銘柄リスト、分析データのいずれかの画面を表示します。
※すでに銘柄グループが選択されている場合は、全銘柄が表示されず、登録する銘柄が表示されていない場合があります。その場合は「全銘柄」を選択してください。
銘柄グループの選択は、『入門編 注目銘柄だけを表示しよう』2. 銘柄グループを表示しよう』を参照してください。
2. 銘柄グループに登録する銘柄を選択します。
3. 「グループ保存」ボタンをクリックします。
※「グループ」メニュー→「グループ保存」の順にクリックしてもOK。
4. 「銘柄グループ」ダイアログが表示されます。
5. 「銘柄グループ名」欄に銘柄グループの名前を入力します。



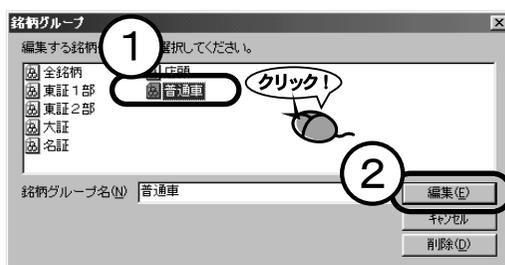
6. [保存] ボタンをクリックします。

注意! 銘柄グループを作ったのに表示されない?

作成した銘柄グループを表示するには、銘柄グループを選択する必要があります。
銘柄グループの選択は、『入門編 注目銘柄だけを表示しよう』2. 銘柄グループを表示しよう』を参照してください。

3 銘柄グループに登録されている銘柄を入れ替えよう

1. 株価ボード、銘柄リスト、分析データのいずれかの画面を表示します。
2. 「グループ編集」ボタンをクリックします。
※「グループ」メニュー→「グループ編集」の順にクリックしてもOK。
3. 「銘柄グループ」ダイアログが表示されます。
4. 表示されている銘柄グループの一覧から、目的の銘柄グループをクリックし、選択状態とします。
5. [編集] ボタンをクリックします。



6. メイン画面に戻ります。すでに登録されている銘柄は選択状態で表示されます。
7. 銘柄の選択・解除を行います。
8. 変更した内容を保存します。「グループ保存」ボタンをクリックします。
※「グループ」メニュー→「グループ保存」の順にクリックしてもOK。
9. 「銘柄グループ」ダイアログが表示されます。
10. 一覧のリストから、目的の銘柄グループをクリックし、選択状態とします。
ただし、新しい銘柄名で保存する場合は、「銘柄グループ名」欄に銘柄グループの名前を入力します。

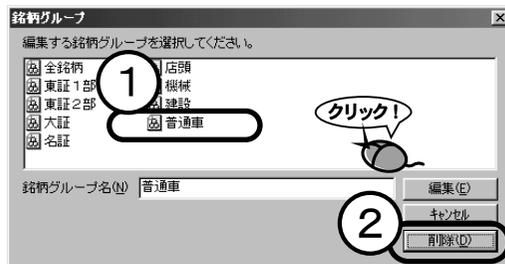


11. [保存] ボタンをクリックします。

1 いらなくなった銘柄グループを削除しよう

必要のない銘柄グループを削除します。

1. 「グループ」メニュー→「グループ編集」を選択します。
2. 「銘柄グループ」ダイアログが表示されます。
3. 削除する銘柄グループをクリックします。
4. [削除] ボタンをクリックします。リストから該当する銘柄グループが削除されます。
※「Delete」キーでもOK。



参考

銘柄グループ選択や銘柄グループ保存でも

銘柄グループ選択や銘柄グループ保存で表示される「銘柄グループ」ダイアログでも、[削除] ボタンはありませんが、「Delete」キーを使用する事によって、銘柄グループを削除できます。

5. 削除確認メッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックします。



6. [キャンセル] ボタンをクリックし、終了します。

2 銘柄グループの名前を変更しよう

すでに作成済みの銘柄グループの名前を変更します。
ただし「東証1部」「東証2部」「大証」「名証」「他市場」「店頭」は、変更することができません。

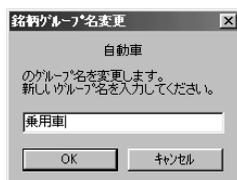
1. 「グループ」メニュー→「グループ操作」を選択します。
2. 「銘柄グループ」ダイアログが表示されます。
3. 「グループ選択」タブをクリックします。



4. 「全ての銘柄グループ」リストから、名前を変更する銘柄グループをクリックし、選択状態とします。
5. [名称変更] ボタンをクリックします。



6. 「銘柄グループ名変更」ダイアログが表示されます。新しいグループ名を入力してください。



7. [OK] ボタンをクリックします。

8. 「銘柄グループ」ダイアログに戻ります。[OK] ボタンをクリックし、終了します。



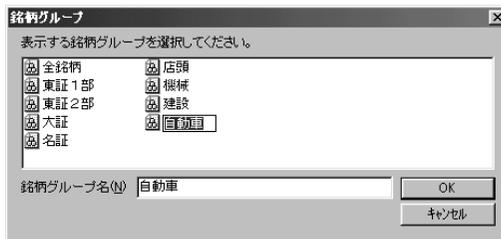
参考

銘柄グループ選択や銘柄グループ保存でも

銘柄グループ選択や銘柄グループ保存、銘柄グループ編集の各ダイアログでも銘柄グループ名を変更することができます。

これらの画面では、以下の手順で行います。

1. ダイアログ表示後、名前を変更する銘柄グループをクリックし、選択状態とします。
2. 選択した銘柄グループのテキスト部分を再度クリックします。
3. テキスト入力モードになります。
4. 新しい銘柄グループ名を入力します。
5. 「Enter」キーを押すか、入力領域外をクリックします。
6. [キャンセル] ボタンをクリックし、終了します。



3 リストの表示順を変更しよう

メイン画面上の「銘柄グループ選択」コンボボックスに表示される銘柄グループの並び順を変更します。

1. 「グループ」メニュー→「グループ操作」を選択します。
2. 「銘柄グループ」ダイアログが表示されます。
3. 「グループ選択」タブをクリックします。



4. 右側の「表示する銘柄グループ」リストで、並び順を変更する銘柄グループをクリックし、選択状態とします。



5. [上へ] ボタン、[下へ] ボタンをクリックし、銘柄グループを任意の位置へ移動します。

※ドラッグ&ドロップでも任意の位置へ移動させることもできます。



6. [OK] ボタンをクリックして終了します。



参考

表示する銘柄グループを選択できます

左側に表示されている[すべての銘柄グループ]には、記録されているすべての銘柄グループが表示されます。

このリスト内に必要な銘柄グループがある場合は、その銘柄グループをクリックして選択状態にして[選択]ボタンをクリックします。選択された銘柄グループは[表示する銘柄グループ]リストに追加されます。

また、表示する必要のない銘柄グループが存在する場合は、[表示する銘柄グループ]から該当する銘柄グループを選択し、[解除]ボタンをクリックすることで表示されなくなります(表示されなくなるだけで、再度設定することで表示することができます)。



10. 銘柄情報

1 銘柄情報とは

銘柄の現在の株価、銘柄辞書の設定内容を表示します。
また、アラームの設定を行います。



- [コード] 銘柄のコード番号です。
 [市場] 銘柄の上場している市場です。
 [銘柄名] 文字放送で放送されている銘柄名です。
 [読みがな] 銘柄の正式名称の読みがなです。
 銘柄メンテナンス時に入力しなかった場合は表示されません。
- [受信日付] 現在のデータの日付を表示します。
 [更新時刻] 現在のデータの時刻(受信時刻ではなく、値が付いた時刻)を表示します。
 確定後は「確定」と表示されます。
- [始値] 始値です。
 [高値] 高値です。
 [安値] 安値です。
 [現在値] 現在値です。
 [前日比率] 前日比率を百分率(%)で表示します。
 [当日比率] 当日比率を百分率(%)で表示します。
 [出来高] 出来高です。
- [出来高単位] 銘柄辞書に登録されている出来高単位です。
 額面5万円以上の高株価銘柄は「1」、それ以外の銘柄は「1000」になります。
- [株価単位] 辞書に登録されている株価単位です。
 額面5万円以上の高株価銘柄は「100」、それ以外の銘柄は「1」になります。
- [URL] 銘柄のホームページのアドレスです。ホームページの存在しない銘柄は空白になります。

※各種単位設定やURLの登録は、銘柄メンテナンスで行います。

『操作編 独自銘柄を管理しよう「4. 銘柄の設定を変更しよう」』を参照してください。

- [アラーム] アラームの設定が有効の場合、チェックが表示されます。
 グレー表示になっている場合はアラームが設定されていません。
 [上昇アラーム] 現在設定されている上昇アラームの設定値です。
 [下降アラーム] 現在設定されている下降アラームの設定値です。

※監視アラームについては、『操作編 値動きをアラームで知らせる』を参照してください。

2 銘柄情報を表示しよう

1. 株価ボードで銘柄情報を表示する銘柄をクリックし、選択状態とします。
※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。
2. [銘柄情報] ボタンをクリックします。
※「情報」メニュー→「銘柄情報」の順にクリックしてもOK。
3. 「銘柄情報」ダイアログが表示されます。



銘柄情報			
市場	東証1部	銘柄名	日産自動車
コード	7201	読みがな	ニッサン自動車
銘柄名	日産自	現在値	1331
読みがな	ニッサン自動車	出来高	5071.2

株価			
受信日付	3日	更新時刻	10:11
始値	1336	前日比率	-0.2%
高値	1338	当日比率	-0.3%
安値	1325		
現在値	1331	出来高	5071.2

証券情報

出来高単位

株価単位

URL

アラーム(A)

上昇アラーム 円 下降アラーム 円

OK

3 銘柄情報を閉じるには

1. 右上にある「×」ボタンをクリックします。



銘柄情報			
市場	東証1部	銘柄名	日産自動車
コード	7201	読みがな	ニッサン自動車
銘柄名	日産自	現在値	1331
読みがな	ニッサン自動車	出来高	5071.2

株価			
受信日付	3日	更新時刻	10:11
始値	1336	前日比率	-0.2%
高値	1338	当日比率	-0.3%
安値	1325		
現在値	1331	出来高	5071.2

証券情報

出来高単位

株価単位

URL

アラーム(A)

上昇アラーム 円 下降アラーム 円

OK



11. ホームページ

1 ホームページって？

ホームページとは、インターネットで提供されるサービスのひとつで、いろいろな情報が掲載されています。

それぞれの企業のホームページには業務内容や会社の規模、経営理念等の企業をより理解するための情報が豊富にあります。株式を購入するときの判断に役立つ情報も含まれるので、ホームページをご覧になることをおすすめします。

2 ホームページを表示しよう

1. 株価ボードでホームページを表示する銘柄をクリックし、選択状態とします。

※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。

2. [ホームページ] ボタンをクリックします。

※「情報」メニュー→「ホームページ」の順にクリックしてもOK。



3. インターネットに接続します。

自動的にブラウザが起動し、ホームページが表示されます。

※起動するブラウザは、Windowsに標準のブラウザとして登録されているブラウザです。

起動するブラウザを変更するには、ブラウザの操作になりますので、ブラウザのマニュアル等を参照してください。



1 ホームページのアドレスを入力する

1. 「銘柄メンテナンス」ボタンをクリックします。
※「受信」メニュー→「銘柄メンテナンス」の順にクリックしてもOK。
2. 「銘柄辞書一覧」ダイアログが表示されます。
※「エラー銘柄一覧」ダイアログが表示された場合は、[終了]ボタンをクリックし、「エラー銘柄一覧」ダイアログを終了します。
3. [追加] ボタンをクリックします。
4. 「銘柄修正」ダイアログが表示されます。
5. 「URL」欄にホームページのアドレスを入力します。



6. 入力が終了しましたら [OK] ボタンをクリックします。
7. 「銘柄辞書一覧」ダイアログに戻ります。「終了」ボタンをクリックします。

注意! ホームページを表示するには

ホームページを表示するには、インターネットにつなげることができる環境が必要です。また、すべての企業がホームページを持っているわけではないのでご注意ください。ホームページを表示するにはその企業のホームページのアドレスを知っている必要があります。ホームページのアドレスはお客様がご自分で調べる必要があります。ホームページのアドレスは銘柄メンテナンスの銘柄修正で登録することができます。



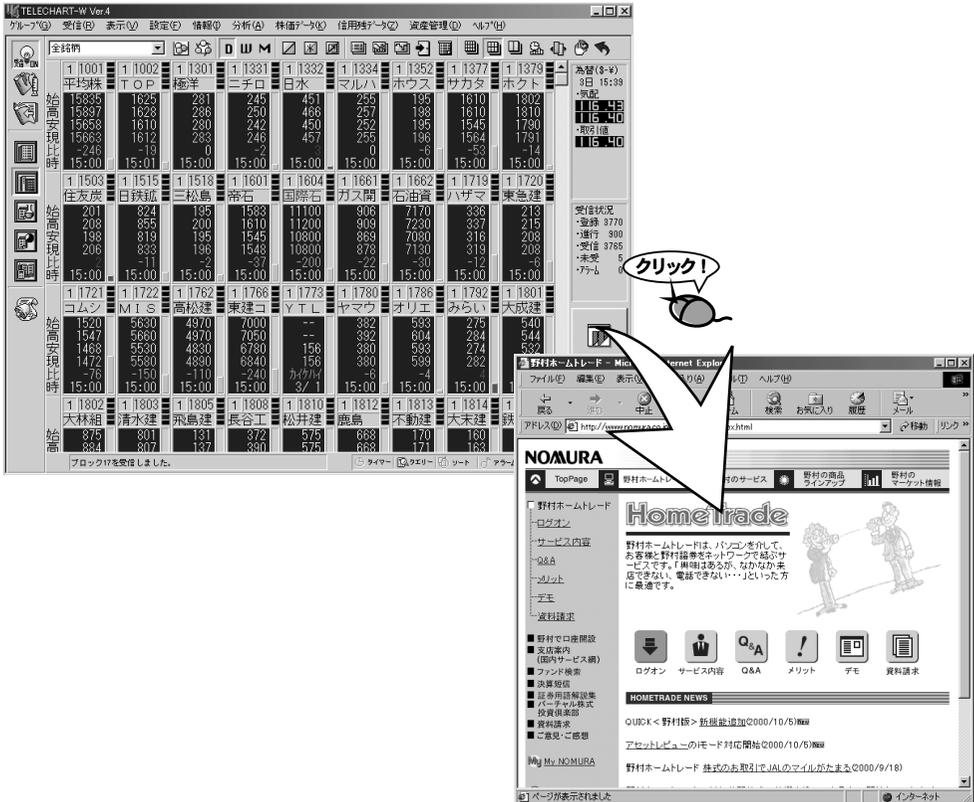
12. ホームトレードボタン

1 ホームトレードボタンとは

ホームトレードボタンには、ホームページのアドレスを設定でき、ボタンをクリックするだけで、そのホームページを表示することができます。
インターネット取り引きなどをされている場合、株価ボードで株価のチェックを行いながら、取り引きのある証券会社のホームページを開き、即座に注文をすることができます。

2 ホームページを表示しよう

1. [ホームトレード] ボタンをクリックします。
2. インターネットに接続します。
自動的にブラウザが起動し、ホームページが表示されます。
※起動するブラウザは、Windowsに標準のブラウザとして登録されているブラウザです。
起動するブラウザを変更するには、ブラウザの操作になりますので、ブラウザのマニュアル等を参照してください。

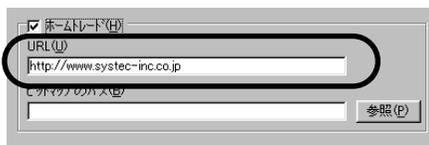


1 ホームページのアドレスを入力する

1. 「設定」メニュー→「システム環境」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ホームトレード」タブをクリックします。



4. 「URL」欄に目的のホームページのアドレスを入力します。
※「ホームトレード」チェックボックスにチェックが入っていない場合は、クリックしてチェックを入れてください。



5. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

注意! ホームページを表示するには

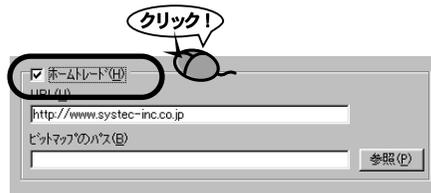
ホームページを表示するには、インターネットにつなげることができる環境が必要です。

2 ホームトレードボタンの表示・非表示

1. 「設定」メニュー→「システム環境」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ホームトレード」タブをクリックします。



4. ホームトレードボタンを表示するには、「ホームトレード」チェックボックスをクリックし、チェックを付けます。非表示にするには、チェックを外します。



5. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

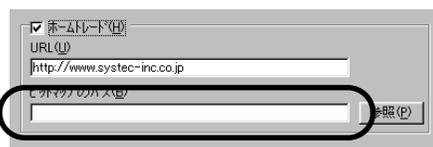
3 ホームトレードボタンに画像ファイルを表示

ホームトレードボタンには、任意の画像ファイル（ビットマップ）を表示することができます。ビットマップファイルを指定しない場合はデフォルトのアイコンが表示されます。また、ボタンのサイズよりも大きい画像ファイルを指定した場合は、画像ファイルの一部分が表示されます。

1. 「設定」メニュー→「システム環境」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ホームトレード」タブをクリックします。



4. 「ビットマップのパス」欄に、表示する画像ファイルのパスを入力するか、[参照] ボタンをクリックし、画像ファイルを選択します。
※「ホームトレード」チェックボックスにチェックが入っていない場合は、クリックしてチェックを入れてください。



5. [OK] ボタンをクリックし、終了します。



13. データ管理

1 日々データとは

日々データとは、インターネットから取り込んだ1日分のデータで株価データが記録されています。毎日1ファイルずつ作成され、全銘柄の4本値と出来高が記録されています。銘柄別データを更新するのに使われるデータで、データ形式はテキストファイルとなっています。日々データのファイル名には、記録されているデータの日付にDSがついていますので、ファイル名を見るだけでいつのデータであるかを判断することができます。

- ・例・ 1998年11月1日のデータの場合
- ・ ファイル名 = DS199811.01

テキストファイルですので、必要があればエディタ等(メモ帳)で内容を確認したり、編集することも可能です。ただし、間違った編集を行うとファイルが読み込めなくなったり、TELECHART-W自体の動作を不安定にする可能性があります。できる限り編集しない方がよいでしょう。

2 日々データの内容を確認しよう

過去に作成した日々データの内容を確認することができます。ここでは日々データを表示するだけで、編集はできません。

1. 「株価データ」メニュー→「日々データ表示」の順にクリックします。
2. 「日々データ選択」ダイアログが表示されます。
3. 表示する日々データをクリックし、選択状態とします。



4. [表示] ボタンをクリックします。
※日々データをダブルクリックしてもOK。

5. 「日々データ表示」ダイアログが表示されます。

市場	コード	銘柄名	始値	高値	安値	終値	出来高
東	1.1001	平均株価	15356	15422	15259	15340	539.26
東	1.1002	TOPIX	1454	1458	1448	1452	539.26
東	1.1301	極子	149	145	139	145	172
東	1.1331	三井物産	189	201	189	198	2783
東	1.1332	日水	182	182	178	180	595
東	1.1339	マルハ	128	133	127	133	1038
東	1.1351	宝華水	65	65	63	63	46
東	1.1352	ホウスイ	30	36	30	35	6
東	1.1377	サカタのタネ	2085	2085	2040	2045	19.5
東	1.1379	ホクト産	3520	3560	3500	3500	20.5
東	1.1501	三井山	90	90	88	88	118
東	1.1503	住友炭	61	64	61	63	140
東	1.1515	日鉄鉱	219	221	219	219	67
東	1.1516	三井物産	157	159	153	153	45
東	1.1601	帝石	591	594	555	576	1441
東	1.1603	アラ石	768	768	768	768	407.5
東	1.1661	カス開	565	572	550	551	178
東	1.1780	アマウラ	330	340	330	340	23
東	1.1785	オリエン建	380	380	375	379	1.4
東	1.1791	三井木	121	121	111	118	8.5
東	1.1792	日東大	199	199	198	198	16
東	1.1801	大成建	161	162	158	159	609
東	1.1802	大林組	453	453	451	451	706
東	1.1803	清水建	308	310	298	301	764
東	1.1804	佐藤工	45	45	43	45	171
東	1.1805	飛島建	43	44	41	43	160
東	1.1806	フジタ	30	31	29	30	510
東	1.1808	岩谷工	27	27	26	26	1100
東	1.1809	三井工	39	40	39	40	29
東	1.1810	松井建	292	292	286	286	10
東	1.1812	鹿島	301	301	289	292	1198
東	1.1813	不動建	115	118	113	115	51

- ・「日付」
選択したファイルの作成日が表示されます。
- ・「銘柄数」
正常にデータが取り込まれた銘柄数が表示されます。
- ・「エラー銘柄数」
新規上場などで、コード番号がわからない銘柄数が表示されます。
- ・「検索」
コード番号検索を行います。エディットボックスに検索対象銘柄のコード番号を入力し、[コード] ボタンをクリックすると対象銘柄をリスト内に表示します。
- ・「市場移動」
各市場の先頭銘柄を表示します。

6. [OK] ボタンをクリックして終了します。

3 日々データを銘柄別データに再変換しよう

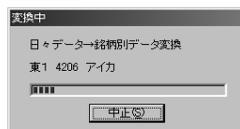
「日々データ→銘柄別データ」変換は通常銘柄別データ追加時に自動で実行されます。

1. 「株価データ」メニュー→「日々データ→銘柄別データ」の順にクリックします。
2. 「日々データ選択」ダイアログが表示されます。
3. 変換する日々データをクリックし、選択状態とします。
※なお、複数の日々データファイルを一度に変換することが可能です。複数のファイルを選択するには、キーボードの「C t r l」キーや「S h i f t」キーを押しながらクリックします。



4. [変換] ボタンをクリックします。
※日々データをダブルクリックしてもOK。

5. 変換が実行されます。



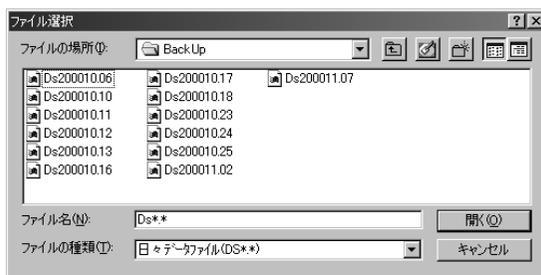
6. 終了メッセージが表示されます。



4 過去にバックアップした日々データを読み込もう

以前に「日々データ保存」を実行し、保存してある日々データを復帰します。

1. 「株価データ」メニュー→「日々データ復帰」の順にクリックします。
2. 復帰する日々データを選択する「ファイル選択」ダイアログが表示されま
す。
3. 日々データが記録されているフォルダを開き、復帰する日々データファイル
を選択します。
※なお、複数の日々データファイルを一度に変換することが可能です。複数のファイルを選
択するには、マウスで囲ったり、キーボードの「C t r l」キーや「S h i f t」キーを押し
ながらクリックします。



4. [開く] ボタンをクリックします。
5. 復帰 (ファイルコピー) が実行されます。



6. 終了メッセージが表示されます。



5 日々データを他の形式に変換しよう

テレチャート・Wでは日々データを任意の形式にデータ変換する機能があります。テレコン投伝形式、テレコン株伝形式、ユーザー設定形式、CSV形式にデータ変換できます。変換されたデータは、表計算ソフトや、自作プログラム、市販の株価分析ソフト等で利用できます。

●データ変換の実行

1. 「株価データ」メニュー→「データ変換」の順にクリックします。
2. 「データ変換」ダイアログが表示されます。



3. 変換を実行する日々データを一覧から選択します。
※なお、複数の日々データファイルを一度に変換することが可能です。複数のファイルを選択するには、キーボードの「Ctrl」キーや「Shift」キーを押しながらクリックします。
4. 目的のデータ形式のボタンをクリックします。
5. 変換が実行されます。



6. [終了] ボタンをクリックし、終了します。

●記録先を変更しよう

変換データの記録先を変更します。ただし、データ変換ダイアログでの保存先の変更は、次回起動時には、元の設定に戻ります。

記録先を固定したい場合は、下の「参照」をご覧ください。

1. [参照] ボタンをクリックします。



2. 「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。

※「記録先」に直接パスを入力することもできます。

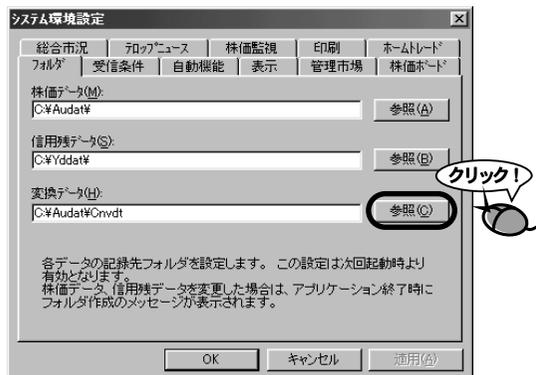
3. 記録先のフォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

参考

変換データ記録先の固定

変換データの記録先を固定するには、以下の手順で行ってください。

1. 「設定」メニュー→「システム環境」を順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。



3. [参照] ボタンをクリックします。
4. 「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。
5. 新しい記録先フォルダを選択し、[OK] ボタンをクリックします。
6. 「システム環境設定」ダイアログの [OK] ボタンをクリックし、終了します。

● 変換する市場を選択しよう

優先市場のみのデータを作成したり、変換するデータを各市場に絞り込む場合は、市場を選択します。



参考

全市場 1 と全市場 2 とは

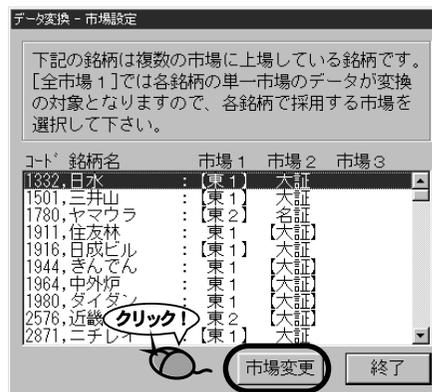
テレチャート・Wでは、複数市場に登録されている銘柄のデータは、それぞれ別々に扱いますが、テレコン投伝やテレコン株伝形式など、複数市場に対応していないデータ形式が存在します。

このような場合は、「全市場 1」を選択します。「全市場 1」では、複数上場の銘柄毎に、データ変換に採用する市場を設定することができます。

「全市場 2」では、全てのデータを変換します。

全市場 1 の設定

1. 「市場」の選択で「全市場 1」を選択します。
2. 「設定」ボタンをクリックします。
3. 「市場設定ダイアログ」が表示されます。
4. 市場を設定する銘柄を選択します。
5. [市場変更] ボタンをクリックし、変換する市場を設定します。
6. [終了] ボタンをクリックし、終了します。



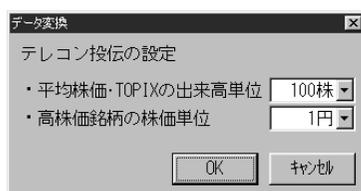
●テレコン投伝形式の設定を変更しよう

テレコン投伝形式とは、過去に株価配信で使われていたデータ形式で、現在ではほとんど利用されていません。

ファイル名は「DKABU000.DT」に固定されており、複数の日付のデータを1ファイルに変換します。

テレコン投伝データでは平均株価・TOPIXの出来高単位、高株価銘柄の株価単位を変更することができます。

1. [設定] ボタンをクリックします。
2. ダイアログが表示され、設定変更できます。



3. [OK] ボタンをクリックして終了します。

●テレコン株伝形式の設定を変更しよう

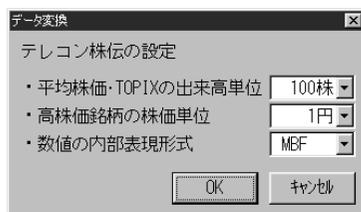
テレコン株伝形式とは、過去に株価配信で使われていたデータ形式で、現在ではほとんど利用されていません。

ファイル名は「DKABU0.DAT」と「DKABU0.IDX」に固定されており、複数の日付のデータを1ファイルに変換します。

テレコン投伝データでは平均株価・TOPIXの出来高単位、高株価銘柄の株価単位を変更することができます。

また、数値の内部表現形式 (MBF、IEEE) を選択することができます。

1. [設定] ボタンをクリックします。
2. ダイアログが表示され、設定変更できます。



3. [OK] ボタンをクリックして終了します。

●ユーザー定義形式の設定を変更しよう

ユーザー定義形式とは、ユーザーがデータのフォーマットを作成できるデータ形式です。各種設定の設定方法は、「技術資料・データ変換ユーザー定義形式」をご参照ください。

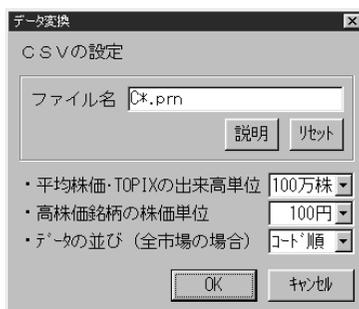
●CSV形式の設定を変更しよう

CSV形式とは、表計算ソフトで一般的に用いられるファイル形式で、エクセルなどの表計算ソフトで読み込むことができます。

日付をファイル名に使用する事により毎日違ったファイル名で登録する事ができます。また、日付を使用せず任意のファイル名に設定する事もできます。日付は * で設定します。その他の文字・記号はそのままの形で記録されます。また、CSVデータは1日分のデータを1ファイルとして変換します。

なお、変換後の高株価銘柄の単位は百円です、他の銘柄は全て1円単位です。平均株価とTOPIXの出来高の単位は百万株です、他の銘柄は全て千株単位です。

1. [設定] ボタンをクリックします。
2. ダイアログが表示され、設定変更できます。



3. [OK] ボタンをクリックして終了します。

1 4本値・出来高を修正しよう

銘柄別データとは、株価チャートを表示したり、分析の判定対象となるデータで、日足、週足、月足の株価データが記録されるデータファイルです。各銘柄毎に作成され、ファイルサイズは1銘柄あたり16,016バイトですので、3000銘柄で約50メガバイト消費されます。

日々データ→銘柄別データ変換で銘柄別データに株価データを追加することができます。

2 4本値・出来高を修正しよう

すでに記録されている銘柄別データを修正します。

なお、日足を修正すると自動的に週足、月足のデータも新しい日足で再計算されます。

1. 株価ボードで株価を修正する銘柄をクリックし、選択状態とします。

※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。



2. [銘柄別データ編集] ボタンをクリックします。

3. 足を選択するメニューが表示されます。修正するデータの足を選択します。

※足の選択は「株価編集」ダイアログ内でも変更することができます。

4. 「株価編集」ダイアログが表示されます。

日付	始値	高値	安値	終値	出来高	調整係数	コード番号
1998/10/02	226	226	225	225	3.00	1.00	1792
1998/10/05	225	225	225	225	1.00	1.00	銘柄名
1998/10/06	225	225	225	225	0.00	1.00	日東建
1998/10/07	230	245	230	245	7.00	1.00	市場
1998/10/08	245	245	245	245	0.00	1.00	東1
1998/10/09	243	243	243	243	1.00	1.00	足選択
1998/10/12	226	236	171	197	25.00	1.00	日足
1998/10/13	207	211	200	200	30.00	1.00	
1998/10/14	202	202	197	197	7.00	1.00	
1998/10/15	215	230	215	230	15.00	1.00	
1998/10/16	205	205	200	200	13.00	1.00	
1998/10/19	220	220	200	200	2.00	1.00	
1998/10/20	202	202	202	202	3.00	1.00	
1998/10/21	202	202	200	200	7.00	1.00	
1998/10/22	198	198	198	198	1.00	1.00	
1998/10/23	200	200	200	200	5.00	1.00	
1998/10/26	208	210	208	210	10.00	1.00	
1998/10/27	210	210	210	210	0.00	1.00	
1998/10/28	210	210	210	210	1.00	1.00	
1998/10/29	200	200	200	200	1.00	1.00	
1998/10/30	190	190	190	190	1.00	1.00	
1998/11/04	190	210	190	200	14.00	1.00	
1998/11/06	200	200	195	195	4.00	1.00	
1998/11/11	196	196	196	196	1.00	1.00	
1998/11/12	200	200	200	200	2.00	1.00	
1998/11/13	196	198	196	198	3.00	1.00	
1998/11/16	210	210	209	209	17.00	1.00	
1998/11/17	209	209	209	209	2.00	1.00	
1998/11/20	201	201	201	201	1.00	1.00	
1998/11/26	202	210	202	210	47.00	1.00	

5. データの一覧から、編集する日付のデータ（行）をクリックし、[修正] ボタンをクリックします。

※編集するデータをダブルクリックでもOK。

6. 「修正」ダイアログが表示されます。



日付	始値	高値	安値	終値	出来高	調整係数
1998/11/25	202	210	202	210	47.00	1.00

権利落ち(O) OK キャンセル

7. 修正を実行します。

8. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

9. 「株価編集」ダイアログに戻ります。

10. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

3 4 本値・出来高を追加しよう

何らかの都合でデータを取り込めなかった場合などは新聞等で株価を調べて、株価を入力することもできます。

1. 株価ボードで株価を追加する銘柄をクリックし、選択状態とします。
※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。

2. 「銘柄別データ編集」ボタンをクリックします。



3. 足を選択するメニューが表示されます。日足を選択します。
※週足データや月足データを追加することもできます。

4. 「株価編集」ダイアログが表示されます。

5. 「追加」ボタンをクリックします。

6. 「追加」ダイアログが表示されます。

日付	始値	高値	安値	終値	出来高	調整係数
1998/11/26	202	210	202	210	47.00	1.00

7. 追加する日付を選択します。
※既存の日付を選択すると、新しいデータで上書きされます。
※週足のデータを追加する場合は、金曜日の日付を選択します。
※月足のデータを追加する場合は、必ず月末の日付を選択します。

8. 4本値、出来高を入力します。

9. [OK]ボタンをクリックし、終了します。

10. 「株価編集」ダイアログに戻ります。

11. [OK]ボタンをクリックし、終了します。

4 特定の日付の株価データを削除するには

すでに存在する銘柄別データの1日(週、月)分のデータを削除します。これは単一の銘柄の1つのデータを指定して行うものです。複数の銘柄を一度に削除を実行したい場合は「株価データ」メニューの「データ期間指定削除」を実行した方が効率的です。

1. 株価ボードで株価を削除する銘柄をクリックし、選択状態とします。

※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。

2. 「銘柄別データ編集」ボタンをクリックします。



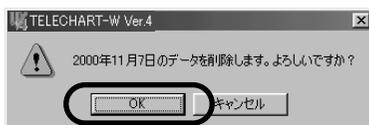
3. 足を選択するメニューが表示されます。削除するデータの足を選択します。

※足の選択は「株価編集」ダイアログ内でも変更することができます。

4. 「株価編集」ダイアログが表示されます。

5. データの一覧から、削除する日付のデータ(行)をクリックし、「削除」ボタンをクリックします。

6. 削除確認メッセージが表示されます。表示内容を確認し、「OK」ボタンをクリックします。



7. 「株価編集」ダイアログに戻ります。

8. 「OK」ボタンをクリックし、終了します。

5 調整計数を入力しよう

配当や増資が実施されてその分だけ株価が下落することを権利落ちと言います。権利落ちによって下落した分は市場の原理(需要と供給の関係によって株価が決まる原理)によって形成されたものではありません。従って株価移動平均などを算出する場合に権利落ち前と権利落ち後と同じ扱いで計算すると正しくない結果が出てしまいます。それではどのように計算したら正しい結果が得られるのでしょうか。

下に権利落ちがない場合と権利落ちがある場合の10日の株価移動平均の計算式を示します。

権利落ちがない場合

$$\text{株価移動平均} = \frac{\text{10日分の株価の合計}}{10}$$

権利落ちがある場合

$$\text{株価移動平均} = \frac{\text{権利落ち前の株価の合計} \times \text{調整係数} + \text{権利落ち後の株価の合計}}{10}$$

権利落ちがある場合は権利落ち前の株価に調整係数という係数をかけて株価を調整しています。

それでは調整係数とは何でしょうか。調整係数とは権利落ち前の株価に対する権利落ち後の株価の比を表す係数です。

$$\text{調整係数} = \frac{\text{権利落ち後の株価}}{\text{権利落ち前の株価}}$$

下に無償増資の場合の調整係数の算出式を示します。

$$\text{調整係数} = \frac{1}{1 + \text{旧株1株に対する新株割り当て数}}$$

例えば1株に対して0.1株の無償増資があったとすると調整係数は下記ようになります。

$$\text{調整係数} = \frac{1}{1 + 0.1} = 0.909$$

つまり1000円の株に0.1株/1株の無償増資があると909円になるわけです。増資の形態には無償増資の他にいろいろな形態があり調整係数の算出式はもっと複雑になりますがテレチャート・Wでは増資の諸条件を入力すれば内部で調整係数を自動的に計算します。

各企業がどういった増資を実施したかという情報は各企業が日本経済新聞等に公告として掲載しますのでそれを情報源として利用してください。

1. 株価ボードで調整計数を入力する銘柄をクリックし、選択状態とします。
※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。

2. [銘柄別データ編集] ボタンをクリックします。



3. 足を選択するメニューが表示されます。日足を選択します。
※調整係数を入力する日付が日足データの期間内に存在しない場合は週足を、週足データの期間内にも存在しない場合は月足を選択してください。

4. 「株価編集」ダイアログが表示されます。

日付	始値	高値	安値	終値	出来高	調整係数	コード番号
1998/10/02	226	226	225	225	8.00	1.00	1792
1998/10/05	225	225	225	225	1.00	1.00	
1998/10/06	225	225	225	225	0.00	1.00	
1998/10/07	230	245	230	245	7.00	1.00	
1998/10/08	245	245	245	245	0.00	1.00	
1998/10/09	243	243	243	243	1.00	1.00	
1998/10/12	226	236	171	197	25.00	1.00	
1998/10/13	207	211	200	200	30.00	1.00	
1998/10/14	202	202	197	197	7.00	1.00	
1998/10/15	215	230	215	230	15.00	1.00	
1998/10/16	205	205	200	200	13.00	1.00	
1998/10/19	220	220	200	200	2.00	1.00	
1998/10/20	202	202	202	202	3.00	1.00	
1998/10/21	202	202	200	200	7.00	1.00	
1998/10/22	198	198	198	198	1.00	1.00	
1998/10/23	200	200	200	200	5.00	1.00	
1998/10/26	208	210	208	210	10.00	1.00	
1998/10/27	210	210	210	210	0.00	1.00	
1998/10/28	210	210	210	210	1.00	1.00	
1998/10/29	200	200	200	200	1.00	1.00	
1998/10/30	190	190	190	190	1.00	1.00	
1998/11/04	190	210	190	200	14.00	1.00	
1998/11/06	200	200	185	188	4.00	1.00	
1998/11/11	196	196	196	196	1.00	1.00	
1998/11/12	200	200	200	200	2.00	1.00	
1998/11/13	196	198	196	198	3.00	1.00	
1998/11/16	210	210	209	209	17.00	1.00	
1998/11/17	209	209	209	209	2.00	1.00	
1998/11/20	201	201	201	201	1.00	1.00	
1998/11/25	202	210	202	210	47.00	1.00	

5. データの一覧から、調整計数を入力する日付のデータ（行）をクリックし、[修正] ボタンをクリックします。
※編集するデータをダブルクリックでもOK。

6. 「修正」ダイアログが表示されます。

7. [権利落ち] ボタンをクリックします。

日付	始値	高値	安値	終値	出来高	調整係数
1998/11/25	202	210	202	210	47.00	1.00

権利落ち(ⓧ) キャンセル

8. 「権利落ち」ダイアログが表示されます。



9. 権利落ちの原因として当てはまる項目に数値を入力します。

10. 「調整計数」に計算された調整計数値が表示されます。



11. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

12. 「修正」ダイアログに戻ります。[OK] ボタンをクリックします。

13. 「株価編集」ダイアログに戻ります。

14. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

6 銘柄別データをCSVファイルに出力しよう

銘柄別データの指定足のデータを表計算ソフトで利用できるCSV形式のファイルに変換します。

1. 株価ボードで株価を変換する銘柄をクリックし、選択状態とします。
※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。

2. [銘柄別データ編集] ボタンをクリックします。



3. 足を選択するメニューが表示されます。変換するデータの足を選択します。
※足の選択は「株価編集」ダイアログ内でも変更することができます。

4. 「株価編集」ダイアログが表示されます。

5. [CSV変換] ボタンをクリックします。

6. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。



7. 保存先を指定し、任意のファイル名を入力します。

8. [保存] ボタンをクリックします。変換が実行され、確認メッセージが表示されます。

9. 「株価編集」ダイアログに戻ります。

10. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

7 週足データを作成しよう

週足データは通常、データ取り込み実行時に自動的に作成されます。しかし、週の途中でその週の週足を見たい場合や、金曜日の取り込みがなく、木曜日の時点で週足を作成する場合など、強制的に週足を作成することができます。このような場合は、「最後の週を強制変換」を選択します。

「期間指定削除」で週足を全て削除した場合などは、「日足を週足に再変換」を選択します。

1. 「株価データ」メニュー→「銘柄別データ週足変換」→「最後の週を強制変換」の順にクリックします。
2. 変換が実行されます。
3. 終了メッセージが表示されます。

参考

週足の作成

週足は、金曜日の取り込み時に自動的に作成されます（金曜日に商いがない場合は、週明けの最初の取り込み日）。

8 月足データを作成しよう

月足データは通常、データ取り込み実行時に自動的に作成されます。しかし、月の途中でその月の月足を見たい場合など、強制的に月足を作成することができます。このような場合は、「最後の月を強制変換」を選択します。

「期間指定削除」で月足を全て削除した場合などは、「日足を月足に再変換」を選択します。

1. 「株価データ」メニュー→「銘柄別データ月足変換」→「最後の月を強制変換」の順にクリックします。
2. 変換が実行されます。
3. 終了メッセージが表示されます。

参考

月足の作成

月足は、月が変わったはじめの取り込み日に、前月の月足データを自動的に作成します。

9 特定の銘柄の銘柄別データをコピーしよう

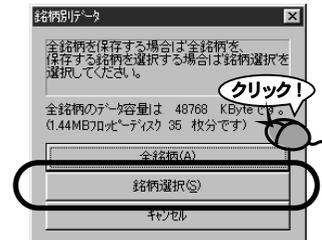
特定の銘柄の銘柄別データを、指定されたフォルダにコピーします。

全銘柄の銘柄別データをバックアップする場合は、『入門編 データのバックアップをしよう』を参照してください。

1. 「株価データ」メニュー→「銘柄別データ保存」の順にクリックします。

2. 「銘柄別データ」ダイアログが表示されます。

3. [銘柄選択] ボタンをクリックします。



4. 「銘柄選択」ダイアログが表示されます。保存を実行する銘柄を選択してください。



●銘柄を選択するには

1. 左側の「全銘柄リスト」から保存する銘柄をクリックし、選択状態とします。
2. [銘柄選択] ボタンをクリックします。
3. 右側の「選択された銘柄」リストに 1. で選択された銘柄が表示されます。

●まちがった銘柄を選択してしまった場合は

1. 右側の「選択された銘柄」リストから、選択を解除する銘柄をクリックし、選択状態とします。
2. [選択解除] ボタンをクリックします。
3. 「選択された銘柄」リストから該当する銘柄が削除されます。

●選択を全て解除するには

1. [全解除] ボタンをクリックします。

●銘柄を探すには

[コード] ボタンや [読み] ボタンをクリックし、呼び出し機能を使うと便利です。

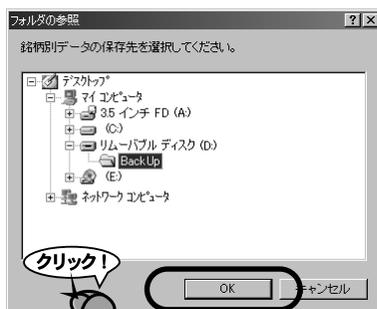
また、特定の市場の銘柄全てを選択状態にするには、各市場選択ボタンをクリックします。

5. 銘柄の選択が終了したら、[選択終了] ボタンをクリックします。



6. 保存先を指定するダイアログが表示されます。

7. 保存先を指定し、[OK] ボタンをクリックします。



8. ファイルのコピーが実行されます。

9. 終了メッセージが表示されたら完了です。

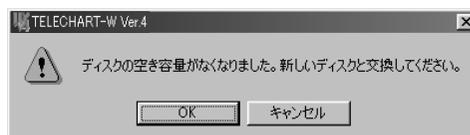


注意! 保存が終了しない!?

コピー中に「ディスクの空き容量がなくなりました。新しいディスクと交換してください。」というメッセージが表示されましたら、別のメディアに交換してください。

空き容量が十分あるにもかかわらずこのメッセージが表示された場合は、メディアのルート（階層の最上級）を保存先として指定しています。（例えば、3. の図でいうと「BackUp」ファイルでなく、リムーバブルディスクを選択した場合など）

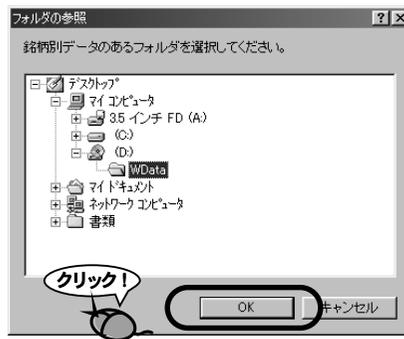
その場合、空き容量が十分にあってもWindowsのシステム上書き込めるファイル数に制限があるため、これ以上書き込むことができません。メディア内のファイルをすべて削除後、空のフォルダを作成し、フォルダ内にファイルを保存するようにしてください。



10 バックアップ済みの銘柄別データを読み込もう

バックアップしてあった銘柄別データを、テレチャート・Wで使えるようにします。この作業を実行しますと、それまで使用していた銘柄別データは全て削除され、読み込まれた銘柄別データに置き換わってしまいますので、ご注意ください。

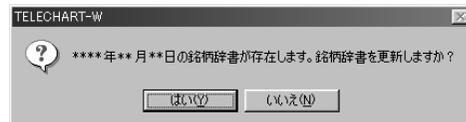
1. 「株価データ」メニュー→「銘柄別データ復帰」の順にクリックします。
2. 「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。
3. 銘柄別データが保存してあるフォルダを指定し、[OK] ボタンをクリックします。



4. 読み込み先の確認メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。

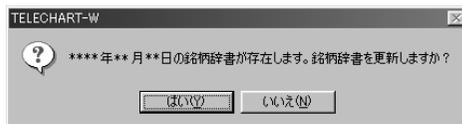


注意! 銘柄辞書の復帰



銘柄別データのコピー中または、コピー開始時に、指定されたフォルダ内に銘柄辞書が存在すると、銘柄辞書も同時に復帰するか訪ねるメッセージが表示されます。常に最新の銘柄辞書がテレチャート・W内に存在するように、必要に応じて復帰してください。銘柄辞書を復帰すると、それまで使用していた銘柄辞書が破棄され、読み込まれた銘柄辞書に置き換わります。

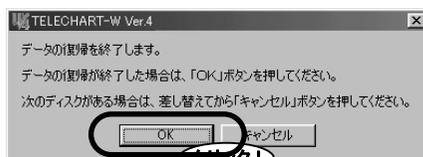
5. 銘柄辞書が読み込み先フォルダに存在する場合は、読み込みの確認メッセージが表示されます。必要に応じて読み込んでください。



6. 銘柄別データのコピーが実行されます。
※指定されたフォルダに存在する全ての銘柄別データを読み込みます。



7. フォルダに存在する全てのファイルが読み込まれると、読み込み終了メッセージが表示されます。
フロッピーディスクなど、複数のメディアに分けて保存されていた場合は、ディスクを入れ替えて[キャンセル]ボタンをクリックします。
それ以外の場合は、[OK]ボタンをクリックします。



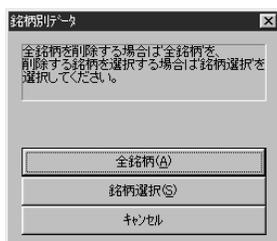
8. 終了メッセージが表示されます。



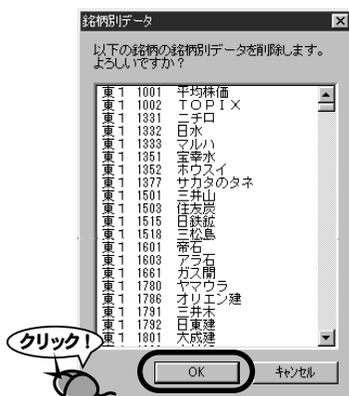
11 銘柄別データを削除する

銘柄別データを削除します。特に必要がない場合は実行しないでください。
銘柄別データを削除すると、その銘柄の日足・週足・月足の株価データは削除されます。ただし、銘柄辞書の登録は削除されません。

1. 「株価データ」メニュー→「銘柄別データ削除」の順にクリックします。
2. 「銘柄別データ」ダイアログが表示されます。
3. 全銘柄の銘柄別データを削除する場合は[全銘柄]、銘柄を選択する場合は[銘柄選択] ボタンをクリックします。



4. [銘柄選択] ボタンをクリックした場合は「銘柄選択」ダイアログが表示されますので、削除する銘柄を選択します。
※銘柄の選択方法は、『操作編 銘柄別データを管理しよう』9. 特定の銘柄の銘柄別データをコピーしよう』を参照してください。
5. 確認のため、削除を実行する銘柄の一覧が表示されます。
誤りがないことを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

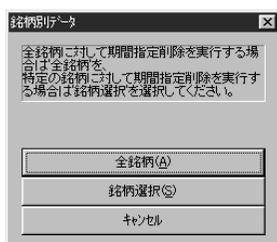


6. 銘柄別データの削除が実行されます。
7. 終了メッセージが表示されます。

12 銘柄別データの特定の期間を削除する

複数の銘柄の、ある日付からある日付までのデータを削除したいといった場合に実行します。

1. 「株価データ」メニュー→「データ期間指定削除」の順にクリックします。
2. 「銘柄別データ」ダイアログが表示されます。
3. 全銘柄の銘柄別データを削除する場合は[全銘柄]、銘柄を選択する場合は[銘柄選択] ボタンをクリックします。



4. [銘柄選択] ボタンをクリックした場合は「銘柄選択」ダイアログが表示されますので、削除する銘柄を選択します。
※銘柄の選択方法は、『操作編 銘柄別データを管理しよう「9. 特定の銘柄の銘柄別データをコピーしよう」』を参照してください。
5. 「銘柄別データ期間指定削除」ダイアログが表示されます。削除するデータの足と期間を設定します。



1. 削除するデータの足を選択します。「消去対象」から消去するデータの足を選択します。
2. 削除開始日を設定します。開始日で設定された日付も削除されますのでご注意ください。
3. 削除終了日を設定します。終了日で設定された日付も削除されますのでご注意ください。

6. [OK] ボタンをクリックします。
7. 期間指定削除が実行されます。
8. 終了メッセージが表示されます。

1 週残データの内容を確認しよう

週残データとは、「日々データメーカー」を起動してインターネットから取り込んだ1回分の信用残週末取引残高データで、データ取得時に1ファイルずつ作成され、売残・買残データが記録されています。信用残データを更新するのに使われるデータで、データ形式はテキストファイルとなっています。

週残データのファイル名には、記録されているデータの日付にYSがついていますので、ファイル名を見るだけでいつのデータであるかを判断することができます。

- ・例・ 1998年11月1日のデータの場合
- ・ ファイル名 = YS199811.01

テキストファイルですので、必要があればエディタ等(メモ帳)で内容を確認したり、編集することも可能です。ただし、間違った編集を行うとファイルが読み込めなくなったり、テレチャート・W自体の動作を不安定にする可能性があります。できる限り編集しない方がよいでしょう。

2 週残データの内容を確認しよう

過去に作成した日々データの内容を確認することができます。ここでは日々データを表示するだけで、編集はできません。

1. 「信用残データ」メニュー→「週残データ表示」の順にクリックします。
2. 「週残データ選択」ダイアログが表示されます。
3. 表示する週残データをクリックし、選択状態とします。



4. [表示] ボタンをクリックします。
※週残データをダブルクリックしてもOK。

5. 「週残データ表示」ダイアログが表示されます。

市場	コード	銘柄名	売残	買残	単位	日付
東	1.1301	株建	323	2081	1000	1998/10/16
東	1.1331	三井物	525	3039	1000	銘柄数
東	1.1332	日水	76	2593	1000	818
東	1.1333	マルバ	369	2652	1000	エラー銘柄数
東	1.1351	宝華水	432	601	1000	1
東	1.1377	サカタのタネ	56	63	1000	検索
東	1.1501	三井山	893	3884	1000	
東	1.1503	住友炭	2220	6048	1000	
東	1.1515	日鉄鉱	7	470	1000	
東	1.1519	三井物	34	823	1000	
東	1.1801	帝石	263	518	1000	
東	1.1803	アラス	17	144	1000	
東	1.1861	カス開	131	163	1000	
東	1.1780	ヤマワラ	2	15	1000	
東	1.1791	三井物	1	66	1000	
東	1.1801	大成建	6755	8251	1000	
東	1.1802	大林組	2088	3714	1000	
東	1.1803	清水建	1690	2003	1000	
東	1.1804	佐藤工	4255	4103	1000	
東	1.1805	飛島建	1839	2413	1000	
東	1.1806	フジタ	9204	10618	1000	
東	1.1808	長谷工	6158	6315	1000	
東	1.1809	富士工	497	445	1000	
東	1.1812	鹿島建	829	2924	1000	
東	1.1813	不動建	135	842	1000	
東	1.1814	大成建	389	695	1000	
東	1.1815	鉄建	323	1199	1000	
東	1.1816	安藤建	43	549	1000	
東	1.1823	住友建	276	1038	1000	
東	1.1824	前田建	220	649	1000	
東	1.1826	佐田建	10	84	1000	
東	1.1827	ナカノ	1252	1581	1000	
東	1.1828	

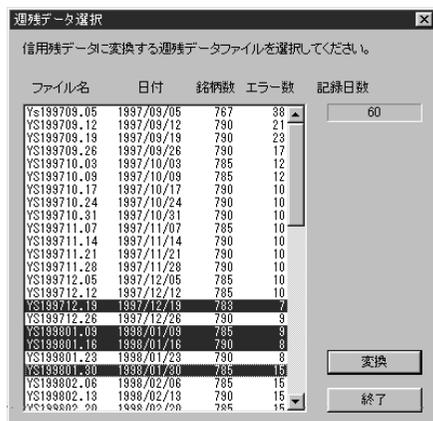
- ・「日付」
選択したデータの日付が表示されます。
- ・「銘柄数」
正常にデータが取り込まれた銘柄数が表示されます。
- ・「エラー銘柄数」
新規上場などで、コード番号がわからない銘柄数が表示されます。
- ・「検索」
コード番号検索を行います。エディットボックスに検索対象銘柄のコード番号を入力し、[コード] ボタンをクリックすると対象銘柄をリスト内に表示します。

6. [OK] ボタンをクリックして終了します。

3 週残データを信用残データに再変換しよう

「週残データ→信用残データ変換」は毎週一度、メニューから実行していただく必要があります。日々データメーカーを起動して週残データを取得後に実行する必要があります。

1. 「信用残データ」メニュー→「週残データ→信用残データ」の順にクリックします。
2. 「週残データ選択」ダイアログが表示されます。
3. 変換する週残データをクリックし、選択状態とします。
※なお、複数の週残データファイルを一度に変換することが可能です。複数のファイルを選択するには、キーボードの「C t r l」キーや「S h i f t」キーを押しながらクリックします。



4. [変換] ボタンをクリックします。
※週残データをダブルクリックしてもOK。
5. 変換が実行されます。



6. 終了メッセージが表示されます。



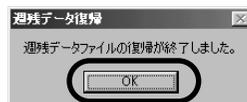
4 過去にバックアップした週残データを読み込もう

以前に「週残データ保存」を実行し、保存してある週残データを復帰します。

1. 「信用残データ」メニュー→「週残データ復帰」の順にクリックします。
2. 読み込む週残データを選択する「ファイル選択」ダイアログが表示されます。
3. 週残データが記録されているフォルダを開き、復帰する週残データファイルを選択します。
※なお、複数の週残データファイルを一度に変換することが可能です。複数のファイルを選択するには、マウスで囲ったり、キーボードの「C t r l」キーや「S h i f t」キーを押しながらクリックします。



4. [開く] ボタンをクリックします。
5. 復帰（ファイルコピー）が実行されます。
6. 終了メッセージが表示されたら完了です。



1 信用残データとは

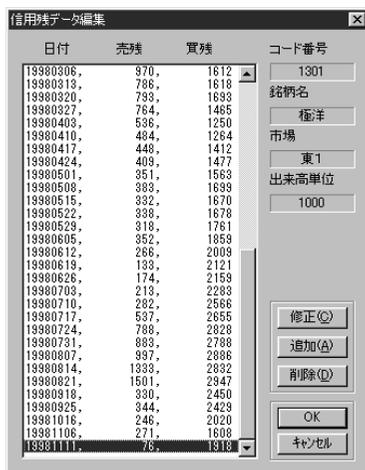
信用残データとは、毎週の売残、買残が記録されているデータファイルで、各銘柄毎に存在します。ファイルサイズは1銘柄あたり3,072バイトですので、1250銘柄で約3メガバイト消費されます。

信用残データは、株価チャートの表示に使用します。週残データ→信用残データ変換で信用残データに追加することができます。

2 売残・買残を修正しよう

すでに記録されている信用残データのデータを修正します。

1. 株価ボードで売残・買残を修正する銘柄をクリックし、選択状態とします。
※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。
2. 「信用残データ」メニュー→「信用残データ編集」の順にクリックします。
3. 「信用残データ編集」ダイアログが表示されます。



4. データの一覧から、編集する日付のデータ（行）をクリックし、[修正] ボタンをクリックします。

※編集するデータをダブルクリックでもOK。

5. 「修正」ダイアログが表示されます。



日付	売値	買値	出来高単位
1998/11/11	76	1918	1000

OK キャンセル

6. 修正を実行します。
7. [OK] ボタンをクリックし、終了します。
8. 「株価編集」ダイアログに戻ります。
9. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

3 売残・買残を追加しよう

データを取り込めなかった場合などは新聞等で株価を調べて、信用残データを入力することもできます。

1. 株価ボードで売残・買残を追加する銘柄をクリックし、選択状態とします。
※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。
2. 「信用残データ」メニュー→「信用残データ編集」の順にクリックします。
3. 「信用残データ編集」ダイアログが表示されます。
4. [追加] ボタンをクリックします。
5. 「追加」ダイアログが表示されます。



日付	売残	買残	出来高単位
1928 11 18	76	1918	1000

6. 追加する日付を選択します。
※日付は必ず金曜日の日付を設定してください。金曜日以外の日付を設定しますと、チャートにデータを表示することができません。
7. 売残・買残を入力します。
8. [OK] ボタンをクリックし、終了します。
9. 「信用残データ編集」ダイアログに戻ります。
10. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

4 特定の日付の売残・買残データを削除するには

すでに存在する信用残データの1週分のデータを削除します。これは単一の銘柄の1つのデータを指定して行うものです。複数の銘柄を一度に削除を実行したい場合は「信用残データ」メニューの「データ期間指定削除」を実行した方が効率的です。

1. 株価ボードで売残・買残を削除する銘柄をクリックし、選択状態とします。
※選択された銘柄は、銘柄名の欄が「緑」色に表示されます。
2. 「信用残データ」メニュー→「信用残データ編集」の順にクリックします。
3. 「信用残データ編集」ダイアログが表示されます。
4. データの一覧から、削除する日付のデータ（行）をクリックし、[削除] ボタンをクリックします。
5. 削除確認メッセージが表示されます。表示内容を確認し、[OK] ボタンをクリックします。



6. 「信用残データ編集」ダイアログに戻ります。
7. [OK] ボタンをクリックし、終了します。

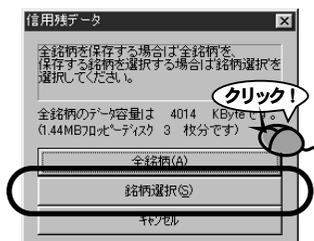
5 特定の銘柄の信用残データをコピーしよう

特定の銘柄の信用残データを、指定されたフォルダにコピーします。
全銘柄の信用残データをバックアップする場合は、『入門編 データのバックアップをしよう』
「3. バックアップをしよう」を参照してください。

1. 「信用残データ」メニュー→「信用残データ保存」の順にクリックします。

2. 「信用残データ」ダイアログが表示されます。

3. [銘柄選択] ボタンをクリックします。



4. 「銘柄選択」ダイアログが表示されます。保存を実行する銘柄を選択してください。



銘柄を選択するには

1. 左側の「全銘柄リスト」から保存する銘柄をクリックし、選択状態とします。
2. [銘柄選択] ボタンをクリックします。
3. 右側の「選択された銘柄」リストに 1. で選択された銘柄が表示されます。

まちがった銘柄を選択してしまった場合は

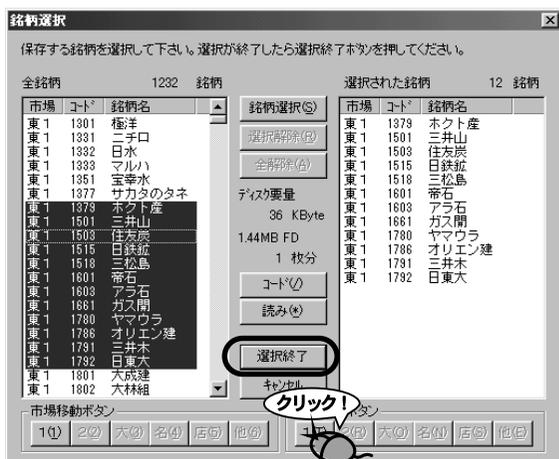
1. 右側の「選択された銘柄」リストから、選択を解除する銘柄をクリックし、選択状態とします。
2. [選択解除] ボタンをクリックします。
3. 「選択された銘柄」リストから該当する銘柄が削除されます。

選択を全て解除するには[全解除] ボタンをクリックします。

銘柄を探すには、[コード] ボタンや[読み] ボタンをクリックし、呼び出し機能を使うと便利です。

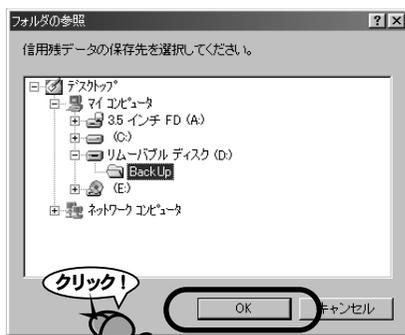
また、特定の市場の銘柄全てを選択状態にするには、各市場選択ボタンをクリックします。

5. 銘柄の選択が終了したら、[選択終了] ボタンをクリックします。



6. 保存先を指定するダイアログが表示されます。

7. 保存先を指定し、[OK] ボタンをクリックします。



8. ファイルのコピーが実行されます。

9. 終了メッセージが表示されたら完了です。



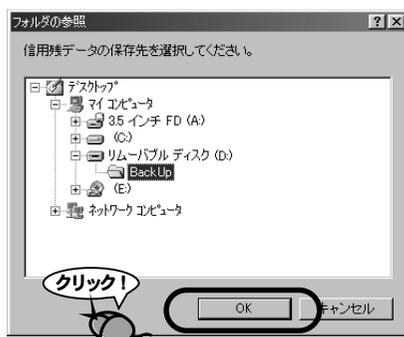
注意! 信用残データの保存フォルダ

信用残データの保存では保存先として選択されたフォルダ内に自動で¥YDDATBAKというフォルダを作成し、その中に信用残データファイルをコピーします。これはフロッピーディスクのルートディレクトリに保存する場合、ファイル数の制限に影響を受けないようにするためです。

6 バックアップしてあった信用残データを読み込もう

バックアップしてあった信用残データを、テレチャート・Wで使えるようにします。
この作業を実行しますと、それまで使用していた信用残データは全て削除され、読み込まれた信用残データに置き換わってしまいますので、ご注意ください。

1. 「信用残データ」メニュー→「信用残データ復帰」の順にクリックします。
2. 「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。
3. 信用残データが保存してあるフォルダを指定し、[OK] ボタンをクリックします。



参考

変換データ記録先の固定

「信用残データ保存」を実行すると保存先として指定したフォルダ内に¥YDDATBAKというフォルダを作成し、その中に信用残データファイルをコピーします。復帰元を指定する場合、この¥YDDATBAKというフォルダ自体を選択するか、このフォルダが存在するフォルダ（保存先として指定したフォルダ）を選択してください。

4. 読み込み先の確認メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。

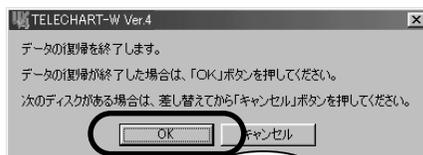


5. 信用残データのコピーが実行されます。

※指定されたフォルダに存在する全ての信用残データを読み込みます。



- 6. フォルダに存在する全てのファイルが読み込まれると、読み込み終了メッセージが表示されます。**
フロッピーディスクなど、複数のメディアに分けて保存されていた場合は、ディスクを入れ替えて[キャンセル]ボタンをクリックします。
それ以外の場合は、[OK]ボタンをクリックします。



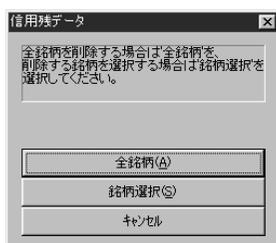
7. 終了メッセージが表示されます。



7 信用残データを削除する

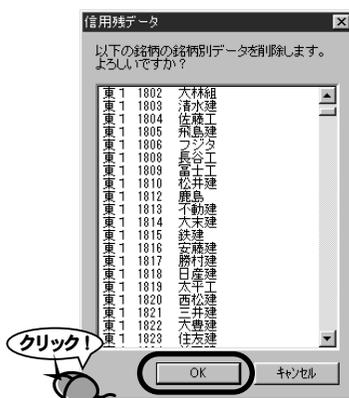
信用残データの削除を行います。特に必要がない場合は実行しないでください。信用残データを削除すると、削除した信用残データの銘柄のデータがなくなります。ただし、辞書の登録は削除されません。

1. 「信用残データ」メニュー→「信用残データ削除」の順にクリックします。
2. 「信用残データ」ダイアログが表示されます。
3. 蓄積されている全ての銘柄の信用残データを削除する場合は[全銘柄]、銘柄を選択する場合は[銘柄選択] ボタンをクリックします。



4. [銘柄選択] ボタンをクリックした場合は「銘柄選択」ダイアログが表示されますので、削除する銘柄を選択します。
※銘柄の選択方法は、『操作編 信用残データを管理しよう』5. 特定の銘柄の信用残データをコピーしよう』を参照してください。

5. 確認のため、削除を実行する銘柄の一覧が表示されます。誤りがないことを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

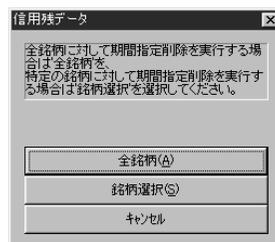


6. 信用残データの削除が実行されます。
7. 終了メッセージが表示されます。

8 信用残データの特定の期間を削除する

複数の銘柄の、ある日付からある日付までのデータを削除したいといった場合に実行します。

1. 「信用残データ」メニュー→「データ期間指定削除」の順にクリックします。
2. 「信用残データ」ダイアログが表示されます。
3. 蓄積されている全ての銘柄の信用残データを削除する場合は [全銘柄]、銘柄を選択する場合は [銘柄選択] ボタンをクリックします。



4. [銘柄選択] ボタンをクリックした場合は「銘柄選択」ダイアログが表示されますので、削除する銘柄を選択します。

※銘柄の選択方法は、『操作編 信用残データを管理しよう「5. 特定の銘柄の信用残データをコピーしよう」』を参照してください。

5. 「信用残データ期間指定削除」ダイアログが表示されます。削除する期間を設定します。



1. 削除開始日を設定します。開始日で設定された日付も削除されますのでご注意ください。
2. 削除終了日を設定します。終了日で設定された日付も削除されますのでご注意ください。

6. [OK] ボタンをクリックします。
7. 期間指定削除が実行されます。
8. 終了メッセージが表示されます。



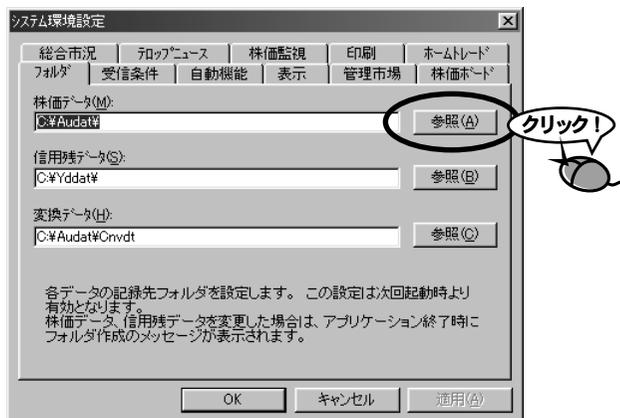
14. システム環境の変更

1 株価データフォルダを変更するには

株価データフォルダには、日々データや銘柄別データのデータファイルと、銘柄辞書ファイル等の各種システムファイルが記録されます。
ハードディスクがいっぱいになった等の特別な理由がなければ標準の設定のままご利用いただくことをおすすめします。

設定の変更は、テレチャート・W再起動後に有効になります。
設定を変更しますと、テレチャート・W終了時に確認メッセージが表示されます。

1. エクスプローラ等を使用し、移動先にフォルダを作成しておきます。
※エクスプローラの使い方等は、お使いのコンピュータに付属のマニュアル等を参照して下さい。
2. 「設定」メニュー→「システム環境」の順にクリックします。
3. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
4. 「株価データ」欄右側の [参照] ボタンをクリックします。
5. 「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。
1. で作成したフォルダを指定し、[OK] ボタンをクリックします。

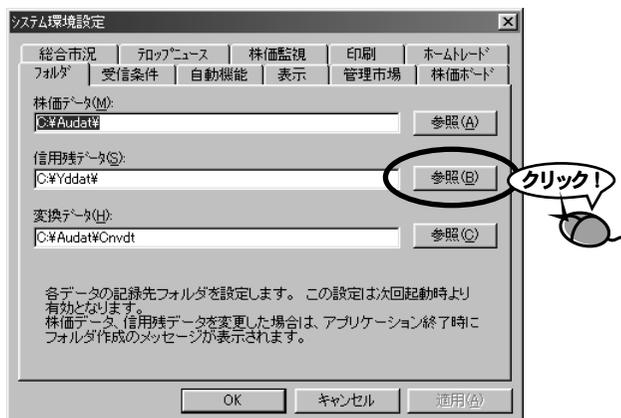


2 信用残データフォルダを変更するには

信用残データフォルダには、週残データおよび信用残データが記録されます。
ハードディスクがいっぱいになったなどの特別な理由がなければ標準の設定のままご利用いただくことをおすすめします。

設定の変更は、テレチャート・W再起動後に有効になります。
設定を変更しますと、テレチャート・W終了時に確認メッセージが表示されます。

1. エクスプローラ等を使用し、移動先にフォルダを作成しておきます。
※エクスプローラの使い方等は、お使いのコンピュータに付属のマニュアル等を参照して下さい。
2. 「設定」メニュー→「システム環境」の順にクリックします。
3. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
4. 「信用残データ」欄右側の [参照] ボタンをクリックします。
5. 「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。
1. で作成したフォルダを指定し、[OK] ボタンをクリックします。

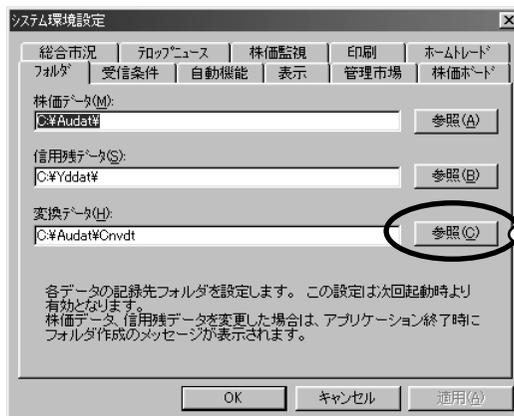


3 変換データフォルダを変更するには

変換データフォルダには、データ変換によって日々データから変換されたデータファイルが記録されます。

ハードディスクがいっぱいになったなどの特別な理由がなければ標準の設定のままご利用いただくことをおすすめします。

1. エクスプローラ等を使用し、移動先にフォルダを作成しておきます。
※エクスプローラの使い方等は、お使いのコンピュータに付属のマニュアル等を参照して下さい。
2. 「設定」メニュー→「システム環境」の順にクリックします。
3. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
4. 「変換データデータ」欄右側の「参照」ボタンをクリックします。
5. 「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。
1. で作成したフォルダを指定し、「OK」ボタンをクリックします。

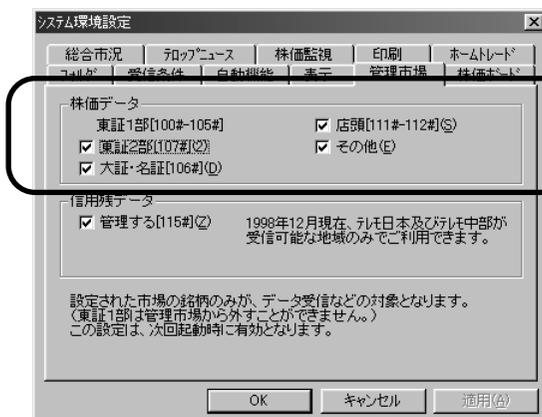


管理する市場を設定します。ここで設定された市場の銘柄の株価データが受信対象となります。設定されていない市場の銘柄は、データも記録されません。また、銘柄リストや株価ボードでも表示されません。
設定が変更された場合は、次回起動時から有効となります。

1 受信する市場を変更するには

管理する市場を設定します。JASDAQ 銘柄(店頭と表示)を取り込まないときや、東証1部のみを管理したいときは、ここで設定してください。「その他」は、マザーズやヘラクレス市場等の銘柄を管理したいときに設定してください。
東証1部は管理市場から外すことはできません。

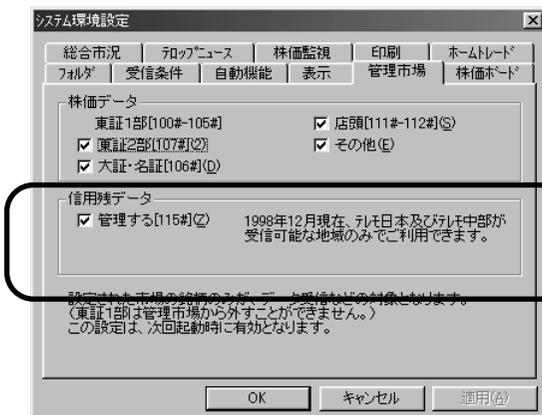
1. 「設定」メニュー→「システム環境」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
3. 「株価データ」の項目でチェックのある市場は現在管理市場に設定されています。
管理市場から外す場合はチェックを外し、管理市場に追加する場合はチェックを入れ、[OK] ボタンをクリックします。
※設定が変更された場合は次回起動時から有効となります。



2 信用残データの管理を設定する

信用残データの管理の有無を設定します。

1. 「設定」メニュー→「システム環境」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
3. 信用残を管理しない場合は「信用残データ」の項目で「管理する」のチェックを外し、管理する場合はチェックを入れ、[OK] ボタンをクリックします。
※設定が変更された場合は次回起動時から有効となります。

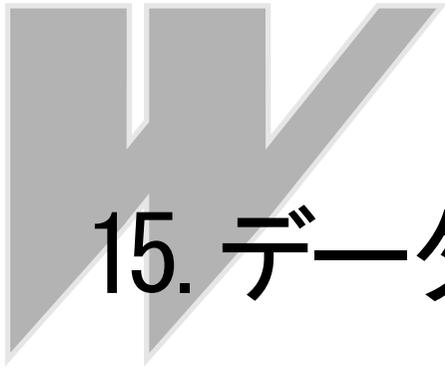


1 印刷時の用紙マージンを設定する

印刷する用紙の余白サイズを設定します。それぞれ上端、左端、下端、右端の設定が可能です。

1. 「設定」メニュー→「システム環境」の順にクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログが表示されます。
3. 上端、左端、下端、右端の余白の数値を入力し、[OK] ボタンをクリックします。





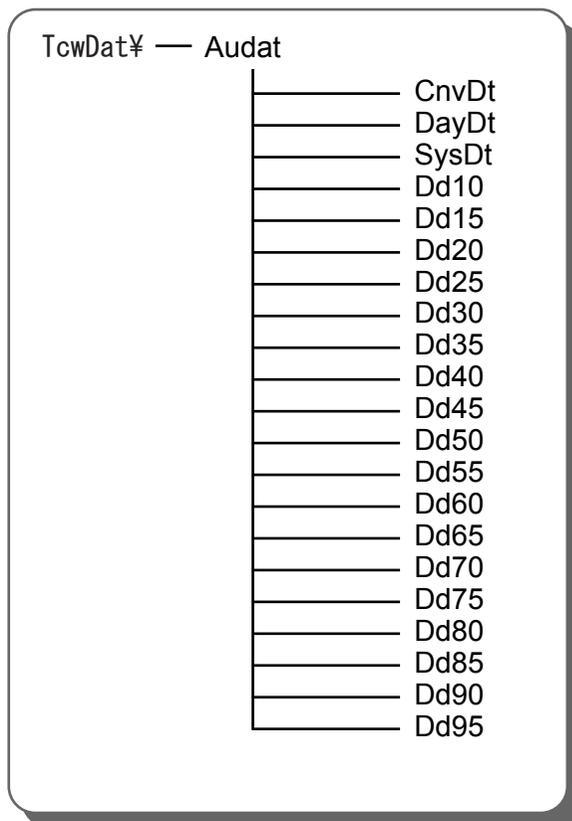
15. データフォルダ

1 銘柄別データのフォルダ構成

銘柄別データフォルダは以下の構成となっています（デフォルト設定の場合）。

C:\Documents And settings\ユーザー名\

My Documents\Systemc\（以下の構成は下図のように続きます）



- SysDt フォルダの中には銘柄辞書やグループファイルなどシステムを構成するファイルが入ります。
- DayDt の中には日々データが入ります。
- CnvDt の中にはデータ変換によって変換されたデータが入ります。
- Dd10～Dd95 の中には銘柄別データが入ります。

2 SysDt フォルダのファイル構成

Sysdt フォルダの中には銘柄辞書やグループファイルなどシステムを構成するファイルが入ります。

Audat¥SysDt

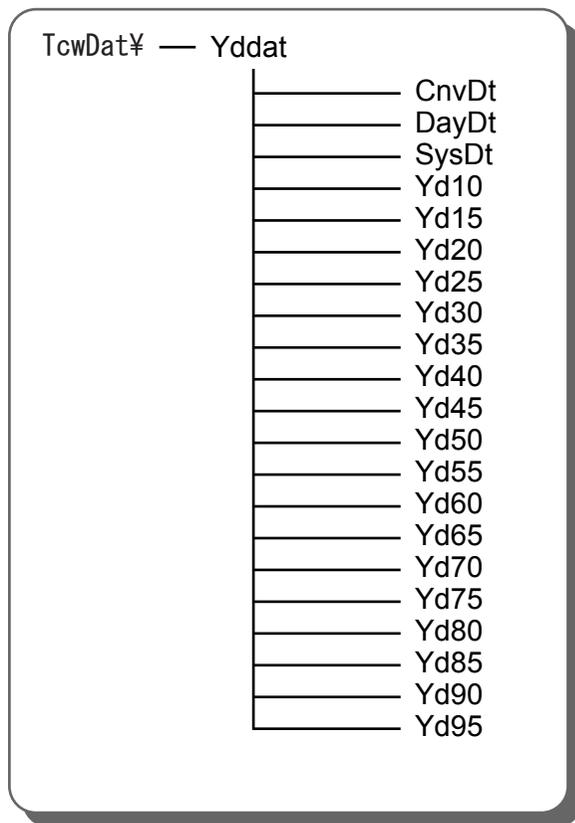
銘柄辞書ファイル	Mcode0. dat Mcode1. dat Mcode2. dat Mcode3. dat Mcode4. dat Mcode5. dat	東証 1 部銘柄辞書 東証 2 部銘柄辞書 大証銘柄辞書 名証銘柄辞書 その他市場銘柄辞書 J A S D A Q 銘柄辞書
分析データファイル	AnaDataD. dat AnaDataW. dat AnaDataM. dat	日足分析データ 週足分析データ 月足分析データ
分析クエリーファイル	*. sqi	*には分析クエリー名が入ります。
アラームログファイル	AlarmHis. dat	
ザラバデータファイル	Kbreal. hed Kbreal. dat	
銘柄グループファイル	*. mgr	*には銘柄グループ名が入ります。
データ変換銘柄情報ファイル	PlSel. dat	
エラー履歴ファイル	Ermei. dat	
受信済データ保存ファイル	RealTime. dat	
ホームページアドレスファイル	Urldata. udb	

3 信用残データのフォルダ構成

信用残データフォルダは以下の構成となっています（デフォルト設定の場合）。

C:\Documents And settings\ユーザー名\

My Documents\Systemc\（以下の構成は下図のように続きます）



- SysDt フォルダの中にはシステムファイルが入ります。
信用残リストファイル SyList.dat
- DayDtの中には週残データが入ります。
- CnvDtの中はとくに使用しません。
- Yd10～Yd95の中には信用残データが入ります。

1 ファイル名

Dsyyyyymm.dd ... 「yyyyymmdd」は年月日を示します。

2 フォーマット

日々データファイルはテキストファイルです。

行数		行数	行数
1 行目		62	データの日付 + スペース
2 行目	左の数値	4	銘柄コードが判明した銘柄数
	右の数値	57	銘柄コードが不明の銘柄数 + スペース
3 行目以降	1 番目の数値	4	銘柄コード
	2 番目の数値	1	市場 0:東1 3:名証 1:東2 4:その他 2:大証 5:JASDAQ
	3 番目の数値	12	銘柄名(シフトJIS)
	4 番目の数値	7	始値
	5 番目の数値	7	高値
	6 番目の数値	7	安値
	7 番目の数値	7	終値
	8 番目の数値	10	出来高

3 日々データの例

```

19950701
2535, 2,
1001, 0, 平均株価 , 19285, 19288, 19132, 19284, 390
1002, 0, T O P I X , 1519, 1519, 1506, 1517, 390
1301, 0, 極洋 , 408, 411, 394, 403, 223
.
.
.
9859, 3, ユーストア , 1700, 1700, 1700, 1700, 0
9863, 3, 靴マルトミ , 1250, 1250, 1230, 1700, 8.4
9868, 3, トリィ , 849, 850, 830, 830, 5
????, 2, 加地テク , 410, 410, 410, 410, 2
????, 1, 東美装 , 2200, 2300, 2100, 2300, 114
    
```

1 ファイル名

銘柄別データファイルは銘柄ごとに作られます。ファイル名は以下のようになっています。

DD01301 ... 極洋



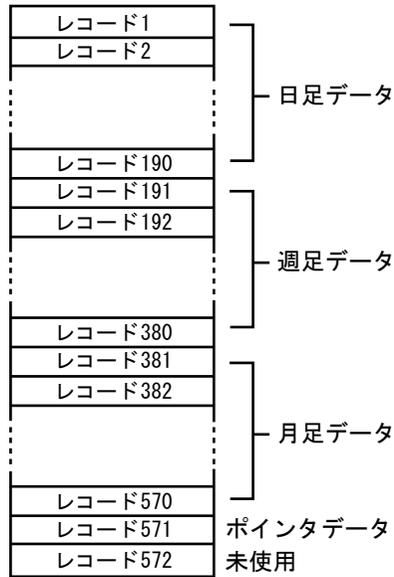
市場	
0	: 東証 1 部
1	: 東証 2 部
2	: 大証
3	: 名証
4	: その他の市場
5	: JASDAQ

銘柄コード1000から1499までのデータファイルは、サブフォルダDD10の中、銘柄コード1500から1999までのデータファイルは、サブフォルダDD15の中、というようにコード番号に応じてそれぞれのフォルダ内に格納されます。

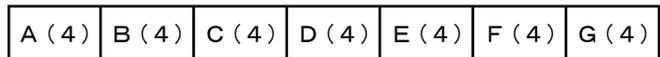
2 フォーマット

各銘柄ごとのファイルは以下のフォーマットで記録されます。

項目	仕様
ファイル形式	ランダムファイル
レコード長	28バイト
レコード数	572
ファイルサイズ	16016バイト/ファイル
レコードNo. 1-190	日足データ 190日分
レコードNo. 191-380	週足データ 190週分
レコードNo. 381-570	月足データ 190月分
レコードNo. 571	ポインタレコード
レコードNo. 572	未使用



3 レコードの構成



()内はバイト数を示します。

4 日足データ、週足データ、月足データ

符号	内容	データ型	例	単位
A	月日	長整数	19986031	
B	始値	長整数	950	円/百円
C	高値	長整数	1040	円/百円
D	安値	長整数	930	円/百円
E	終値	長整数	970	円/百円
F	出来高	単精度実数	450	千株/1株
G	権利落ち	単精度実数	1.0	

数値は I E E E形式です。

5 ポインタレコード

符号	内容	データ型
A	最も古い日足データが格納されているレコード番号	長整数
B	最も新しい日足データが格納されているレコード番号	長整数
C	最も古い週足データが格納されているレコード番号	長整数
D	最も新しい週足データが格納されているレコード番号	長整数
E	最も古い月足データが格納されているレコード番号	長整数
F	最も新しい月足データが格納されているレコード番号	長整数
G	未使用	

数値は I E E E 形式です。

例 1. データの数が190未満の場合

A = 2, B = 60 の場合はレコード 2 からレコード 60 に古い方から順に 59 日分のデータが存在することを示す。尚、データが 1 つもない場合は A、B とも 0 となる。

例 2. データの数が190の場合

A = 34, B = 33 の場合はレコード 34 からレコード 190 に 157 日分のデータが存在し、またその続きはレコード 1 からレコード 33 に 33 日分のデータが存在して合計で 190 日分のデータが存在することを示す。

1 ファイル名

Ysyyyyymm.dd ... 「yyyyymmdd」は年月日を示します。

2 フォーマット

週残データファイルはテキストファイルです。

行数		行数	行数
1 行目		48	データの日付 + スペース
2 行目	左の数値	4	銘柄コードが判明した銘柄数
	右の数値	43	銘柄コードが不明の銘柄数 + スペース
3 行目以降	1 番目の数値	4	銘柄コード
	2 番目の数値	1	市場 0: 東 1 3: 名証 1: 東 2 4: その他 2: 大証 5: JASDAQ
	3 番目の数値	12	銘柄名 (シフト JIS)
	4 番目の数値	10	売り残
	5 番目の数値	10	買い残
	6 番目の数値	6	単位 (1000 or 1)

3 週残データの例

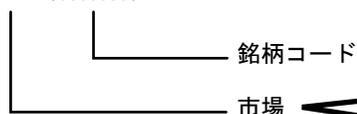
```

19981120
1060, 1,
1301, 0, 極洋, , 401, 1480, 1000
1331, 0, ニチロ, , 1519, 1519, 1000
1301, 0, 日水, , 408, 411, 1000
.
.
.
9984, 0, ソフトバンク, , 667, 1347, 1000
9987, 0, スズケン, , 5, 24, 1000
????, 0, 山村硝, , 30, 1656, 1000,
    
```

1 ファイル名

信用残データファイルは銘柄ごとに作られます。ファイル名は以下のようになっています。

Y D 0 1 3 0 1 ... 極洋



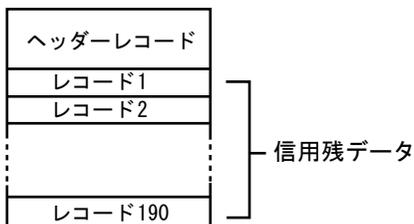
市場	0 : 東証 1 部
	1 : 東証 2 部
	2 : 大証
	3 : 名証
	4 : その他の市場
	5 : JASDAQ

銘柄コード1000から1499までのデータファイルは、サブフォルダY D 10の中、銘柄コード1500から1999までのデータファイルは、サブフォルダY D 15の中、というようにコード番号に応じてそれぞれのフォルダ内に格納されます。

2 フォーマット

各銘柄ごとのファイルは以下のフォーマットで記録されます。

項目	仕様
ファイル形式	ランダムファイル
ヘッダーレコード長	28バイト
データレコード長	16バイト
データレコード数	190
ファイルサイズ	3068バイト/ファイル
レコードNo. 1-190	信用残データ190週分



3 レコードの構成

A(4)	B(4)	C(4)	D(4)
------	------	------	------

()内はバイト数を示します。

4 日足データ、週足データ、月足データ

符号	内容	データ型	例	単位
A	月日	長整数	19986031	
B	売残	単精度実数	950	1000株
C	買残	単精度実数	1040	1000株
D	空	長整数		

数値は I E E E 形式です。

5 ヘッダーレコード

符号	内容	データ型	例
A	最大レコード数	整数	190
B	最古レコードNO	整数	1
C	最新レコードNO	整数	65
D	単位フラグ	整数	0 or 1
E	空	長整数	
F	空	長整数	
G	空	長整数	
H	空	長整数	
I	空	長整数	

数値は I E E E 形式です。

例 1. データの数が 190 未満の場合

B = 2, C = 60 の場合はレコード 2 からレコード 60 に古い方から順に 59 日分のデータが存在することを示す。尚、データが 1 つもない場合は B, C とも 0 となる。

例 2. データの数が 190 の場合

B = 34, C = 33 の場合はレコード 34 からレコード 190 に 157 日分のデータが存在し、またその続きはレコード 1 からレコード 33 に 33 日分のデータが存在して合計で 190 日分のデータが存在することを示す。

1 ファイル名

ファイルは市場別に5つ存在します。存在場所は株価データと同じフォルダのSysDtフォルダ(デフォルトは¥Audat¥SysDt)です。

東証1部	Mcode0.dat
東証2部	Mcode1.dat
大証	Mcode2.dat
名証	Mcode3.dat
その他市場	Mcode4.dat
JASDAQ	Mcode5.dat

2 フォーマット

各銘柄ごとのファイルは以下のフォーマットで記録されます。

項目	仕様
ファイル形式	ランダムファイル
レコード長	28バイト/レコード

レコード1
レコード2
レコード3
...
レコードn-1
レコードn

3 レコードの構成

A (2)	B (12)	C (15)	D (1)
-------	--------	--------	-------

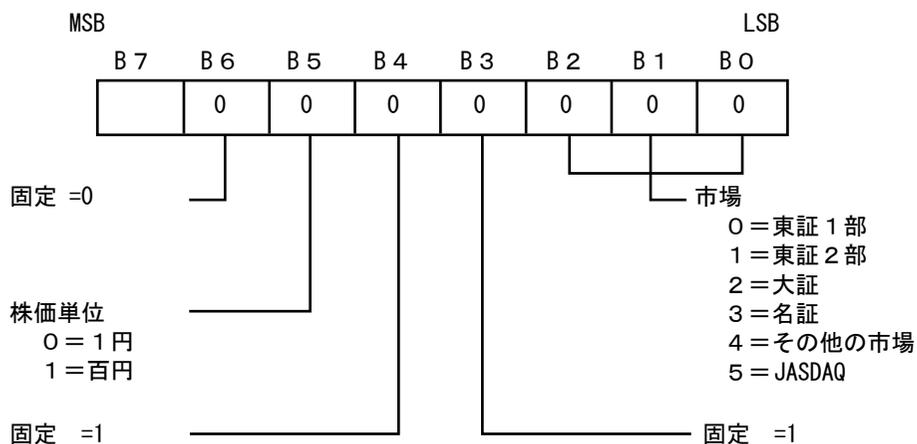
()内はバイト数を示します。

4 レコード詳細

符号	内容	データ型	バイト数	例	備考
A	銘柄コード	正数	2	1801	
B	銘柄名	文字	12	大成建	全角6文字
C	読み	文字	15	タセイクセツ	半角15文字
D	識別フラグ	文字	1		半角1文字

数値はI E E E形式です。日本語文字はシフトJIS形式です。

5 識別フラグ詳細



5 データの並びの設定 (全市場の場合)

1. [データの並び]の[▼]ボタンをクリックしてください。
2. 任意の並び順をクリックして設定してください。

6 出来ず銘柄のデータ出力設定

1. [データ出力]の[▼]ボタンをクリックしてください。
2. 出力するかしないかをクリックして設定してください。

7 ファイル名の設定

作成されるシーケンシャルファイルのファイル名を設定します。日付をファイル名に使用することにより毎日違ったファイル名で登録することができます。日付を使用せず任意のファイル名に設定することもできます。

日付は「*」(アスタリスク)で設定します。

その他の文字・記号はそのままの形で記録されます。

● 設定例

受信データの日付または取り込み実施日が 19981101 の時

・日付 (西暦桁数) 2 桁の場合

設定例		ファイル形式
DS*. PRN	→	DS981101. PRN
*H. DAY	→	981101H. DAY
KABU1. DT	→	KABU1. DT

・日付 (西暦桁数) 4 桁の場合

設定例		ファイル形式
DS*. PRD	→	DS19981101. PRN
*H. DAY	→	19981101H. DAY
KABU1. DT	→	KABU1. DT

8 第1レコード(ヘッダーレコード)のフォーマット設定

第1レコードでは記録されるデータの銘柄数及びデータの日付等を指定する事ができます。以下のパラメータを使用してフォーマットの設定を行ってください。

銘柄数、日付のバイト数(桁数)を設定する場合は、パラメータの後に設定したいバイト数(桁数)1~9を入力してください。それぞれのデータが左詰めで記録され残りの部分はスペースが書き込まれます。

指定したバイト数(桁数)がデータの文字数より少ない場合はデータの左から指定したバイト数(桁数)分を記録します。バイト数(桁数)を指定しない場合は、パラメータの後に数字の0を入力してください実数をそのまま文字列として記録します。

銘柄数[バイト数]	m[0~9]
日付[バイト数]	n[0~9]
改行コード(CR)	=
ラインフィード(LF)	+
設定終了コード	e

● 設定例

銘柄数 = 1250、日付 = 19981101 の場合

・日付(西暦桁数)2桁の場合

設定例	ファイル形式
m5n6=+e	1250 960501
m2n4000¥=+e	12 9605 000¥
19n6m4=+e	19960501 1250
デ-タスクm0, ヒツケn0=+e	KABU1.DT

・日付(西暦桁数)4桁の場合

設定例	ファイル形式
m5n6=+e	1250 199811
m2n4000¥=+e	12 1998000¥
デ-タスクm0, ヒツケn0=+e	デ-タスク1250, ヒツケ19981101

注意!

パラメータの設定は必ずアルファベットの小文字で入力してください。パラメータの後はバイト数を指定する数値(0-9)を必ず指定してください(数値がない場合はパラメータとして認識されません)。コメントなどを入力する場合は上記パラメータと同じ文字を使用しないでください。設定終了コード“e”を忘れずに付けてください。

9 第2レコード以降のフォーマット設定

第2レコード以降で記録する銘柄別株価データのフォーマットを設定します。パラメータはアルファベットの小文字で入力してください。パラメータの後に数字の1~9を指定することにより記録するデータのバイト数(桁数)を設定することができます。設定したバイト数(桁数)がデータの文字数より多い場合はデータは左詰めで記録され残りの部分はスペースで記録されます。設定したバイト数(桁数)がデータの文字数より少ない場合はデータの左から指定したバイト数(桁数)分だけをを記録します。バイト数を指定しない場合はパラメータの後に数字の0を入力してください。実数をそのまま文字列として記録します。(銘柄名と市場のパラメータは設定内容が他と異なります。)

コード番号[バイト数]	c [0~9]
始値[バイト数]	h [0~9]
高値[バイト数]	t [0~9]
安値[バイト数]	y [0~9]
終値[バイト数]	o [0~9]
出来高[バイト数]	d [0~9]
銘柄名[数値]	k [0, 1] k 0→全角の文字数分で記録します。 k 1→12バイトの桁数内に左詰めで記録します。
市場[数値]	s [0, 1] s 0→それぞれの市場をアルファベット1文字で記録します。 東証1部=T 東証2部=T 大証=O 名証=N JASDAQ=S s 1→全角の文字数(4バイト)で記録します。 東証1部=東1 東証2部=東2 大証=大証 名証=名証 JASDAQ=店頭
改行コード(CR)	=
ラインフィード(LF)	+
設定終了コード	e

● 設定例

コード番号 = 1301 銘柄名 = 極洋 市場 = 東 1
始値 = 528 高値 = 550 安値 = 525 終値 = 546 出来高 = 1433

設定例 c4h6t6y6o6d8=+e

記録例 1301528 550 525 546 1433

設定例 c0, k1, h0, t0, y0, o0, d0=+e

記録例 1301, 極洋 , 528, 550, 525, 546, 1433

設定例 c6k000h400t400y400o400d4=+e

記録例 1301, 極洋00528 00550 00525 00546 001433

設定例 c4, s0, h6, t6, y6, o6, d0=+e

記録例 1301, 東 1 , 528 , 550 , 525 , 546 , 1433

注意!

パラメータの設定は必ずアルファベットの小文字で入力してください。パラメータの後はバイト数を指定する数値(0~9)を必ず指定してください(数値がない場合はパラメータとして認識されません)。コメントなどを入力する場合は上記パラメータと同じ文字を使用しないでください。設定終了コード“e”を忘れずに付けてください。



16. 困ったときには

Q: セットアップができない

A: セットアッププログラムが起動できなかつたり、セットアップの途中でエラーメッセージが表示され正常に終了できないような場合は、以下の点を確認後、もう一度セットアップを行ってください。

※ハードディスクに十分な空き容量があるか確認してください。

※Windowsを再起動して、実行中のアプリケーションをすべて終了させてください。

Q: テレチャート・Wが起動しない

A: 使用期限内でしょうか？

テレチャート・Wには一年間の使用期限が設定されています。もし、使用期限を超えている場合にはキーコードをお求めいただき、起動時に入力してください。

A: メモリの容量は十分でしょうか？

多くのアプリケーションを実行している状態ではメモリ不足になる可能性があります。実行中のアプリケーションをすべて終了させるか、Windowsを再起動してテレチャート・Wを単独で起動してください。

A: ハードディスクの空き容量は充分でしょうか？

物理メモリを補うためにWindowsでは、仮想メモリとしてハードディスクを利用します。したがって、ハードディスクの空き容量が不足するとメモリ不足と同様の結果を招きます。ハードディスクに十分な空き容量があるか確認してください。

A: インターネットへの接続はできるでしょうか？

本ソフトはインターネットへの接続が不可欠です。IE（インターネットエクスプローラ）等を起動してyahoo!JAPANなどのページを見ることが出来るかどうかをご確認ください。

Q: 株価ボードにデータが入ってこない

A: 「Web Fetcher」のステータス表示が「株価取得中・・・」「時間待ち」を繰り返していますか？

「Web Fetcher」は起動時は最小化されていますので、タスクバーにある「Web Fetcher」をクリックして確認してください。「株価取得中・・・」「時間待ち」を繰り返していましたが、株価ボード右のスクロールバーを操作して他の銘柄を閲覧してください。受信済みの銘柄が見つかると思います。（銘柄グループを「全銘柄」にして確認してください）

Q: 株価ボードに表示されている時間が20分以上遅れている？

A: テレチャート・Wはディレイ情報といわれる株価情報にアクセスします。ディレイ情報は、常に20分の遅れがあります。リアルタイム情報が必要な方はご相談ください。

Q: データ取り込みを実施しても受信が進行しない
A: 「銘柄別データ追加」を実行して株価データを取り込む場合は、ソフト上からデータの“確定する時間”を確認して取り込みを行います。通常は取り込みは、午後5時以降になります。

Q: データの受信を忘れてしまった
A: 日々データメカを起動し、忘れてしまった日を指定して株価データを取得してください。更に、株価データ取得後にメニューの「株価データ」→「日々データ→銘柄別データ」をクリックしてデータ変換を行ってください。

Q: 旅行などで長期で留守にするときの受信方法は
A: 無人の状態でも設定した時間にデータ取り込みを実行する「内部タイマー」機能を利用すれば、留守中でもデータを取り込むことが可能です。ただし、内部タイマーはコンピュータの電源を入れたままの状態にしておかなければなりませんので、留守中のトラブル(発火など)には十分ご注意ください。長期にわたる場合は、後日日々データメーカーや銘柄別データメーカーを起動してデータを取得することをおすすめします。(内部タイマーをご利用の際は、万が一の発火防止のためモニターの電源を必ずOFFにしておいてください)。

Q: 分析データ表示で株価と出来高しか表示されない
A: 分析データ表示は、各指標の計算条件に従って計算された結果が表示されます。蓄積されたデータの日数(週、月)が計算条件に満たない場合は計算されません。計算条件とデータの蓄積数を確認してください。

Q: 表示設定してあるのに表示されないチャートがある
A: データの蓄積量が十分にあり、一部の指標のみが表示されない場合は、「株価チャート表示設定」ダイアログの表示チェックがOFFの可能性があります。「長期」や「短期」の設定項目のある指標は、「長期」や「短期」のチェックをONにする必要があります。また、分析データ表示と同様に計算条件の設定日数が大き過ぎる場合やデータの蓄積数が設定数に満たない場合も表示されません。

Q: 株価ボードの表示銘柄をもっと多くしたい
A: ウィンドウを最大化、あるいはウィンドウサイズを大きくしてください。ウィンドウを最大化するには、ウィンドウ右上隅の口印のボタンをクリックしてください。ウィンドウサイズを大きくするには、ウィンドウの枠にマウスカーソルを合わせ、マウスカーソルが両端矢印に変わったときにマウスの左ボタンを押しながらマウスを移動して、任意の位置でボタンを離してください。
A: 株価ボードのサイズを小さいサイズに変更してください。「設定」メニューの「株価ボード」から「サイズ1」を選択してください。一つ一つの株価ボードは小さくなりますが、一画面に表示される銘柄数は多くなります。

Q： 株価ボードでいつも同じ銘柄だけデータが表示されない

A： 他の銘柄のデータは受信できているが、いつも決まった銘柄のデータが表示されない、または、データが更新されないなどの状況が起きた場合は、以下のような原因が考えられます。

※その銘柄は上場廃止や合併などがありインターネット上にデータが存在しない。

※その銘柄は上場先が変更された。

以上のような場合は、「銘柄メンテナンス」で銘柄情報を変更する必要があります。

※その銘柄は商いが薄いため値が付かない。

この様な場合は、異常ではありませんが念のため「銘柄情報」で受信日付と更新時刻を確認してください。

Q： 株価ボードに見たい銘柄が表示されない

A： 株価ボードをスクロールしても目的の銘柄が見つからない場合は、以下の確認をしてください。

※選択されている銘柄グループに目的の銘柄が登録されていますか？

銘柄グループを「全銘柄」にして探してください。

※新しく上場した銘柄で、銘柄辞書への登録は済みましたか？

新しく上場した銘柄はそのままでは表示されません。「銘柄メンテナンス」で銘柄辞書への追加登録が必要です。また、社名変更後の新しい銘柄も同じように「銘柄メンテナンス」で社名変更処理をする必要があります。

Q： 新しく上場された銘柄の情報を確認するには？

A： 新しく上場される銘柄は、銘柄辞書ファイルに追加登録しなければなりません。弊社ホームページ上のサポートメニューから銘柄メンテナンスを選択してコード番号等を確認していただきテレチャート・Wを起動して「銘柄メンテナンス」を実施してください。「追加」処理によってコード番号を登録してください。登録が終了し、「銘柄メンテナンス」を終了するとその銘柄は、銘柄辞書に追加されますので、一度テレチャート・Wを終了してください。次回起動時から株価ボードなどで情報を見ることができます。

Q： 株価ボードに表示される時間と現在の時間が違う

A： 株価ボードに表示される時間は、表示されている株価をつけた時間です。したがって、現在の時間より遅れた時間が表示されます。

Q： 株価ボードに出来高が表示されない。

A： 出来高表示は、時間表示との切替になりますので、出来高表示へ切り替えてください。

Q： 見たい銘柄を簡単に探すには？

A： 任意の銘柄を探すには、コード番号、銘柄名、読みがなのいずれかで検索することができます。コード番号検索では、上2桁しか判らない場合でも上2桁に含まれる銘柄をリストアップしますので、リストの中から探すことで簡単に目的の銘柄を探し出すことができます。

Q： 「銘柄メンテナンス」は必ず実施しなければならないのか？

A： 株式の市場は常に変動しています。特にJASDAQ市場などは頻繁に新しい銘柄が上場されています。「銘柄メンテナンス」は必ず実施しなければならないということはありませんが、長期間放って置くと、「いつの間にか数十銘柄に溜まっていた」というような結果になってしまいます。分析結果にも影響を及ぼすこととなりますので気をつけておきましょう。

Q： 「銘柄メンテナンス」で「読みがな」は何のために入力しますか？

A： 読みがなは読みがなで検索するために利用します。読みがなには半角の英数カタカナ文字を15文字以内で入力してください。読みがなは利用者で任意に変更しても構いませんが、銘柄辞書ファイルを上書きすると設定内容は書き変わってしまいます。

Q： 「銘柄メンテナンス」の「株価単位」と「出来高単位」は何を基準に設定しますか？

A： テレチャート・Wでは、株価や出来高の数値を6桁で表示するように設計されています。そのために額面5万円の銘柄は、株価が高額になり表示の桁数を超える場合があります。このような銘柄は、データを取り込む際に、予め設定された単位に処理されます。額面5万円の銘柄は株価を100円単位に、出来高を1株単位に設定して他の銘柄とのバランスをとります。他の銘柄は、株価を1円単位に、出来高を1000株単位に設定してください。

Q： 「銘柄メンテナンス」で単位の変更を行えば、過去のデータも単位変更されますか？

A： 単位が変更されるのは、設定以降に取り込まれるデータに限られます。したがって、過去のデータは取り込まれたときに設定されていた単位のままです。銘柄別データメーカーを起動し、銘柄コードを指定して該当銘柄のデータを書き換えていただくとういでしょう。

Q： 「銘柄メンテナンス」で銘柄名を判りやすい名前に変更してもいいですか？

A： 6文字以内であれば判りやすい名前に変更しても構いません。但し、変更後に弊社ホームページから銘柄辞書をダウンロードしてご使用いただいた場合には、弊社側で決定した内容に書き換わってしまいますのでご注意ください。

Q： 証券コードを間違えて登録してしまった、正常に戻すには？

A： 「銘柄メンテナンス」で間違った銘柄を選択して[修正]ボタンを押し、「銘柄修正」ダイアログで正しいコード番号を入力してください。

保証と責任の範囲

システックは本マニュアルに記載された製品に対し、明示または黙示の品質、性能、商品価値、またはどのような特定の使用目的に対する適合性についても、その保証はいたしません。システックは本ソフトウェア、マニュアルの欠陥の結果発生する直接、間接、特別、偶然、または必然的な損害について、仮に当該損害が発生すると告知されていた場合でも、一切の責任を負いません。当社はプログラムまたはデータの回復に要する費用について一切の責任を負いません。

輸出する際の注意事項

本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合当社は一切責任を負いかねます。

ユーザーズマニュアル

TELECHART-W Ver. 4 【操作編】

平成18年 3月 1日 初版第1刷発行

発行 株式会社システック

愛知県東海市名和町後西20-2

2006 SYSTEC. All Rights Reserved.

本書の内容に関して将来予告なしに変更することがあります。本文中の製品名および社名などは、各発売元または開発メーカーの商標または登録商標です。本書の一部または全部を著作権法の定める範囲を越え、無断で複写、複製、転載、テープ化、ファイルに落とすことを禁じます。